

洋学文庫
文庫 8
C 507
1



文字改革論ノ未ダ卒カニ行フベ

カラザルヲ論ズ

自由説

日用叢話二編

記義猴事

義鶴詩

信夫堂

同人社文學雜誌

第三號

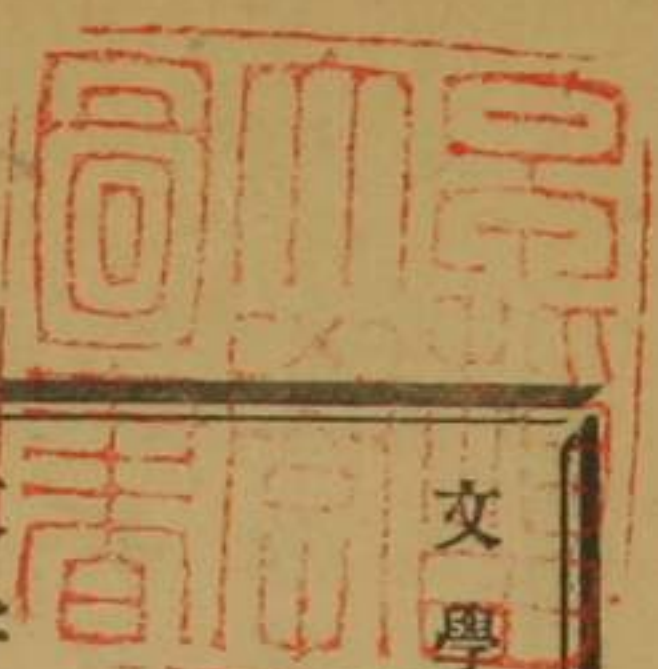


1. The sleeping fox catches no poultry,
and there will be sleeping enough in the
grave.
2. Dost thou love life? then do not
squander time, for that's the stuff life is
made of.

2 1

睡狐ハ、隻禽ヲ得ル能ハズ、
故ニ貪睡セント欲セバ、墓
中ニ於テ足レリ、
汝生命ヲ愛スルカ、然ラバ、
時間ヲ浪費スル勿レ、時間
ハ。生命ヲ造ル元素ナリ、

右富蘭林ノ「フル、リナヤルド」
ニ出ツ



文學

雜誌第三號

明治九年八月十二日刊行

中島雄

○文字改革論ノ未^ニ卒カニ行フベカラザルヲ論ス

中島雄

文字ヲ改革スルノ論ハ、當今要重ノ任ニ當リ、嘗テ才學優長
ノ聞エアル、某氏ノ説ニ昉レリ、ソノ畧ニ曰ク、假名ハ、本漢字
ノ畧躰ナレトモ、習用既ニ久シク、且ツ便宜ナルガ故ニ、コレヲ
一定ノ國字トシ、古今雅俗及ビ漢洋ノ語ニ通ズル學者ヲ集
メ、討論講究シテ、文法ヲ定メ、國字ニテ、萬有ノ典籍ヲ撰ビ、以
テ人民ヲ教育シ、漢籍ニテモ、洋書ニテモ、諸學科有用ノ書ハ、
悉ク國字ニ以テ、コレヲ翻譯シ、廣ク天下ニ分與スベシトノ
論ヲ立テラレテヨリ、世ノ論者、コレニ左袒スル者、尠カラズ、
今ニ至リテモ、往々ソノ説ヲ唱フル者アリ、然レトモ、余ヲ以テ

文學雜誌 第三號

之ヲ觀ルニ、文字改革論ハ、未ダ卒カニ行フベカラザルナリ、何コトナレバ、天下何レノ國ヲ論ゼズ、人ハソノ母ノ胎内チ出デコノ世ノ空氣ニ呼吸スルヨリ、ソノ母ノトング、即ハチソノ生國ノ國辭ヲ習ヒ、三年父母ノ懷ヲ離ル、頃ニハ、啞ヲ除クノ外、既ニ片言ナリ共、自他ノ日用ヲ辨シ、祝ヒハ七歳ニ及ベバ、束脩モ入レズ、月謝モ修メズシテ、自國ノ普通語學丈ケチバ卒業スル事ナリ、サテコレヲ文章ニ筆スルコハ、又ソノ國ノ文字ヲ用フル事ニテ、蓋シ我朝ニテモ、昔ハ本朝從來ノ國字アリタル由ナリシガ、應仁天皇ノ御宇ニ、百濟ヨリ、漢文初メテ舶來シ、天智天武ノ兩朝ニ至リ、ソノ文學ノ昌盛、郁々乎トシテソレ文ナルカナ、コレヨリ後、千有餘年ノ久シキ、上ハ朝廷ノ號令ヨリ、下ハ民間ノ書翰ニ至ルマデ、皆ナ漢字

假名字ヲ併セ用ヒタレバ、漢字假名字ナル者ハ、即ハチ一定ノ我が國字ナリ、然ルニ、今悉クソノ漢字ヲ廢セント欲セバ、縱令、物語類歌書、并ニ今ノ草雙紙ノ如キ、既ニ悉ク假名字ヲ用ヒテ差シ支ヘ無キニモセヨ、余思フニ、儘句讀ヲ誤リ、万有各殊ノ字義ヲ區別スルヲ難クスル而已ナラズ、近來西洋人ノ渡來セシヨリ以來、政學刑法、百工技藝ヨリ、歷史地理ノ書ニ至ルマデ、未ダ嘗テ目撃セズ、未ダ嘗テ耳聞カザル言語文字ノアルニ由テ、コレヲ悉ク假名字ニ直ス時ハ、字義ヲ區別スル頗ブル難シ、是故ニ、俗ヲ牖キ、民ヲ導ク爲ニ、最モ讀ミ易ク、最モ誦シ易ク書キ綴ル書ト雖モ、丸デ漢字ヲ用ヒザルモノハ、コレ無キナリ、夫レ余ト雖モ、固ヨリ我が國ノ文章ハ、邦語ニモ非ズ、漢文ニモ非ズ、一種異狀ノ體裁ニシテ、實ニ不

便チ極メ、コレヲ以テ西州ニ行ハル、文章ノ簡易ニシテ、達
意ナルニ比スレバ、ソノ相ヒ去ル甚ハダ遠シト思ハザルニ
ハ非レト、奈何セン、万有各殊ノ字義ヲ區別スルニ易ク、句讀
ヲ誤ラザラシメンガ爲ニ、古今雅俗及ビ漢洋ノ語ニ通ズル
學者ヲ集メ、討論講究シテ、文法ヲ定メシムルハ、近來西州ニ
於テ、有名ノ大家ガ、萬國ノ言語ニ用フベキ綴字ヲ製シテ、世
上一般ノ通用ニ便セシメント企テタルニ比スレバ、朝飯前
ノ仕事トハ謂ヒナガラ、抑モ、方今我が國ノ開化ノ度ニテハ、
頗ブル難事ニテ、今ヨリ豪傑ノ人々ガ、コノ改革ニ付テ、鞠躬
盡力セラル、ニモセヨ、コノ次ニ金星ガ太陽ヲ通り抜ルチ
見ルチ得ル頃デモ、恐クハソノ成功ノ程覺束ナク思ハル、
ナリ、吾故ニ曰ク、文字改革論ハ、未ダ卒カニ行フベカラザル

ナリ、且ツ夫レ吾儕ハ、如何様ニ學問ノ手ヲ省カント、百方思
案シタ所ガ、是非共、漢學ト歐學ヲ兼テ學ビソハ上、一科ノ專
門學ヲ學バザルベカラズ、蓋シ漢文ハ國文ノ原ニテ、今日我
儕ガ道理ヲ論ジ、事跡ヲ記シ、術藝ヲ述ブル言語文章ニモ、往
々ソノ語ヲ使用スルニ由テ、恰カモ、英法諸國ノ人々ガ、希臘
拉丁語ヲ學ブガ如ク、縱令ヒ、文選ノ難文字迄モ、門前ノ小僧
ガ習ハヌ經ヲ讀ムガ如クニ熟セズトモ、左國史漢四書五經
位チハ、學バザルベカラズ、又近來我が國頻リニ開明ヲ期シ、
將ニ歐洲各國ト相ヒ駢立セントスルヲ以テ、千百ノ技藝、彼
ノ長チ取ルノ故ニ、傳習肄業ノ爲ニ、西洋學ヲ缺クベカラザ
ルトスルモノカラ、縱令ヒ、英法獨蘭魯西亞以太利希臘拉丁
ト八宗兼學セズトモ、責テ一ヶ國ノ書ヲ讀ミ、ソノ語ニ通セ

ザルベカラズ、蓋シ斯ク言フト中ニハ漢學ト歐學ヲ兼テ學
ビ、ソノ上、一科ナリトモ、專門學ヲ學ブハ、頗アル難シト謂フ
モノアラシカ、余將ニコレニ對ヘテ云ントス、抑モ、今ヲ溯ノ
ボリテ、二千餘年ノ昔シ、支那ニ於テ、孔夫子ノ塾生ニ、身六藝
ニ通ズル者七十餘人アリシハ、聖人ノ薰陶、洙泗ノ高足及ビ
難シトスルニモセヨ、試ニ思ヘ、今ヨリ四五十年前、深宮ニ生
レ、婦人ノ手ニ成長シタル、紈袴ノ子弟スラ、尙ホ弓馬鎗劍ノ
免許目錄ヲ得タル上ニ、聖堂ノ辯書吟味ニ於テ、甲乙二科ニ
及第シタル者、陸續トシテ、代ソノ人ニ乏シカラズ、然ルニ、コ
ノ人々ヲバ、腰拔ケトカ、無氣無力トカ、見做シテ、曾テ齒牙ニ
モ掛ケザル今日ノ世界、殊ニコノ文林墨海ニ生活シテ、大鼻
紅髯ノ碧眼兒ヲ相手ニ、天人ノ幽ヲ闢^{ヒラ}キ、萬物ノ用ヲ明^{コシ}シ、

以テ世ヲ濟ヒ、民ヲ利セント欲スル吾儕ガ、コレ丈ケノ事ヲ
學ブチ難シトスルコトアルベシヤ、一特西州ニテハ、國語ノ外
ニ、希臘拉丁獨逸法蘭西等ノ如キ、古今ノ言語ヲ習フハ、通常
生徒ノ業ナリ、古人言フアリ、舜モ人ナリ、我モ人ナリ、矧ヤ今
吾儕ハ、歐洲通常生徒ノ習ヒ得ル業ニ比スレバ、甚ハダ拙キ
漢歐ノ二學ヲ兼テ、ソノ上、一科ノ專門學ヲ學ブニ於テチヤ、
ソノ難シト爲スベカラザル所以^ニ、豈ニ明カナラズヤ、抑モ人
ハ、終身他人ニ依頼シテ、ソノ奴隸タルニ甘心スレバ、則チ
己ム、苟モ自主自立シテ己^カガ力ニ食フト欲スレバ、身ニ付タ
ル一藝ナカルベカラズ、而シテソノ藝ナルモノハ、法理礦山
農商百工文學中ノ一科ナリ、吾儕ガ普通數學ト、漢英ノ二學
ノ初步ヲ兼テ學ビ得ルガ如キ、コレハ五官四肢ト共ニ、必ラ

ズ有ベキモノナレバ、コレヲ目シテ藝ト稱スベカラズ、然レ
氏、余ハコレスラ尙ホ未ダ得ザルモノナレバ、吾儕書生ノ職
業柄ニ關係尠ナカラザル、文字改革論ノ未ダ卒カニ行フベ
カラザルヲ論ズルニ由テ、併セテコレニ及ビ、以テ自カラ警
シメ、且ツコレヲ同社ノ諸君ニ質ス、

敬字氏評シテ曰ク、コノ説ハ、書生連中ニ適當スルモノ
ニシテ、素人物体ニハ宛テハマラヌナリ、素人物体ノ開
化ヲ進ムルニハ、成丈學問トイフモノヲ、手易クシザル
ベカラズ、學問ヲ手易クスルニハ、行々ハ日本假名文字
ニテ事足ルヤウニシタキモノナリ、文字改革論ハ、中人
以下ノ爲ノ説法ト考カユルナリ、然レモ、中人以下ノ開
化ノ度ヲ高クスルハ、書生連中ヨリ動力ヲ起スナレ

ハ、書生ハ、漢洋兼該ハ、云ニ及バズ、セメテハ、一藝ニ通ジ
世間素人ノ率先ヲ爲スベキナリ、

○自由説

星野郁

自由トイヘルコト、一箇ノ道ニナリタルヨリ以來、人民ノ大幸
福ノ元素、始メテ此世ニ顯ハレ、西洋諸國ニ於テ、ソノ理ヲ論
ズルコト、今ハ家常茶飯トナリタレト、ソノ道理ヲ推論スル、未
ダ彌爾氏ノ著書ノ右ニ出ルモノアラズ、今我國ニ、此書ノ譯
本、行ハレテヨリ、我國人民皆束縛ヲ惡テ、自由ヲ貴ビ、壓制ヲ
嫌テ、自主ヲ慕フニ至ル、嗚呼氏ガ説ノ及ブトコロ、廣シト云
フベシ、然リト雖モ、氏ガ説ク處ハ、獨リ人身外部ノ自由、即チ
社會ノ自由ニシテ、未ダ人身内部、即チ精神ノ自由ヲ論シタ
ルモノニアラス、吾竊ニ以爲ク、世人往々自由ノ理義ヲ誤解

シテ、其弊害、一國社會ニ流ルコト少小ナラズト、試ニ方今世論
ノ歸スル處ヲ見ルニ、囂々トシテ、熱心ノ一點ハ、自由ノ權理
ヲ攫取スルニ外ナラズ、其ノ論ヤ慷慨、其ノ文ヤ激烈、我輩モ、
之ニ與スルノミナラズ、又々之ヲ贊歎セザルヲ得ズ、然レモ、
退イテ此ノ貴重ナル自由論者ノ内幕ヲ伺エバ、情欲ノ縛繼
ニ束縛セラレ、毫モ精神ノ自由ヲ發達スルヲ知ラズ、是論者
ノタメニ深ク痛惜スル處ナリ、今世ノ自由ヲ唱フルモノヲ
觀ルニ、我ハ我が自由ヲ以テ快樂ヲ買フ、何ノ不可ナルアラ
ントテソノ行フトコロ、猖狂放恣、至ラザルトコロナシ、ソノ
醜態ヲ愧ザルノミナラズ、却テ得意自負スルモノ、如シ好
シヤ、此等ノ所業ヲシテ、無智ノ小民ニ出テシメバ、固ヨリ尤
ムニ足ラスト雖モ、中等以上ニ位スル人ニシテ、一言一行、人

民ノ模範トナルベキニ、サハナクシテ、品行ノ壞惡、此ノ如ク
其レ甚シ、其弊害徒ニ一身上ニ關スルノミナラズ、漸次衆庶
ニ蔓延感化シテ、遂ニ一般ノ風俗トナルニ至ラシ、果シ然ラ
バ、人心ノ壞敗、世道ノ衰退、是レヨリ崩壞スルト謂フモ可ナ
リ、嗚呼自由ヲ妄用スルノ弊、一ニ茲ニ至ルカ、豈ニ之ヲ警戒
セザル可ケンヤ
夫レ社會ノ自由ヲ得ント欲セバ、其ノ根據タル一身ノ自由
ヲ占ムルヲ先ニスベシ、一身ノ自由ヲ占メント欲セバ、宜ク
情欲ヲ抑制スルヲ以テ本トナスベシ、是先哲ノ説ク處アレ
バ、我輩茲ニ警告ヲ要セザルナリ、人將タ云ハシ、情欲ハ天賦
ノモノナリ、之ヲ恣ニスルモ豈ニ不可トセンヤト、何ゾ言
ノ謬レルヤ、見ズヤ、情欲ノタメニ良心ヲ失ヒ身ヲ亡シ、國ヲ

敗ルモノ、今枚擧ニ違アラズ、而ノ猶ホ天意ニ順フト思ヘル
カ、英人曰ク、敵ニ勝ツ、以テ勇ト爲ス、勿レ、已ガ情欲ニ克チ
得テ、始メテ眞ハ勇者ト稱スベシト、善哉言ヤ、人苟モ情欲ヲ
抑制シテ精神ヲ發達セズンバ、何チ以テ我ガ天賦固有ノ自
由ヲ攫取スルヲ得ン、將タ心志ノ束縛ヲ免ル、ヲ得ンヤ、

○日用叢話

潮退ノ時花葉ヲ斬ルベキ説

西班牙ノ理學者、嘗テ植物學ヲ考究シケルガ、一日新發明ヲ
得タリ、即ハ潮水ト花草樹木ト相關カルノ理ナリ、一表ヲ
立テ、毎日潮水ノ漲落ヲ定メ置キ、サテ、何コレモ、花木ノ枝葉
ヲ伐ラント欲セバ、潮水ノ落ル時ヲ待テ、斫リ折ルベシ、カク
スレバ、コノ樹ノ本、瘁枯スル患ヲ免カルベシ、西班牙コレ、此

法ヲ用ヒ、橄欖樹ヲ伐リ折ルニ、潮落ノ時ヲ以テスルニ、樹ノ
枯ル、一甚ハダ少ナシ、或人橄欖樹ヲ多ク有タルニ、枯ル、
者夥ク、シク、大イニ損毛ヲ爲セシガ、後潮落ヲ待テ枝葉ヲ
剛リ取り、三年ガ程ニ、葱龍茂盛ニシテ、利ヲ得ル、倍蓰セリト、
又コノ法ヲ蘋果等ニ施スニ、ソノ樹、枯頽スルモノ稀少ナリ
ト、又曰ク、蠶ヲ飼ノ桑樹ヲ以テ之ヲ試験スルニ、潮落ル時ニ
伐リ採ル桑葉ヲ以テ飼ハル、蠶ハ、潔白純淨ニ出來上ルナ
リ、潮漲ノ時ニ採ル桑葉ニテ飼ハル、蠶ハ、ソノ次ニ居ルト
イフ、

讀書ノ桌檯ハ身體ノ高キ矮キニ應ズベキ説

讀書人ニ、近視ノ人ト、駝脊ノ人トナルアリ、コレハ童子ノ時
ヨリ、着意セラレザルニ由テ、コノ二病ヲ受ルナリ、之ヲ防ガ

ノニハ、目ト誓トノ間ノ距離ヲ、凡ソ一尺五寸ト定ムベシ、童子ノ身材ニ應シテ、机ト腰掛トノ鈞合ヲ善スベシ、腰掛ハ背ヲ托スル靠子ノ附クモノナルベシ、カクセズシテ、雙手机ニ倚テ讀書スル故ニ、目ハ益々近ク、脊ハ益々曲リ、救フベカラザルニ至ルナリ、

以上二條ハ、格物彙說ヨリ、抄譯スルモノナリ、

○記義猴事

信夫恕軒

胡孫、獸之微者也、然能解人語、悟人意、以故好事之徒、往々畜愛、或教之舞蹈、或習之拜跪、蓋毛蟲三千一百餘種、而或近於人者、爲胡孫、於是手有義猴之事焉、城北谷中村、豪賦師伊三郎、畜愛一胡孫、有年于茲矣、伊三嘗罹病、胡孫日夜侍枕頭、如看護者然、後病益重、醫百方治之無驗、胡孫謝絕飲食、愴然向隅而坐、如下憂

念之者、其病彌留、遂以某月某日沒、胡孫哀鳴一再、忽手一繩、登佛壇、家人怪而跡之、如將縊者狀、急奪其繩、越三日、又手繩入階下、家人又慰諭去之、第七日、家人修死者冥福、胡孫不在、家人物色到床下、胡孫纏繩於首者三匝、雙手緊握兩端、而瞑云、嗚呼、胡孫獸也、倘能不忘主恩而殉之、今也俗誇開化、口唱文明、而於君主之恩、則棄如土毫、如使胡孫見其所爲、必不啖其餘也、猴乎、猴乎、吾從汝於山林、

杜陵有義鵠詩、王于一有義虎記、而此義猴之事最奇、忠義失於人心、而存於禽獸、悲夫、敬字

○義鶴詩

中村敬字

皎々雙白鶴、雌雄共棲宿、深林高阜下、氣象擇停蓄、況當伏卵際、慇懃巢新築、以期永鞏固、於焉蕃其族、乃有惡少年、闖鶴偶離伏、

戲取^ニ仙卵^ニ去^レ、代^レ之^ニ以^テ鴨^ノ殼^ニ、母鶴歸^ニ其巢^ニ、此事不^ニ省覺^ニ、依^レ舊^ニ息^ニ視聽^ニ、
 覆^レ照^ニ極^ニ純^ニ慤^ニ、迨^レ至^ニ伏期滿^ニ、孚卵脫^ニ其殼^ニ、不^レ似^ニ己^ガ雛^ノ殼^ニ、疑^レ惑^ニ且^レ驚^レ、
 哀鳴^ニ徹^ニ九霄^ニ、飛去忽^レ遼^ニ邈^ニ、俄^{カニ}率^ニ友鶴^ニ至^リ、環立放^ニ慟^ニ哭^ニ、遇^レ此^ノ變^ノ怪^ノ事^ニ、
 不^レ欲^ニ生^キ飲^ス啄^ス、一^ハ陷^ニ池沼^ニ斃^ス、一^ハ向^ニ巖石^ニ觸^ル、呼^ル兩^ノ軒^ノ昂^ク、姿^ヲ知^ル自^レ重^ニ被^レ服^ニ、
 寧^ビ忍^ビ仙禽^ノ種^ヲ墮^レ落^ス、化^ス野^ニ鷺^ニ、世^ニ少^ク義^ノ烈^ク、事^ヲ失^レ身^ヲ不^レ自^レ辱^ス、此鶴洵^ニ可^レ敬^ス、
 感慨溢^ニ胸腹^ニ、

此說話、出^ニ伊達千廣翁所^レ著^ニ、餘^ニ身^ノ歸^ニ感慨之餘^ニ、綴^ニ以^テ韻語^ニ、傳^ニ其事^ニ、豈敢謂^ニ做^ニ義鶴行^ニ乎^ニ哉^ニ、自^レ記

編輯長 中島 雄
 出版人 木平 讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

本局同人社

東京小石川江戸川町十七番地

同兩國藥研堀町三十八番地
 印刷所 報知社

大坂心齋橋通道脩町

賣 報知社支局

大坂本町四丁目

別 河内屋異七

甲府八ヶ町壹丁目

所 内藤傳右衛門

武州熊ヶ谷本町

博文堂

同人社文學雜誌

第八號



餘身歸序

吾乘四載集跋

書語口語同シキヲ欲スルノ説

自由論

愛敬歌和韻一首

律賓斯敦逸事狀

1. Take care of the pennies and the pounds
will take care of themselves.
2. Diligence is the mother of good luck.
3. No pains no gains.

3	2	1
勞	勤	邊
苦	勉	尼
ナ	ハ	ノ
ケ	好	銅
レ	造	名
バ	化	錢
贏	ノ	ハ
利	母	必
ナ	ナ	ズ
シ	リ	自
		ラ
		整

文學雜誌第八號

十二月二十三日刊行

○餘身歸序

中村正直

苦樂者、人世之常也、以苦爲苦、以樂爲樂者、常人而迷、寡者也、至於迷之深者、不獨以苦爲苦、而又以樂爲苦矣、若夫悟道之人、則觀苦樂爲一、猶晝夜之相終始者、故居苦境而不爲苦、所囚繫、在樂地而不爲樂、所迷溺、其胸中灑々落落、如光風霽月、其心志澄清泰定、如明鏡止水、雖在刀鋸鼎鑊之中、瘴烟毒霧之地、而精神悠悠、往來於八極、莫之能天闕者、雖在富貴功名之場、順便快意之時、而其心不爲加毫髮、不驕不淫、常能以樂還樂、不使其轉而爲苦也、嗚乎、若人豈易得哉、以予所見、如伊達自得翁者、庶幾乎、翁昔以事被禁錮者十年、後又被囚三年、其境可謂苦矣、其居苦亦可謂久矣、然而翁視以爲公署、端居整然、未嘗有箕踞時、常

手一部藏經晨夜誦讀、心々相證、以此自娛、翁本瘦弱多病、然在
四十年間、罹微恙、僅七日、及其出獄也、身體堅強、肉色肥好、自非
在苦境而能樂者、惡能如此乎、後翁著一書、錄其在囚時事、題曰
餘身歸、蓋蘇生之意也、翁嘗謂余、佛書云、人樂苦之始、嗟乎、苦樂
相因、被其眩轉者、常人也、常人居苦境、安能得樂乎、在死地、安能
得蘇乎、如翁者、心地光明、超脫乎苦樂之表、而其所歸、未嘗不樂、
其得蘇生也、宜矣、翁乞予題一言、因書此還之、

○吾乘四載集跋

全

友人竹添君近歸自禹域、祛其囊、則幽冀徐豫、梁益荆吳之山川
險易、風俗醇醜、描寫歷々、若目觀之、搜討古跡、徘徊墟墓之間、笑
罵豎子、憑吊英雄、感慨悲歌、若耳聽之、使余不覺廢卷而長歎也、
嗚乎、大才則大用、小才則小用、君才雖大矣、若使不乘四載、不遊

九州、則其才亦囿於小耳、何得有此莽々蒼々、雄奇鉅大之篇乎
哉、因思英雄豪傑之出于世、亦猶此、苟不得其時、而乘其勢、則與
豎子竟歸于一轍、使其徒發阮籍廣武之歎焉耳、聞君復將航于
吳、異日再倒其囊而示之、則不知使余又爲何等感慨也、姑書數
語於卷末、以見余之於君、傾注情殷、期待正復不小也、

大槻愛古先生曰、竹添進一君、余嘗見之、仙臺戊辰戰爭
中者、爾來、不知消息何如、忽讀此文、方知遊海外萬里之
國、獲雄偉悲壯之作、而歸、可謂壯矣、安得再會一堂、歷叙
爾時艱難非常之事耶、爲之悵然、

○書語口語同シキヲ欲スルノ說

此一篇ハ和田文君ノ遺稿ナリ、君、名東縣ノ人、少小ヨ
リ、經史ヲ嗜ム、京ニ來リ、我同人社ニ入り、西學ヲ研究

シ、駭々トシテ日ニ上進シタリシガ、不幸病ニ罹リ、本年七月二十八日、長逝シテ歸ラズ、春秋二十四、才アリテ命ナシ、悲イカナ、今篋底ヲ探リ、コノ遺稿ヲ得、ソレ何ゾ蠶魚ニ食シムルニ忍ビンヤ、因テ之ヲ雜誌ニ刊シ、世ノ君ヲ知ル者ト、愛惜ヲ分ントス 辱友雄識

我が日本ニ於テ、書語^〇口語^〇ノ同ジカラザルハ古來ヨリノ慣習ニセヨ、近時ニ至リテノ發起ニセヨ、最早之ヲ今日ニ改タメサル可カラズ、良ヤ之ヲ一定ニ歸セシメ得ル^ト歲月ノ久シキヲ要セザルヲ得ザルニ、成丈書語ハ言語ニ演易キヲ筆シ、口語ハ、書語ニ筆シ易キヲ演ブレバ、現時ノ如シ、一事一物ニ就テ、書言相反スルノ不都合ハ、漸次己^ムニ庶幾カラシムカ

然リト雖ヒ、今此不都合ヲ改タメント欲スルニ當リ、先ヅ其

實因實果ヲ觀察セザレハ、恐ラクハ、實際ニ適スベキ完全ノ書語口語ニ改タメント欲ストモ、得可カラザラシ、故ニ我が日本ノ書言二語ハ、其實因ヲ何々ニ發セシカ、其實因ヲ觀、現近ニ降リテ、其實果ヲ察セザル可ラズ、觀想スルニ、此ノ書口二語ハ、漢學未ダ舶來セザルノ時代ニ際シテハ、彼此相反スルノ不都合ハ有ラザリシトモ、和學ハ至ツテ、不充分ノ有様ナリシガ、人皇第十六代、應神天皇ノ時、百濟國ノ漢學者王仁來リテ、論語ヲ獻シ、且皇子稚郎子ノ侍讀ト爲レリ、而シテ先キヨ、和學ニ從事セシ志士學者ハ、爭テ漢學ヲ學ブ事ヲ志ザシ、之ヲ大ハ政治上ヨリ、小ハ一身上ニ活使シ、以テ文教日ニ益々盛ンニ、月ニ愈々明ラカナルニ至ラシメタルト雖トモ、如何セシ我ガ日本ノ慣習タルヤ、學事ハ上等社會ニヨリ行

ナハルルヲ以テ、其書語ハ、日用常語ニ活使シ難ク、遂ニ書口
各各相反スルノ不都合トハナレリ、是レ我が日本ニ、漢學ノ
輸入セシ始メニシテ、書語口語ニ變革ヲ起セシ第一紀元ナ
リ、降りテ安政年間ニ至リ、港市ヲ開キ、外交ヲ通ゼシヨリ、俄
然トシテ志士學者ハ、漢ヲ轉ジ、和ヲ變ジ、一途ニ英書ヲ學ブ
事ヲ志ザセリ、而シテ爾來今日ニ至ルマデ、之ヲ大ハ政治上
ヨリ、小ハ一身上ニ活使シ、以テ文教日ニ月ニ昌ンニナラシ
メタリ、之ヲ彼ノ漢學ノ始メテ輸入セシ時ニ比スレバ、大ニ
其趣ムキヲ異ニセリ、何ントナレバ、彼ハ書語口語ヲシテ、益
々相反セシメ、此レハ書語口語ヲシテ、愈々相同シカラシメ
タルニ非ズヤ、是レ我が日本ノ書口二語ニ變革ヲ起セシ第
二紀元ナリ、是ニ由テ之ヲ觀ルニ、現今我が日本ノ書口ノ二

語ハ、和一變シテ漢ト混ジ、和漢再變シテ英ト混ジ、以テ此ノ
和漢英三體ノ雜駁書言ヲ成セリ、而シテ口語ニ書語ヲ雜ユ
ルハ上等社會ニ限リ、下等社會ニ至リテハ、昔ヨリ言ヒ傳ヘ、
話ヲ來リシ俗語ナリ、瑣小ノ變化ハアルニモセヨ、是レ上等
社會ト、下等社會ノ間ハ、常ニ言語ノ相異ナル所以ナリ、吾徒
之ヲ聞ク、文明ヲ以テ世ノ木鐸ト爲ル英佛ニシテ、亦タ都鄙
ノ間ニ於テ、其言語自ツカラ相同シキヲ得ズト、蓋シ我が日
本ノ如キ、天淵ノ差異ナキニセヨ、社會上、多少カ免カル能ハ
ザルモノト信ズルナリ、今吾徒ヲシテ此ノ言語ノ差異ハ暫
ラシ措キ、書口ノ言語相反スルノ不都合ヲ見セシメヨ、凡ソ
事務ヲ論議スルニ當リ、其議席ニ列ナリタル論者ニ於テ、其
發スル所ノ言語ハ、和タリトモ、漢タリトモ、英タリトモ、互ヒ

ニ相解シ得ザルノ圏外ニハ出ザルベシ、然リト雖モ、彼ノ耳
チ歎ダテ筆ヲ執リタル記者ニ至リテハ、書口ノ言語相反ス
ルノ故ヲ以テ、直チニ筆ヲ下スニ難キ而已ニ非ザルナリ、其
口語ヲ記載スル所ノ書語ニ於テ、往々其意味ヲ完全タラシ
ムル能ハザルナリ、世ノ論者云フ、漢字廢ス可シト、或ハ云フ、
英ノ文法ニ倣フテ、假名字而已ヲ用ユ可シト、此ノ論可ナリ、
簡ナリト雖モ、未ダ之ヲ現今ニ行ナフ可カラズ、故ニ吾徒現
今ニ於テ、書口ニ語相同シキヲ欲シテ、古往ノ實因ト、近來ノ
實菓トノ二者ヲ照考スレバ、和漢英三體ヲ併セ用ヒザルヲ
得ズ、而シテ我が日本固有ノ書語ヨリ、漢英二語ニ至ルマデ、
專ハラ日用ニ適スルモノヲ撰ミ、成丈書語ハ、口語ニ演ベ易
キヲ筆シ、口語ハ、書語ニ筆シ易キヲ演ベ、以テ漸次ニ書言相

反スルノ不都合ヲ改クメントス、聖人曰ク、辭達シテ己ムト、
古今ノ形勢ニテハ書語ノミコテハ筆シ盡サズ、口語ノミニ
テハ辯シ足ラズ、若シ夫レ書語ト、口語ト、次第ニ相近クナル
ヤウコト務メ、果シテ能ク西洋ノ如ク書語口語合併シテ一
トナルノ時ニ至ラバ、コノ時ヲ以テ我ハ文明境地ノ門ニ入
ルヲ得ル時ト曰フト欲ス、

○自由論

保坂祐吉

方今我邦ノ人民ハ、外貌ノ自由ヲ得ルヲ知テ、未ダ心思ノ自
由ヲ得ルヲ知ラザルニ似タリ、今突然斯ノ如キノ言ヲ吐露
セハ、世ノ人民必ズ同音共聲シテ云フトス、人民ノ自由ナル
モノハ、固ヨリ政府ノ權力ニ壓制セラレズ、法律條例ニ束縛
セラレザルヲ云フ、豈其他人民ノ不自由ニ苦ムベキアラン

ヤト、是レ吾輩ノ解セザル所ナリ、往昔聖賢君子ノ自由ト稱
 スルモノ、豈今日我人民ノ自由ヲ唱フルモノ、如クナラ
 ヤ、唯ク衣服飲食ノ外欲ニ束縛セラル、チ憂フルノミ、榮啓
 期云、吾樂ニ甚多シ、其中至レル者三アリ、天萬物ヲ生シ、我人
 ト爲ルヲ得ル、一ハ樂ニナリ、男女ノ別、吾男ト爲ルヲ得ル、二
 ハ樂ニナリ、人生穢褻ヲ免カレザル者アリ、我行年九十、三ハ
 樂ニナリト、又顏蠲云、晚食以テ肉ニ當ツ、安歩以テ車ニ當ツ
 ト、夫此二人ノモノハ、貧賤ヲ憂ヘズ、能ク自由ノ精神ヲ保育
 センモノト謂フベシ、然ルニ、吾邦ノ人民ハ、此貴重ナル身體
 ナ天ヨリ授リナカラ、或ハ三度ノ食事ノ外ニ猥ニ飲食ヲ貪
 ルモノアリ、是レ飲食ハ奴隸ナリ、或ハ寒熱ヲ防禦シ、身體ヲ
 清潔ニスルニ非ラズシテ、過勞ナル衣服ヲ被リ、恣ニ粧飾美

麗ニスルモノアリ、是衣服ハ奴隸ナリ、其他好酒家、淫蕩者ノ
 如キ、亦皆酒色ノ奴隸タルヲ免ル、チ得ズ、人苟クモ其身ヲ
 敬スルヲ知レバ、豈斯ノ如ク其情欲ヲ恣ニスルニ至ランヤ、
 然ルニ風俗日々、澆季ニ赴キ、敬身ノ心ナキニ、閭巷小民ト
 雖モ、貯財サヘアレハ、右ニ論セシ如ク、奴隸ノ欲ヲ恣ニスル
 モ、之ヲ咎ムルモノナキニ、情欲日々ニ增長シテ、見マシキ
 不正ノ色ヲ見、聽マシキ不正ノ聲ヲ聽、身分ニ超ヘ、身ニ應ゼ
 ザル衣服飲食ヲ好ム、トニ至リタリ、情欲ヲ抑制スル、ト今日
 ニアリテ學者第一ハ要着トスル處ナリ、今夫山海ノ珍味ヲ
 陳列フルトテ、其旨シトスルコロハ、舌三寸ヲ過ル間ニスギ
 ズ、如何ナル廣堂大廈ナレバトテ、身ヲ入ル、處ハ膝三尺ノ
 間ニスギズ、如何ナル美麗ノ服ヲ着シタレバトテ、其心ノ愚

昧ノモノハ固ヨリ愚昧ナレバ、一時心思チノ逸樂ニセシム
ルノミ、然ルニ衣服飲食ノ爲メニ、役々トシテ一生ヲ送ルト
ハ、愚昧中ノ最タルモノナリ、且夫レ上等社會ノ人ト爲リテ、
眞ノ自由心思ニナラント欲スルモノニシテ、食物ノ粗惡ナ
ルヲ嘆キ、衣服ノ粗惡ナルヲ耻ルハ、誠ニ愚夫愚婦ノ心ニシ
テ、大丈夫タルモノ、深ク愧ル所ナリ、故ニ人ハ艱難勞苦ヲ
經歷シタルモノニ非ザレハ、眞ノ自由ハ域ニ達スル能ハズ、
眞ノ自由ハ域ニ達セザルトキハ、人ト生レテ人ニ非ラズ、殆
ト禽獸ニ等シキモノナリ、所謂艱難勞苦トハ他ニアラズ、衣
服飲食ノ情欲ヲ恣ニセザル是レナリ、夫外毫モ衣服飲食ノ
情欲ニ束縛セラレズ、而シテ其中自カラ磊々タル光風霽月
アル彼ノ榮顏二氏ノ如クナラシメハ、之ヲ眞ノ自由ヲ得タ

ル人ト云フベシ、孔子ノイハユル克己、孟子ノイハユル收
放心ト、又皆自由ニ入ルノ道ナリ、然ルニ吾人民ハ、徒ニ政府
條例ノ爲メニ外貌ノ自由ヲ束縛セラレ、チ困苦シ、紛々焉、
擾々焉、其不満ヲ鳴號スルモノ比々著見ナリ、余故ニ曰ク、我
邦ハ人民ハ外貌ノ自由ヲ得ルチ、知テ未ダ心思ハ自由ヲ得
ルチ、知ラザルナリ、嗚呼、コノ心志ハ自由ナルモノハ、コソ實ニ
眞正ハ自由ナルヘケレ、

○敬字先生以愛敬歌見示次瑤韻却奉呈

信夫恕軒

奉愛敬守愛敬、主于一、見天性、々靜身自靜、理明氣自盛、達人悟
斯意、對物則施行、敬字中先生、資性本正硬、加以行與言、名聲重
似令、修文兼修德、須期三顧、娉娉聘、究漢更究洋、功力何其橫、才

華青年馨、履實晚節、勁立志篇、輒成自由論、始定筆底、屈龍蛇襟、懷揭泰鏡、探頤感鬼神、泝經繼前聖、赤旛靡曉風、詞壇占百勝、艷壁映暮虹、高樓擬萬乘、堂々輦轂下、蔚然操文柄、敬以羅才俊、愛以撫頑獍、饋餼豈成齊、次班寧後鄭、弟子殆三千、綏服如同姓、吾聞先生久、今茲始溫清、獻文代載贅、接晤醫宿病、落花已含情、流水本不競、朱批滿絲欄、疵瑕一洗淨、蒼蠅付驥尾、鄙名次第亘、恩遇辱知言、何時爲報應、守愛敬、奉愛敬、丈夫有樹立、何必望外慶、交際貴公平、宜布共和政、造物樂新知、誰從舊時聽、貧賤與達榮、只在上帝命、

推獎過甚、不敢當、不敢當、但文從字順、不似押韻、欲不激賞、得手、敬字

○律賓斯敦逸事狀

中島 雄

律賓斯敦ハ蘇高蘭ノ貧人ナリ、少時製棉師ト爲リ、工錢ヲ以テ書ヲ購ヒ、晝ハ出テ工業ニ從事、夜ハ則テ書ヲ讀ム、遂ニ能ク諸史百家ノ言ニ通ズ、且ツ醫學ヲ攻メ、内外科醫トナル可キ許ヲ得タリ、既ニシテ心ヲ上帝道ニ潜メ、倫敦教會ニ抵リ、弘法使ト爲ンコトヲ請フ、教會乃チ之ヲシテ亞弗利加ニ往シム、一千八百四十年、コノ地ニ達ス、是ヨリ傳道ノ暇ニハ、自ラ水道ヲ掘リ、家屋ヲ建テ、田地ヲ耕シ、牛羊ヲ牧シ、土人ニ職業ヲ教ヘ、遑々トシテ、未ダ嘗テ一日モ安居セズ、其同行ノ諸人モ、皆能ク律賓斯敦ノ黒奴ト雖モ、同シク人ナルニ、之ヲ牛馬使シテ、人ノ通義ヲ許ササルハ、天理ニ非ズトテ、其陋習ヲ改メント欲スルノ意ニ認體シ、盡力セシガ、奴隸ヲ禁シタラシムニハ、耕作等ノ産業ニ不便ナルコトヨリ、律賓斯敦ヲ敬ト視

倣ス人モアリシカモ、久シウシテ後、自然ニソノ徳ニ感シ、之ヲ尊敬セリ、英國ノ首相額拉斯頓コレヲ聞キ、ソノ狀ヲ具陳シ、女皇維多利亞ニ奏シタルニ、女皇詔テ下シ、毎年コレニ、三百萬封^{ポンド}（即チ一千五百萬圓）ノ金ヲ恩賜シテ、ソノ劬勞ヲ賞シタリト云フ、

龍山子曰ク、吾コレヲ聞ク、向ニ律賓斯敦ノ亞弗利加ニ在ルヤ、久シク其音信不通ナル故、英國ハ言フ迄モチク、彌米堅教會ヨリモ、博ク搜索ノ人ヲ發遣シ、スタマレイト云ヘル者ヲシテ、一幫ノ船ヲ帥ヒ、亞弗利加ニ僦^{カガ}ハシメタリシガ、一日スタンレイ亞弗利加ノ荒村ニ於テ、一ノ白哲人、黒奴ト共ニ勞作スルヲ目撃シ、コレ或ハ律賓斯敦氏ナラヤカト思ヒ、進テ子ハ律賓斯敦君ナラズヤト問ヒタルニ、其只^ニ然リト

ノミ對エ、更ニ餘言ナク、勞作セリト、嗚呼律賓斯敦ノ如キハ、得易カラザルノ才ナリ、弘教ノ爲ニ桑梓ヲ顧リミズ、化俗ノ爲ニ勞苦ヲ厭ハズ、且ツ人ノ我ヲ思フテ尋ヌルノ此ニ至ルヲ思ハザル、謙讓ノ心ニ至リテハ、稱スルニ餘リアリ、モイステイ、イス、トルレイ、グレイテスト（謙讓者眞成之大人也）トイヘル言、豈ニ信ナラズヤ、

編輯長 中島 雄
出版人 木平 讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

東京小石川江戸川町十七番地

本局同人社

同兩國藥研堀町三十八番地

賣印 同本町三丁目洋書問屋 瑞穂屋卯三郎

同室町三丁目中外堂 紀伊國屋源兵衛

同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚園 富士屋金十郎

大坂心齋橋通道修町 報知社支局

大坂本町四丁目 河内屋興七

甲府八ヶ町壹丁目 內藤傳右衛門

武州熊ヶ谷本町 博文堂

同人社文學雜誌

第九號



失誤爲試練說

詩三首

變遷論

詩評三編

棧雲峽雨日記序

文學雜誌第九號 十二月三十日刊行

○失誤爲試練說

東條世三

必志ナキ人、往々或ハ事務ヲ爲シテ敗失シ、或ハ事ヲ謀リ一
 試シテ功ヲ成サ、レバ、コレ等ニ由リテ其志氣ヲ折シキ、遂
 ニソノ目的トスルトコロヲ遂ゲズシテ、自ラ退縮ス、又甚キ
 ニ至テハ、未ダ爲ストナク試ミザル前ニ歎息シテ我コノ事ヲ
 爲サント欲スレド、吾ガ力ニ爲シ得ザルベシト狐疑スルモ
 ノアリ、嗚呼思ハザルノ甚シキナリ、凡ソ事爲ストナク試ミザ
 レバ、爲シ得ルコトヲ知ルベカラズ、試ミテ屢敗績ヲ取ルニ非
 ラザレバ、之ヲ最善ノ地位ニ高メルコト能ハズ、蓋シ失誤ノ事
 ハ却テ最善ノ試練トナルナリ、コレヨリシテ大ニ開悟發明
 ハ益ヲ得ルコトアリ、コレガ爲メニ勇猛精進ノ力ヲ發出スル

1. No sweat no sweet.
2. Work and thou shalt have.
3. The world is his who has patience and industry.
4. Better go to bed supperless than rise in debt.

	4	3	2	1
ベシ	借債ヲ生ゼンヨリハ、寧晩	天下ハ勉強忍耐ナル人ノ	汝勞作スベシ、必ズ獲ルモ	汗ヲ出サ、レバ、甘キモノ
食ヲ喫セズシテ、睡ニ就ク	所有ナリ	ノアリ	ヲ得ズ	

一、アルナリ、巴律西ノ精好ノ陶器ヲ作出シ、法國製ノ陶器ト
 テ歐洲諸國ニ重ゼラル、ニ至ラシメシモ、始メ百試中ラズ、
 千驗功ナク、徒ニ薪柴、藥物、時日、工夫ヲ費スノミナリシカド、
 決シテ捲マズ、沮マズ、益、奮勵ノ力ヲ添ヘ、試験ノ功ヲ積ミタ
 レバ、ソノ屢敗績ヲ取ルヨリ開悟發明スルトコロアリテ、遂
 ニコレヲ成就シタリシナリ、醫士ノヨク人ヲ治療スル方法
 ナ發明スルヤ、最初ニ敗失シ、コレニテハ爲シ得ベカラザル
 モノヲ看出スヨリシテ、コレニ進ムコトナリ、ウエルリント空林登、兵法ニ明
 カニ能ク功勳ヲ奏シ、大名ヲ宇宙ニ揚クルニ至リシハ、勅敵
 ト戦ヒ、屢敗レテ取り、至難至艱ノ事ヲ忍ベルコト由ルト云フ、
 百般ノ工作場ニ於テ、必用ニシテ欠クベカラザル、蒸氣機器
 ノ如キ、一朝一夕ニ成就セルモノニアラズ、數百年ヨリ許多

ノ智巧アル人、勉強營苦シテ、工夫ヲ用ヒタルニ、多ハ敗失シ、
 一生ソノ完全ニ至ルヲ見ズシテ終レリ、後人コレニ本ヅキ、
 マタ繼テ工夫ヲ下シ、忍耐以テ難事ニ勝テ、勤勉以テコノ機
 器ヲ改變シ、カクノ如ク數世ノ久テ經テ、方ニ巧妙ヲ極メ、便
 利ヲ尽セリ、カク卓越ノ事業ヲナスニハ、久キニ耐テ、熟復ノ
 功ヲ積ミ、許多ノ敗績ヲ忍ビ、多年ノ辛苦ヲ經テ後、方ニ成就
 スルモノナレバ、敗績ヲ取ルトモソハ志ヲ折クベカラズ、反
 復シテ又反復スベシ、然ル時ハ、失誤ノ事、却テ最善ノ試練ト
 ナルコトナリ、

○次ニ末松謙澄君見示病中倦夜韵却贈

安藤勝任

肅霜已及、菊花時、自歎沈痾臥、敝帷、一點燈檠無客伴、滿胸憂慮

少人知、風聲飄葉看秋老、月影橫窓覺夜遲、根觸客中無限感、可堪獨誦杜陵詩、
半壁寒燈鷲影斜、蕭齋獨臥亂如麻、愁餘時憶磔川友、夢裡猶尋墨水花、萬里家山鄉信遠、三年蹤跡客情賒、孤枕無端思既往、心事悠悠豈有涯、

對月有感

風拂殘雲雨始晴、秋天萬里月輪明、蕭然欹枕望明月、百感中來不可停、憶昨負笈遊都下、三載寄迹磔川營、班超筆硯無由投、依舊碌々對短檠、何料今日罹沈痼、醫院此處養此生、談笑無復古人共、獨思往事感偏縈、數行過雁秋一色、一點殘燈夜三更、蓬矢未酬他日志、桑梓空管故園情、王粲感懷杜陵淚、三秋無物破愁城、愁城畢竟不可破、此心將向何人傾、獨有明月知我意、晴光一

片照窗清

此係下安藤氏在順天病院所作、今聞病日向痊、而相見之在、近者可期也、敬字

○變遷論

鈴木大二郎

諺云夕、光陰矢ヨリモ疾シト、誠ナルカナ此ノ言ヤ、百花爛熳ノ春モ乍ナ變シテ楓葉荻花ノ秋トナリ、堀切ノ杜若菖蒲ハ、看客ニ愛顧ヲ受ケンモ乍ナ化シテ霜枯ノ艸トナリ、日月ノ匆匆、万物ノ變遷、驚愕ニ堪エザルナリ、眼ヲ轉セバ豈獨リ日月ノ匆匆ト万物ノ變遷トノミナラシヤ、政態ノ變遷モ、人生ノ榮枯死生モ亦然リ、昨壓制ノ空氣モ、今自由ノ空氣トナリ、昨至善ノ政モ、今不善ノ政トナリ、昨荒蕪ノ原野モ都府トナリ、田畝ニ變シ、昨日ノ富、今日ノ貧、今日ノ榮、明日ノ枯、今日

ノ老、昨日ノ少、實ニ昨今は非榮枯ノ變遷モ亦人目ヲ驚スニ足レリ、之ヲ本邦維新以來ノ政態ノ變遷ヲ以テ証セントスルモ豈ニ我輩白面諸生ノ能ク及フ所ナランヤ、故ニ我朝學風ノ一變遷ヲ陳述シテ之ヲ証セシ、昔我朝西洋諸邦ト開港セザル以前ハ、支那三代ノ學ニ從事セリ、故ニソノ精粕ヲ嘗ムルモノ、口説トスル所ハ、專ラ徳ニ進ミ、性ニ率フヲ以テセサルナシ、然リト雖モ、ソノ學ヤ、惟三代ノ學コスギズ、之ヲ講求スル者、古代ニ溯テ一人ノ天下タルソノ世態ヲ知ルノミ、智以テ足レリトス、故ニ政府ハ人民ノ政府ニ非ズ、政府ノ政府ナリ、天下ハ一人ノ天下ニシテ、天下ノ天下ニ非ズト、ソノ令スル所是非ヲ問ハズ、惟々命是レ從ハシムルノ景況ニ至リ、政府ノ如何ヲ問フ無キモ、智ノ狹隘ナルコト非スヤ、今ヤ

本邦文運隆ノコト開ケ、昔日ノ道德學ヲ以テ迂遠トナシ、之ヲ棄テ、トラザル勢アリ、學ニ從事スルト云ハ、洋學ニ歸着スルモノ、如シ、豈ニ盛ンナリト云ハザルベケンヤ、ソノ學タルヤ日新ノ學ナリ、之ヲ講求スル者、誰カ智ヲ廣フシ、才ヲ長シ、天下有用ノ器トナラザル無シ、ソノ至重至貴實ニ一日モ欠クヘカラズ、然リ而シテ我カ朝ニ之ノ學ヲ講求スル者、朝野ニ陸續タルヨリ、社會ノ日ニ一日開化文明ニ進歩シ、或ハ政體ノ如何ヲ問ヒ、或ハ人民自由ノ權利ヲ説クハ、即チ智ノ廣濶セシニ非ズヤ、試ニ見ヨ、我朝昔日ノ賢人君子ノ名アル者ヲ、何ソ意見ノ鄙陋ナルヤ、我ヨリ外ナル者、賢不肖ト無ク皆ナリテ愚トナシ、華胥ノ如キ邦國ノ我カ邦外ニ在ルモ、之ヲ夷狄ト呼ビ、蠻戎ト稱シ、偶、海口ニソノ人ヲ見レハ、擊テ

之レテ卻ケ、交際ヲ以テ耻辱トナシ、ソノ新聞ヲ欲セザル、豈ニ嘆セサルベケンヤ、今ヤ此ノ弊風モ滅却シ、盛ソニ交際ヲ廣フシ、新聞ヲ求メシヨリ、石室瓦室馬車軛ノ轆々タルモ、瀛燈ノ照々タルモ、百工技藝ノ古來未曾有ノ隆盛ニ至ルモ、世人ノ卑屈心ヲ去ルモ、戶々開化ノ花ヲ開ハスモ、皆一ノ洋學ノ舶來セシニ係ラサルハナシ、三代ノ學、ソノ及ハサル遠シ、此ヲ以テ至重至貴ノ學ト云フモ、預價ノ妄言ニ非ザルナリ、然リト雖モ之ヲ學フ者、心ヲ正シ、意ヲ誠ニシ、性ニ復ルヲ以テ迂遠ト爲シ、唯智ヲ廣フシ、才能ヲ長スルヲ以テ專務トスルヨリ、之ニ從事スルノ徒、智ノ廣キ昔日ニ幾倍ナルモ、眞正ノ學士ト云フベケンヤ、抑モ學者ノ目的歸結ハ正心誠意ナリ、而ソ身ヲ修メ、後チ國家ヲ料理シ、ソノ景象ヲ善セシテ欲

シ、而ソ之ヲ擔負スルモノニ非ズヤ、然ラハ則チ正心誠意ニシテ德ニ進ミ、性ニ率フチ迂遠ニシテ事情ニ闊レリト爲スハ、何ソ誤謬ノ甚シキヤ、自助論ニ云ク人ノ德行ハ天道ヲ敬畏スルノ心ト、人類ヲ愛重スルノ心ト聚リテ成レルモノナルコ、コノ德行ヲ修ムルノ目的ナクシテ、特ニ才能ヲ重ズルヲ習フテ風俗ヲ成ストキハ、人心壞敗、世道衰退、コレヨリ甚シキハナシト、之ニ由テ之ヲ視レハ、讀書學問スル者、必ス務メテ人欲ノ私ヲ去リ、放辟邪侈ノ四ツノ者ヲ出テ、正心誠意ニシテ德行ヲ修メ、家國ヨリ天下ニ及ホスベキナリ、縱令智ト才能トノ已ニ長スルアルモ、ソノ德ヲ修メザレハ、人欲ノ私ヲ出ル能ハサルヘシ、一時英名ヲ天下ニ耀カシタル拿破崙ノ如キモ、性ニ率ハズ、皆チ外邊ニ計ヲ用ヒ、數ヲ用ヒテ、功

業ヲ立テ得タルモノナレハ、只人欲ノ私ニスギス、之ヲ華盛
頓ノ功業ニ比スレバソノ下レル幾許ソヤ、今ヤ西洋日新ノ
學ヲ講求スル者、宜シク此ニ注意無ンハアルヘカラズ、苟モ
德ヲ修ムルニ注意ナク、只智ト才能トヲ廣フセンヲ欲シ、コ
レヲ擴充スルモ一日德ヲ修メサレハ、一モ人欲ノ私ヲ出ル
能ハズ、朋友ト交ル信無ク、親ニ事フル亦孝ナラズ、詭詐常ナ
ク、信ヲ失フハ恬然知ラサルニ至ラン、之ヲ以テ益々進ンテ
俗トナラハ、世道ノ衰退日ナ期テ待ツベキナリ、此ノ如キノ
甚シキニ至ラサルモ、世上既ニコノ徵候ナシト云テ得ザル
ナリ、文明開化ノ本邦ニ舶來セヨリ士人ノ輕薄、言フニ勝
ザルナリ、今ソノ一ヲ舉ケン、己ノ易キ人ノ艱難ヲ願ミズ、己
ノ利ヲ見レハ、人ノ不利ニ關セズ、交親利ヲ先キニシ、信ヲ後

ナニスルヨリ、利アレハ親シミ利ナケレハ疎ナルト恰モ鳥
ノ好餌ヲ見テ群集シ、尽キテ四方ニ飛散スルニ異ナラサル
ナリ、此レ昔日道德ヲ口説トスル學士ニ比スレバ等下幾等
ニ位セルヤ、又一步ヲ進メテコレヲ云フニ、洋學ヲ講求シ得
ル者ヨリ往々要路ノ地ニ立ツアルモ、却テ社會ノ風俗ヲ亂
スニ至ラン、此レ他ナシ、德ヲ修ムルヲ以テ迂遠ト爲スノ結
果ニ非スヤ、嗚呼何ソ智ノ昔日ニ倍シテ、品行ノ下ル此ノ如
キナルヤ、今洋學ヲ講求スル者、往々德ヲ修メ性ニ率ガフヲ
務メズ、專バラ智才能ヲ擴充センヲ務ムルモノアリ、即ハチ
昔シ支那三代ノ學ヲ貴重スルモノ、變遷セシ一個結晶セ
ル弊風トイハザルヲ得ズ、嗚呼今日ノ是ハ、明日ノ非、昨日ノ
非ハ、今日ノ是、既往ヲ鑒ミルニ此ノ如シ、然ラハ則チ今ヨリ

爾後天下ノ變遷又果シテ如何ヅヤ、

○詩評

盆池

天光雲影一川虛、
戶江望裏風煙儘有餘、
別貯盆池三寸水、
鯉懷鵬意看遊魚、

江戶川之風光、余曾目擊其繁畧、地勢雖卑、下四望、開豁雲堆之外、遠眺嶽蓮、其景况自有遠大高深之致、先生結同人社於其灣曲之處、多養天下之英才、今此盆池之作、蓋謙意也、而用有聲畫家之縮寫法也、須知他日鯉躍鵬舉之英才、必跳躍竝出於此池中、吁、余雖老矣、猶能及得見焉、

護良親王祠

欲將往事問樵童、
足利繁華一夢空、
唯有親王祠廟在、
山川繚繞

護孤忠

一誦三歎之餘、感激喜悲之情、不能自禁、夫以親王之英邁、豪雋、一時掌握天下兵馬之權、所向無敵、何其壯也、一蹶為賊臣所虜、遂受土牢之苦辱、何勝痛恨、抑當時所臣屬豺豕之士、不為不多、而未嘗聞有一人潛伏而拯之於幽囚之中者、何其哀哉、蓋聞滿清廟祀岳鵬舉、廟前倒懸秦檜銅像、側置木屐、使拜廟人每着之而蹴檜頭、以慰岳王無極之怨魂、云、吁、何其快哉、余亦欲於親王廟前、倒懸直義義博二賊之銅像、以蹴而拜為例、使人民知千歲之下、忠奸報效之著明、一以振忠義之氣節、一以洩親王之餘憤、其快更為何如也、悲憤之餘、書以質之於研北、

時賴微服旅行圖

曾無議論及經濟、王霸漠然心不關、一意欲知民疾苦、草行露宿、道途難、

平々叙來而如無味、讀至三四句、寫出滿腔愛民之赤誠、與彼文王視民如傷之必一般精神、何如其仁哉、方今地方官悉皆精選、然百度維新之際、或汲々於新興利用、而疎々於固結培養者、未可謂必無也、趙宋之時、使黃庭堅書戒石銘、頒之於地方官、亦惟要知民苦耳、今也使善書畫人錄此圖與詩揭之於各縣廳之壁上、使令參諸員能體于此、則於聖旨愛恤宣化之道、庶乎有所裨補乎、

右詩評三編、山寺常山翁評敬宇先生之近作者、評論妥當、大足使我同人社友感激發憤、大規盤溪翁見之、慙慙載雜誌、乃遵其教、揭出之、但如最後時、賴微服旅行圖一

詩、係下既刻第五号者、然有評而無詩、恐慙覽者之心、故不願重複、再出者如此、

雄謹識

○機雲峽雨日記序

中村正直

我東方亞細亞洲文藝最盛、人物多出、莫禹域若也、疆域廣、生齒繁、莫禹域若也、可與歐羅巴顏顏者、莫禹域若也、禹域與我邦文字同、可親厚一也、人種同、可親厚二也、輔車相依、唇齒之國、可親厚三也、亞細亞不及今同心合力、則一旦有事、權歸于白哲種、而我黃種危矣、可親厚四也、抑元世祖之侵我西疆、我邦人之擾閩浙、當是時、不有歐羅巴之外交也、不有狼子野心之覬覦者、也、設使如今日、則二國必無此事矣、今也我邦與禹域務當大小相忘、強弱莫角、誠心實意、交如兄弟、互相親信、不容讒間、有過相寬恕、無禮不相咎、蓋二國所期者、在于同心協力、保護獨立、以存亞細

亞○之○權○而○已○矣○、近者我邦通航禹域、發遣公使、莫非職是之由也、竹添光鴻君、奉命往禹域、行旅古燕趙周鄭秦蜀吳楚之地、暫飯故土、余幸得讀其所作棧雲峽雨記、地勢民俗、縷載不遺、洵為下方今有用之書、可備參考者也、至其描繪山川文字之工、讀者自知之矣、余不敢贅、

編輯長 中島 雄
出版人 木平 讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

東京小石川江戸川町十七番地

本局同人社

印 同兩國藥研堀町三十八番地
賣 報知社

同本町三丁目洋書問屋 瑞穂屋卯三郎

同室町三丁目中外堂 紀伊國屋源兵衛

同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚閣 富士屋金十郎

大坂心齋橋通道修町 報知社支局

大坂本町四丁目 河内屋興七

甲府八ヶ町壹丁目 內藤傳右衛門

武州熊ヶ谷本町 博文堂

同人社文學雜誌

第十號



重建石燈碑記

實ト飾トノ說

瑣格_ラ拉的_{ラス}傳

1. He that is slothful in work is brother to him that is a great waster.
2. Go to the ant, thou sluggard; consider her ways, and be wise.
3. Poverty shall come upon the idler, as one that travelleth, and want as an armed man;

	3		2	1
	速	貧	蟻	工
	カ	乏	ヲ	業
	=	ノ	觀	ヲ
右	武	至	ズ	念
所	士	ル	ヤ	タル
羅	ヨ	ハ	夏	人
門	リ	旅	時	ノ
ノ	モ	客	ニ	兄
箴	迅	ヨ	糧	弟
言	シ	リ	ヲ	ナ
=		モ	備	リ
出				ニ
ツ				

文學雜誌第拾號 明治十年一月三十一日

○重建石燈碑記

有_レ功_二德_一於世者久而人益思慕焉、如_二德川氏之祖東照公_一其尤者也、攝州大坂建國寺舊有_二公祠_一、明治之變、祠廢、一切器具皆被_二販賣_一、時有志之士相謀、買_二得其二十五基_一、既東京忍岡祠廟修造功竣、因建_二之祠前_一、實明治九年丙子九月也、建國寺舊有_二百餘基_一、皆係_二諸侯所獻_一、今幸存_二其殘餘于此_一、後人之思慕亦有_二託而存焉_一、乃作_二之詞_一曰、

公之精靈、滿_二於天下_一、何用_二石燈_一、此區々者、愛古曰 乃人有_レ思、非_レ物莫_レ寫、親賢樂利、視_二此廟社_一、

大槻愛古先生曰、我日本帝國、求_二古人之有_レ功_二德_一於世者_一、莫_レ大_二且_一、偉_二於東照公_一焉、苟有_二愛國敬神之志者_一、孰弗_二欽仰思慕_一、

況靜岡縣士族乎、此文雖僅々數百字、亦足以益於世道人心、則此石此文、謂之萬年不朽可也、

○實ト飾トノ說

中島 雄

キーペル氏ハ、一千八百四五十年ノ代ニシリミア支那海ノ水戰ニ勳功ヲ著ハシタル有名ナル英國ノ水師提督ナリ、ソノ後、亞細亞船隊ノ總督トナリ、我が國長州下ノ關、薩州鹿兒島ニ兵亂アリシ時、數ハ來リテ近海ニ往來シタリシガ、此時幕府稍々西國ノ富强ヲ羨ミ、頻リニ改良ノ念ヲ起シ、彼ノ法ニ遵ヒ、海陸ノ軍制ヲ一變セント欲シタル折シモソノ渡來セシチ幸ヒニ、當時參政ニシテ海軍總裁ヲ兼任スル某君ニ命シ、就テ事ヲ問ハシム、某君キーペルニ會シ、先ツ英國海軍將士ノ服章ヨリ、ソノ總裁ノ服章如何ヲ問ハレタリシガ、其

時キーペル之ニ答ヘテ曰ク、君コレヲ問フテ何ノ爲ニスルカト、某君曰ク、我が國モ又貴國ノ制ニ效ヒ、海軍將士ノ服章ヲ制定セント欲スルナリト、キーペル曰ク、然ラバ吾先ツ總督ノ服章ヲ告ントス、知ラズソノ總督ノ服ハ、貴國ニ於テ何人ノ服ス可キモノナルヤト、某君曰ク、コレ方今拙者ノ服ス可キモノナリト、キーペル曰ク、且ツ吾將ニ貴國海軍總裁某君ノ閣下ニ問ントス、方今貴國ノ海軍ヲ擴張スルノ方畧、果シテ如何ノ術アルヤト、某君知ラズト謝ス、又問フ將來ニ於テ之ヲ維持スルノ目途如何ツヤト、某君又知ラズト謝ス、キーペル則ハチ曰ク、然ラバ吾今總裁ノ服章ヲ告グルノ事ヲ止メン、夫レ實ハ本ナリ、飾ハ末ナリト云ヒツ、ソノ袖ノ金線ヲ示メシテ云ヘラク、余ハ英國女皇陛下ノ委任ヲ受ケテ、

亞細亞東洋ノ船隊ヲ總裁シ、現今支那海ニアル四十八隻ノ
 艦艦ヲ縱横進退スル、恰モ臂ノ指ヲ使フガ如クニスルノ術
 アルノ實アリ、故ニ女皇ヨリコノ飾ヲ受ケタリ、今貴君ハ海
 軍總裁ノ任ヲ受ケナガラ、ソノ海軍ヲ今日ニ擴張スルノ術
 ナ知ラザル而已カ、又之ヲ將來ニ維持スルノ術ヲ併セテ知
 ラズ、而シテ徒ラニ服章ノ飾ヲ問フニ汲々スルハ、是レ本ヲ
 捨テ末ニ趨ルモノナリト、某君コレヲ聽キ、呆然言ナカリシ
 ト、龍山子ノ初メコノ言ヲ聽クヤ、頻リニ忿々ノ怒ニ堪ザル
 ナリ、夫レ言語辭氣ノ間、粗暴輕卒ナルハ、軍人武者ノ常トハ
 言ヒナガラ、キーペルノ綠眼紅鬚兒、何ツ其レ我が國ヲ輕蔑
 シ、大臣ニ無禮スルノ甚ハダシキヤ、然レモ徐ニ反觀シテ内
 照スレバ、ソノ論ズル實飾ノ說ノ如キハ、實ニ間然スベキモ

ノニ非ズ、唯コレヲ直說飾リナク述ベタルト云フ而已ノ事
 ニテ、決シテ輕蔑ニ非ズ、又無禮ニ非ズ、之ヲ思ヘバ忿々ノ怒
 頓カニ熄ミ、却テ慚愧ノ念ヲ生ゼザルヲ得ズ、然リト雖モ、往
 事ハ說カズ、既往ハ咎メズトシテ、暫クキーペルノ此說ヲ高
 閣ニ束子テ、耻辱トセスト爲メタ所ガ、尙ホ實飾ノ說ニ付テ
 ハ、現在ニ慚愧シ、未來ニ慚愧ス可キモノアリ、請フ余コレヲ
 說シ、抑モ維新以來、我が國ニ於テハ、夫ノ所謂ル文明開化ハ
 飾ハ成就シタレモ、却テソノ實ナキナリ、試ニ見ヨ、煉瓦石
 室ノ雲ヲ凌ギ、瓦斯ノ煌々タル、鉄橋ノ許多ナル、誰カ人ヲシ
 テ驚歎セシメザルモノヅ、然レモ退ヒテ之ニ住シ、之ニ照サ
 レ、之ヲ渡ルノ人ヲ察スレバ、果シテ如何ツヤ、通國ノ廣キ、人
 民ノ多キヲ以テ、悉ク今余ノ言ハント欲スル所ノモノ、如

キモノ而已ニ非ズト雖也、ソノ多分ヲ察スレバ、識者ノ常ニ
憂ヘテ歎ゼラル、如ク、吾邦ノ人民、多クハ奴隸根情ニシテ、
下ニ驕リ上ニ媚ビ、無學文盲ニシテ、酒食ヲ好ミ、讀書ヲ好マ
ズ、天理ヲ知ラズ、職分ヲ省ミスシテ、智識淺短、局量褊小ナリ、
勞苦ヲ厭ヒ、艱難ニ堪ヘズ、私智ヲ挾ミ、小慧ヲ行ナヒ、勉強忍
耐ノ性ナク、浮薄輕躁、胸中主ナク、自立ノ志ナク、人ニ依頼ス
ルヲ好ミ、觀察思想ノ性ニ乏シク、金錢ヲ用フルヲ知ラズ、約
諾ヲ破リ、信義ヲ重ンゼズ、友愛ノ情ニ乏シク、合同一致スル
ニ難ク、徒ツラニ人真似ヲ爲ルヲ好ミ、新發明ノ事ヲ務メズ、
人民多分ノ景况既ニ斯ノ如クナルノ故ニ、假令ヒ針ヲ棒ニ
ゴマカシ、鷲ヲ鳥ニゴマカスニ足ル辨論家ナル、蘇秦張儀ニ
數年ヲ假シ、五十以テロシクテ學バシノテ、辨論セシムルト

モ、決シテ我が國ハ、既ニ文明開化ノ實ヲ得タルモノト稱ス
可カラズ、僅カニソノ飾ヲ得タルモノト稱ス可キノミ、コレ
我が輩ノ現在ニ慚愧スルモノナリ、且ツ夫レ歐羅巴亞米利
加ノ所謂ル文明開化ノ諸邦ニ於テ、煉瓦、石室、瓦斯、鐵橋ヲ初
メトシテ、ソノ人民ノ暮シニ便チ盡シ、美チ盡シテモ、嘗テソ
ノ國ノ貧乏國トナラズ、大禍大艱難ニ陷ルヲザルモノハ、果
シテ何ノ爲ナルヤ、人民心チ一ニシ、力チ協ヘ、孜孜汲々、夜チ
日ニ次テ稼ギ働クノ故ニ、非ズヤ、苟モ孜孜汲々、夜チ日ニ次
テ稼ギ働クヲナレバ、食前方丈、侍妾數百人ヲ列スル也、又甚
ハダ不可ナルナシ、况ヤ文明開化ノ實ヲ飾ル煉瓦ノ如キ、石
室ノ如キ、瓦斯ノ如キ、鉄橋ノ如キモノニ便チ盡シ美チ盡ス
ニ於テ、何ノ不可カ之アラン、然ルニ、今我が國ノ人民ハ、則ハ

然ラズ、稼ギ働クニ於テハ歐米人ノ万分ノ一ニ效フ能
 ハズ、徒ラニソノ便チ盡シ美チ盡スノミチ效ヒ、自國ノ物
 産チ盛大ニスルチ、務メズ、只務メテ、歐米諸國ヨリ輸入スル
 物品ノミチ用ヒ、之チ得レバ、則ハチ以テ傲然人ニ驕リ、以テ
 榮トナス、コノ風俗流行セシヨリ、遂ニ金貨濫出、國債山ノ如
 キノ今日チ招キタレバ、豈ニ將來ニ我が國ノ貧乏トナリ、大
 禍大艱難ニ陥ルナキチ保スルチ得ンヤ、コレ我が輩ノ
 將來ニ慚愧ス可キモノナリ、嗚呼夫レ齷齪少女ハ至無知ナ
 リ、然レモソノ跳リ三味線ソノ外、藝術上ノコトテ、朋輩ニ辱
 シメラル、片ハ、發憤勉勵シテ、之ニ超過シテ、報復セソコト
 コレ思フ、然ルニ苟モ書チ讀ミ、事物ノ道理チ知り、殊ニ平生
 政府ノ一分チ分任スルチ以テ自負スル堂々タル大日本帝

國ノ男兒ニシテ、夫ノキール氏ノ一言チ胸臆ニ止メズ、現
 在ノ慚愧チ、現在ニ滅去スルノ道チ講セズ、將來ノ慚愧チ、將
 來ニ豫防スルチ爲サレバ、三味線引ニモ及バヌ沙汰ノ限
 ナリ、夫レソノ文明開化ノ實トハ、則ハチ文明開化ノ質トモ
 云フ可キモノコトテ、夫ノ文明開化ノ飾トハ、則ハチ文明開化
 ノ文トモ云フ可キモノナリ、孔子言フアリ、質文ニ勝ツキハ
 則ハチ野、文質ニ勝ツキハ、則ハチ鄙ナリト、嗚呼何レノ日カ
 我が日本ハ、文質彬彬タル國トナルヤ、是レ我が輩ノ見ルチ
 願フテ、未ダ得ル可カラザルモノナリ、

余既ニコノ篇チ草シ、將ニ文學雜誌第拾號ニ掲載セン
 トス、客過ギテ問フ者アリ曰ク、第拾號ハ明治十年ノ歲
 首ニ初メテ出スモノナル可シ、歲首ニ初メテ出スモノ

ナレバ、假令ヒ雍容典雅、瑞煙祥露ノ筆端ヲ纏擁スルヲ
覺フ程ノモノニ非ザルヒ、須ラク從容迫ラズ、太平ノ氣
象ヲ有スル文字アルベシ、然ルニ今コノ篇ヲ見ルコ、ソ
ノ叙事ハ乃ハチ外人ノ我ガ大臣ヲ辱カシムルノ事ニ
テ、議論中ニハ、貧乏ト云ヒ、禍ト云ヒ、艱難ト云フガ如キ
飽迄不吉不祥ノ文字ヲ連用ス、取越シ苦勞モ無^ム乃太甚
ナラズヤ、余曰ク、唉^ア子ハ一休和尚ノ事ヲ知ラザル者ナ
リ、正月元旦鬪^ム臘^ニヲ翠松綠竹賀客雜^ニ選^ニノ間ニ帶行^シ、用
必用心ノ二語ヲ唱ヘ廻リシモノハ、上人ノ衆生ヲ濟度
セント欲スル善巧方便ナリ、余謫劣ト雖ヒ、ソノ意豈ニ
此ト異ナランヤ、

○瑣格拉的傳

雄又識
澁谷啓藏

瑣格拉的希臘國雅典人也、以紀元前四百六十八年生、其父瑣
弗羅尼斯革業雕刻、名聲不甚顯、教瑣亦以其伎、瑣大進、然不欲
專從事於此、好讀理學諸書、親友有古里的者、給瑣資、瑣因以得
撰其師、既長、操業僅營衣食、及年三十一、父死受遺產、則一意修
學、衣服粗惡、足稀着靴、以是稍得自活、其處世也、亦爲兵卒、以勤
其國、前後三戰、大顯勇武、不憚飢渴寒暑、其弟子亞基比亞的蒙
創陷於敵中、瑣救擊而出、國人賞之以冕、瑣乃轉與亞基比亞的、
又曾救弟子熱諾翻^セ肩^ノ之、且戰且走、年六十五、爲雅典議政員、其
五百^人 陞^ニ遷^ニ議長、得^テ管^ニ議會^ニ掌^ニ城門倉庫^ニ鑰、先是海兵官十人、有^リ以下
戰後因暴風雨、情^ニ埋^ニ葬^ニ死者、被^レ罪者、其仇知民欲赦之、故謀延^ニ議
會數次、及瑣爲議長、民既爲其所惑、皆強請^ニ處^ニ以^ニ死刑^ニ、瑣不爲屈、
審訊平反而赦之、瑣夙歸心於天人之學、時雅典有僞學一派、誘

惑後生、瑣反之、務教各人以其正者、鷄鳴求徒、說交際之法、自處之道、或至市井稠衆中、或入職工店舖、與語教法政術、傍及修身、耕植、戰鬪、技藝等事、瑣爲之極難、然靜以待之、不論其在與不在、市居衆中、與居下、徒弟間、言辭恆欣々然、如下得於天性者、是蓋平素克己之効、以形體爲奴隸、使之慣受困乏、至老猶能保其勇氣也、居家樂易、其妻贊亦百橫悍、瑣視爲進修之助、遇之殊極寬恕、希臘人又固信雜神教、瑣獨信真神、然不欲故意忤之、古俗所傳祭神式、亦隨而奉之、至其所從學諸弟子、則授以自主氣象、使下之知己所熱信、在彼而不在此、是以嗣後希臘國理學諸校皆推源於瑣、稱爲正學鼻祖、其弟子最顯者、曰亞基比亞的、古里的、熱諾翻、安赤斯宅涅斯、亞里斯赤不斯、費敦、意斯赤涅斯、設百斯、友古律的、伯拉多、據熱諾翻、伯拉多、二人所記、云瑣所教政術、談論、論理、

修身、算法、幾何等諸學、而未設科程、又共讀詩、爲摘其英華、要在下正其思想、使適實施、以導人生必要之學也、瑣欲教易入、不爲高論、專由日用常語、設問答、任人自思、故自少有識者、皆無不感悟、名之曰瑣家學法、是法伯拉多所傳者、獨爲得其宗、瑣後爲迷信者所陷、其告文藏於神祠、至紀元後第二期猶存、其文曰、默利丟斯子默利丟斯告瑣弗羅尼斯革子瑣格拉的、是人蔑國諸神、變亂希臘教法、破壞雅典少年之志、罪當死、默利丟斯者爲瑣仇所囑者也、瑣仇曰亞尼丟斯、曰來昆、亞業、工、家富、曾以下助士拉西勃魯斯、逐三十虐官、治之、施政暴橫、國人號曰三十虐官、而確立共和政、有功於國、來以論理家爲立法官、瑣被召至訟廷、時年七十、國人聞之、亦不甚駭異、蓋先是善俳詩人亞里斯篤華涅斯、當默利丟斯告愬、作詩嘲笑瑣、浮薄人情、爲其所動、不復敬瑣、如昔日

也、疾瑣者分二黨、一稍知瑣才德、亦頗與其雜神教革新之說、然其心以爲、擬議古來信神、勢必至壞共和政體、而激成革命、故瑣說雖信、要不能以一人之安害全國、一執迷陰險、唯事陵蔑、苟有資財名譽者、則隨而忌之、曾嫉亞利斯赤垤斯之強而逐之、今則忌瑣之智而欲陷之、瑣朋友徒弟、知禍將及、危懼擁瑣、勸其逃亡、或爲戒備、瑣皆不聽、論理家利西亞斯爲作文一篇、其辭悽惻、動人、勸瑣於訟廷、誦之以對瑣、瀾覽賞其文辭流麗、然以爲乏剛強氣象、而却之、瑣固應答明辨、然短於大衆、陳述至受審之日、請審官、用其所習熟問答常話、以分疏、曰若使吾分疏果善、則吾固望其成、然是難必期、故吾不敢自欺、唯順上帝之意耳、瑣罪名二條、曰不信國教、曰壞少年之志、導其不信、瑣兩不直指答之、唯一證曰、已未曾唱無神說、一證其所教少年者爲脩身學、時被罪者多携

兒女親戚、至訟廷、希其流涕哀祈、以動審官仁慈、瑣賤之、不敢傲、告審官曰、吾亦有朋友親戚、兒則具三人、一既長、二尙幼、然吾不敢携至此、是非出於吾頑固輕忽、顧如此、則不論吾所求正邪、均害名譽、吾耻下矣、以智力稱者、亦不免以死爲大不幸、以宥赦爲真長生之醜狀也、瑣言畢、審官言其罪者多三人、則決國法、囚者宜自引罪、撰死、瑣諒已無罪、答曰非吾啻自不知其罪、而有大功於國、故宜終身以國費養於不利他紐摸院禮下遇有可也、吾功實優於阿林、必克祭會、鬪技贏者、希臘國古時於祭日、自競走角藝、各角其伎、勝何則彼以形福汝、我以實福汝也、審官得此答、大怒、論瑣以宜服毒而死、瑣神色自若、有頃發言、曰嗚呼、後之毀國者、應下以公等爲少恩、皆謂爲殺賢人、瑣格拉的、吾實非賢、特毀者藉以重公等之罪耳、公等若今而終其生、幸得免此責、吾年既老、

應速死、凡人皆知戰時免死莫易於投兵而乞敵人之憐、危難之境皆然、避死易、避責難、吾寧衰而就難、不做公等壯而就易也、又曰、是事於吾、有益而無害、蓋今死者免生時之患、最覺適也、縱令訟者懷惡意而陷吾、吾決不怨之、然有一事可請、及吾兒長、苟有以財易德、及自視驕傲等事、願懲之、戒之、則吾固瞑於地下、兒亦應感恩、願吾死君生、兩者孰勝、唯神知之耳、既而瑣被鎖繫、投獄中、就刑期二十四時間、會_テ利安祭_ヲ該祭中延至三旬、瑣因得從容與其親友談論要道、伯拉多錄其語為一書、以傳於今、此抄其前、諸人來會稍蚤、方至門、獄吏以監刑官來傳令、扼費等、使少待、既而逢瑣、瑣呼曰、吾友乎、吾若非想定他界、有全恩、全智之神、遙勝今世、則恐難視死如歸、然君須知吾今實欲速入善人之域也、

獄卒戒瑣、勉少其言語、謂多談氣熱者、用藥可至三四倍之多、瑣則使備之、如其言、益論靈魂不死、雜以諸說及詩學、曰、請見吾終身視_ニ肉体之樂_一如_ニ毒物_一唯_ニ求_ニ學問之樂_一以_ニ中和_一、正直、剛毅、自由、信誠、諸德、裝飾心性、今日安心待命、盡也、古里的謂瑣曰、嗚呼先生、豈無_ニ以_ニ兒子或先生事_一、命_中吾若諸人乎、瑣答之曰、無他事、唯汝自慎、是所以報_ニ吾及吾親族_一也、瑣沐浴後、兒子女親來視、瑣與語、傳遺命而却之、坐_ニ牀上_一、不復多言、及監刑官來、謂瑣曰、吾不敢視_ニ君如_ニ他囚_一、他囚每_ニ吾命_一其服毒、皆有怒色、然君至此以來、恆寧靜溫和、故信_ニ其決不罪_ニ吾也_一、今君死期至矣、願就難避之命、言畢、反顧、涕泚被_ニ面_一、瑣曰、謹聞命矣、又顧弟子、曰、汝識_ニ是人公正_一、吾在獄間、是人日來候_ニ吾_一、今為_ニ吾泣_一、既而獄卒持_ニ毒酒_一來勸、瑣語之曰、汝應知_ニ用_ニ之如何_一、願有所_ニ教_一、卒曰、唯飲_ニ之而後步_一、覺四肢強硬、則宜臥

牀上、因傳其杯、瑣神色不變而受之、曰、猶有餘瀝、可以薦神乎、曰、定量之外、更不具之、曰、吾知之矣、然、吾宜願神祈冥福也、引杯盡之、瑣回顧、視朋友流涕哽咽、曰、公等何為、吾嚮却婦女者、豈非為是乎、而今公等如此、願少有所忍、少選、瑣乃試步、及足覺強硬、歸而仰臥、獄卒來、檢其脛脚而束之、問瑣、猶覺繩索否、瑣荅、不覺自以手觸牀、語弟子曰、若冷氣達心、則吾當訣諸子矣、是為希臘國大賢之終、瑣在國、最以聰明善良、正直稱云、

贊曰、瑣克拉的容貌不颯、低鼻睥目、奇偉甚矣、世傳其未聘妻之前、既知其橫悍、然以為習忍耐之助、終結伉儷、妻欲百方激之、使怒、知其不能、曾取污水、自窓灑之於瑣頭上、瑣徐曰、暴雷之後、必有驟雨、其恬靜如是、蓋希臘國名邑、一曰雅典、一曰士巴爾達、士巴爾達前利古爾厄、設法尚嚴、故其人勇銳不畏死、雅典梭倫設

法尚寬、故其人長伎藝學術、瑣實出於雅典、伯拉多繼之、共傳道統於萬世、亦由其風化浸染之効、然則寬嚴之間、識者將自有所擇矣、

瑣氏能視肉體之樂、如毒物、唯求學問之樂、以中和、正直、信實、自由、剛毅、諸德、裝飾心性、瑣氏之能之、豈無其故乎、蓋瑣氏知有造化主宰矣、知靈魂不死矣、知身後有禍福矣、嗚呼、修身原乎神學、善俗根乎教法、信夫、ナルカフ 敬字評

編輯長 中島 雄
出版人 木平 讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

東京小石川江戸川町十七番地

本局同人社

同兩國藥研堀町三十八番地

印刷所 報知社

同本町三丁目洋書問屋

賣 瑞穂屋卯三郎

同室町三丁目中外堂

同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚閣

大坂心齋橋通道修町

大坂本町四丁目

甲府八ヶ町壹丁目

武州熊ヶ谷本町

所 博文堂

上帝ノ有無ヲ論ズ

箴言一則

中西關係畧論抄譯

天文畧

詩一首

同人社文學雜誌

第十二號



1. Experience makes fools wise.
2. Fools are ever in extremes.
3. Gives places to your betters.
4. Soon ripe; soon rotten.

1 經鍊者使愚能智。

2 愚者常至過甚。

3 有勝於爾者。宜讓之。以爾之地位。

4 速熟者速腐。

文學雜誌第拾貳號 明治十年二月二十二日

第一節 大原ヲ論ス

千賀鶴太郎

論者ノ曰ク、大原上帝ノ存在ハ、吾人ノ親シク實驗スル所ニ因テ、之ヲ證スルニ足ル可シ、吾人ノ常ニ目撃スル各物ハ、一ツトシテ、其ノ因テ生存スル所、原因ナラハ、ナシ、然ラバ則チ唯ニ此ノ各物ノ衆合ニ過キザル此ノ全宇宙ハ、言ヲ待タズシテ、其ノ原チ上帝有ルヲ知ル可キナリ。然リト雖モ、其ノ事實ヲ正シク陳述スルハ、吾人ノ目撃スル各物ハ、其ノ生存チ所謂原因ナルモノニ歸セズシテ、唯一箇ノ變化變動ニ歸ス、夫レ宇宙ニ永續質アリ、又チ變動質アリ、而シテ各變動ハ、之ニ先ンズル前變動ノ結果ニ

シテ、各永續ハ、人類ノ識量ヲ以テ、未タ之ヲ一ツノ成果ト
定ム可カラズ、然レモ、爰ニ又タ言辭ノ用法ニヨリ、變動ノ
ミナラズ、物質^{永續}モ亦タ原因ニ由テ生ズルモノ、如ク世
人ヲシテ思想セシムルヲアリ、一例ヲ舉レバ、水ハ「チキシ
イゼン」「ハイドロゼン」ノ二元素ニ因テ生ズト云フガ若シ、
然リト雖モ、之ガ意旨ヲ推窮スルキハ、唯「此ノ物體ノ發生
スルニ際シ、其ノ起初ハ、一箇ノ原因ノ結果ナル可シ」ト謂
ニ過キズ、上例ニ由テ之ヲ解セバ水ノ起初ハ「チキシイゼ
ン」「ハイドロゼン」ノ混合ナリト謂フニ過キズ、而シテ其ノ
發生起初ナルモノハ、物質ニアラズシテ變動變化ナリ、若
シ又論者アリ、物ノ因テ起初スル所ノ元因ヲ其物自カラ
ノ原因ト爲スモ、敢テ不當ニ有ラズト謂ハ、余ハ但言辭

ノ故ヲ以テ但ニ爭鬪スルヲ欲セズ、今爰ニ事實ノ確證ヲ
揚載シテ、之ニ應答ス可キナリ、物體ニ於テ其起頭スルモ
ノハ、或ハ物ノ外形、或ハ機械含密親和ヨリ生ズル物ノ性
質ニシテ、常ニ變動質ノ區境ニ止マレリ、然レモ各物ノ成
分ハ、此ノ變動質ニ止マラズ、他ニ永續質トテ、物ノ實體及
ビ物ノ固有ノ性質^{此ノ二物ヲ合}アリ、而シテ此ノ實質^固
ニ性質^并ハ、常ニ各物ノ原因若クハ組立原因ト爲ルト雖モ
吾輩人類ハ、未タ之ガ起頭スルノ時ヲ知ラザルナリ、起頭
スルノ時ヲ知ラザルガ故ニ因リ、之ニ原因アルヲ保ス可
カラズ、故ニ曰ク、但ニ變動質ニノミ適應スル推理ヲ以テ
永續質ノ區境ニ慕入スルハ、未タ實驗上ノ許サバル所ナ
リ、

是ヲ以テ之ヲ觀レハ、因果之法ハ唯變動現象ノ區域ニ行
ナハル、ガ故ニ、之ヲ物體上ニ採用スルハ、未タ正鵠ヲ得
タモノト云フ可カラズ、然ルニ又此ノ變動現象ハ、悉ク其
ノ原因ヲ持有スト雖モ、其原因ナルモノハ、果シテ如何ノ
モノナルヤ、果シテ如何ノ質性ナルヤ、唯ニ一箇ノ變動ノ
ミ、實ニ各變動ノ原因ハ、常ニ前變動ヲラザルヲ得ズ、何ト
ナレバ、新ラタナル原因アラザレバ、亦新ラタナル成果ア
ラザルガ故ナリ、若シ又此ノ成果ヲ醸生セシ原因、開關爾
來不朽ニ成立スルモノタラバ、其成果モ前後不窮ニ成存
スルモノナル可シ、物ノ原因タルモノハ、必ズ他ノ原因ノ
醸生スル所ニシテ、其所謂起頭起初ナルモノ有ラザルハ
ナシ、是レ則チ因果之法ノ定規ナリ、是ヲ以テ因果之法ハ、

實ニ大初原ト兩立スルモノニ非ス、吾人ノ經驗ハ、此ノ大
初原ヲ許サザルノミナラズ、却テ之ヲ攻撃スルヲ知ル可
キナリ、
然リト雖モ、余ノ茲ニ筆ヲ擱カズシテ、一層緻密ニ其ノ事
實ヲ推窮シ、一層精細ニ人類ノ親シク實驗スル所ノ原因
ノ性質ヲ分析スルモノハ、抑モ故アリ、宇内ノ原因ハ、悉皆
必ズ、發起スルノ初メアリト雖モ、若シ又發起セザルノ永
續質、此ノ質ハ變動質中ノ永續質ニシテ、前ニ節ニ掲載シ
テ持有スルコトアラバ、此永續質ハ、假令ヒ或ハ事物ノ總元
因ト爲ラザルモ、組立原因ト爲リテ、因果ノ法ニ涉入スル
ガ故ニ、之ヲ至初原若シクハ至普原ト稱呼スルハ誠ニ其
ノ應當ヲ得タル者ト謂フ可シ、今物理学ノ諸課ノ實踐ヨ

リ推理シタル物理上ノ注視偵索ノ結果ヲシテ、果然謬マ
ラザラシメバ、形體上ニ於テハ、此ノ論到ヲ信採セザル可
カラズ、今爰ニ一箇ノ現像ヲ假定シ、倘シ之ヨリ遡リ、其ノ
原因ヲ分析スルキハ、其原因ナル者ハ、一種ノ安置ヲ專有
シタル若干ノ力勢ナル可シ、今世ノ大發明トモ稱揚スベ
キ力勢ノ貯蓄說ヲ以テ之ヲ考フレバ、其ノ成果(即チ萬有
ノ現像)ニ千異万殊ノ變觀アル所以ハ、半ハ力勢ノ量數ニ
基ツキ、半ハ力勢ノ安置ニ由ル可シ、此ノ說貯蓄說ノ果シテ
信ナラシメバ、此力勢ハ、常ニ一物同物ニシテ、常ニ其ノ量
數ニ定限アルガ故ニ、嘗テ加減スル者ニアラズ、然ラバ則
チ吾輩ノ實ニ搜索スル所ノ目的ニ邂逅スト謂フ可シ、萬
有ノ變動現像ニモ亦タ永續質アリ、故ニ吾輩或ル事物ニ

至大原至普原ノ稱呼ヲ附與セント欲セバ、此ノ永續質ハ、
則チ其ノ事物ナリ、蓋シ宇宙悉皆ノ成果(即チ現像)ノ原ヲ
推窮スレバ、但ニ此ノ質ニ至ル迄遡ル可クシテ、實踐ノ及
ブ所之ヲ超越シテ、其ノ蘊奧ヲ偵索スルヲ得ズ、但ニ此ノ
質ノ變遷ノミ知テ、其ノ原ヲ問ヘバ、常ニ力勢
永續 即チ或ル形情ヲ具備シタル力勢ノ若干量ニ外ナラ
ズ、故ニ曰ク、幾數萬ノ原因ノ中ニ但獨リ至普質至初質ヲ
專有シタル至大原ノ存在ヲ首唱スル說ヲシテ果シテ實
驗ニ引證スルヲ得セシメバ、其至大原ハ、此力勢ナリト謂
ニ他ナラザル可シ、〔以下次號〕

○箴言一則

汝欲跳去、先見其地、

柳澤信大

此箴言ハ、凡ソ事ヲ爲サント欲スル者ハ、先ツ宜ク明カニ其結果如何ト我欲スル所ノ目的ハ果シテ得ベキヤ否ヤヲ思フヘシ、又宜ク我自ラ期スル所ノ歡樂利益ハ、ソノ費ヤス所ノ勞苦ニ値ヒスルヤ否ヤヲ思フヘキヲ謂フナリ、夫レ既ニ爲スノ後、自ラ怨ミ人ヲ尤ムルヲ無ンハ、則チ可ナリ、然レモ吾世人ヲ見ルニ、ソノ事ヲ爲シ禍ヲ取ル者ハ、先見ノ不明ト豫料ノ不詳トニ由ラザルハナシ、故ニ古賢此箴言ヲ作り以テ戒ム、豈ニ深切ナラスヤ、

○余頃ゴロ中西關係畧論ヲ讀ミ西人ノ支那ヲ論ズル語ヲ味ハフテ内自ラ愧ルナキ能ハズ因テ抄録シテ同志ニ示ス

中村敬字

事ハ必テズ衆議ニ協フテ後ニ成ル、行ハ必テズ一是ニ衷シ、

チ後ニ久シク、ス可シ、之ヲ爲ス速カニシテ反テ達セザルモ、
 リ○之ヲ行フ○緩ウシ○テ根本ノ固キニ孰レゾヤ、嘗テ東洋ニ
 ハ日本ヲ觀テ異シム可シ、事毎ニ西洋ノ法制ヲ宗トシ、國ノ
 君若シハ臣衣飾亦西人ニ效フ、特ニ之ヲ變ズル驟カニ過
 グルヲ恐ル久シキヲ持スルノ道ニ非ルニ似タリ、我が西人
 初、中國此ニ稱ス、人ノ之ヲ變ズル、緩キニ過グルヲ以テ、不
 トセシカド、今ニ至リテ見レバ、之ヲ變ズルノ、緩キモノハ、實
 ニ斟酌善ヲ盡セシ中ヨリ來リシヲ知ルナリ、他日奏スル所
 ノ件ヲ照シ、次第ニ舉行セバ、華人ノ幸ノミナラズ、亦西人ノ
 幸ナリ、目ヲ拭フテ之ヲ俟ツ、曷ツ欣林ニ勝ン、昔英國ノ駐京
 前任欽差阿公、中堂文祥公ニ對シ、「中國ノ舊制ヲ革除シ、新猷
 ナ不換スル、何ア太ハダ緩ナルヤ」ト云シキ、中堂ノ對ヘニ、「中

國ノ人事ヲ辨ゼザレバ、則ハチ已ム事ヲ辨ズレバ、必ラズ端
ニ因リ、委チ竟ヘ、始チ謀リ、終チ圖リ、進ムニ銳ドク、退クノ速
カナル者ニ似ザルナリ、恐ラクハ後日、事ヲ辨ズル時、貴君將
ニ「中國事ヲ辨ズル、何ツ太ハダ速カナルヤト謂ハル可シ、」ト
對ヘントナリ、

評曰ク、近來吾邦人、或ハ動モスレバ支那ヲ因循ナリトイ
ヒ支那ヲ蔑視スルモノアレド、コレハ自カラ自己ヲ知ザ
ル者トイフベシ、昔シ佐久間象山翁舊幕府ノ政事ヲ論シ
テ曰ク、世ノ論者、幕政ヲ因循トイフヲナレドモ、僕ヲ以テ
之ヲ觀レバ、倉卒ナリ、常ニ倉卒ニ失セリト、余ハ、以テ確言
トナス、幕府ノ末ニ當リ、外洋ト交通ヲ始メ、百_餘度更革セザ
ルヲ得ザル時ナレバ、萬事ヲ處置スルニ固ヨリ宜シク、端

ニ因リ、委チ竟ヘ、始チ謀リ、終チ圖リ、徐々トシテ更革ノ事
ヲ爲シ、十全ノ功ヲ成スベキニ、當時ノ百官、人各々心ヲ異
ニシ、與力同心シテ、忠愛ニ出テ計畫ヲ施コス者ナク、令チ
出ス_レト倉卒ナリ、舊チ改ムル_レト倉卒ナリ、新チ布ク_レト倉卒
ナリ、財ヲ用フル_レト倉卒ナリ、兵ヲ出ス_レト倉卒ナリ、官僚ヲ
進退スル_レト倉卒ナリ、敵ヲ待スル_レト倉卒ナリ、外國ヲ遇ス
ル_レト倉卒ナリ、上ニ倣フ下ナレバ、商賈ニ至ルマデ、交易ヲ
爲ス_レト倉卒ナリ、書生ノ學問ヲ爲ス、翻譯ヲ爲ス、工藝者ノ
其職ヲ爲ス、一モ倉卒ニ非ルモノナシ、倉卒トイフ字ハ、急
遽忽畧トイフ意味ナリ、矜重謹慎ト相反ス、小心翼々ト相
反ス、深謀遠慮ト相反ス、凡ソ智者ハ謹慎ニシテ愚者ハ倉
卒ナリ、謹慎ナル者ハ遲緩ナルニ似テ事ヲ爲ス、必ズ功

リ、倉卒ハ敏捷ナルコ似タレドモ事ヲ爲シテ必ズ敗ル、嗚呼支那ノ因循ニ似タルハ、烏ソソツ其慎重ナルニ非ルヲ知ラシヤ、我邦ノ敏捷ニ似タルハ、烏ソソツ其倉卒ナルニ非ルヲ知シヤ、舊幕ノ政若シ倉卒ナラズンバ、何ツ王政一新ヲ煩ハスニ至ラシヤ、後ノ今ヲ覽ル猶ホ今ノ昔ヲ視ルガ如クナラソコノ說ヲ抱キシコ、偶洋人ノ支那ヲ論ズル、余ノ說ト符合ス、故ニ本社雜誌ニ錄出スルモノナリ、

○天文畧

澁谷啓藏

大空之體、四方上下皆天也、居レ中不動者日也、次者爲水星、次者爲金星、其次爲地球、即我地球也、次者爲火星、次者爲木星、次者爲土星、次者爲天王星、其最外者爲海王星、地球有_二一星_一繞_レ之、即

我月也、而繞_二木星_一者四、繞_二土星_一者七、繞_二天王_一者六、土星又有_二光帶_一二條、繞_レ之、火木之間、有_二四小星_一、曰_二賊_一、土_一、曰_二哩_一、厘_一、土_一、曰_二瞬_一、拉_一、土_一、曰_二珠_一、那_一、大小相仿、木星至大、土星次_レ之、天王又次_レ之、地球又次_レ之、金星又次_レ之、火星又次_レ之、水星又次_レ之、金星夕見在西、名曰_二長庚_一、朝見在東、號曰_二啓明_一、火星一名_二熒惑_一、木星一名_二歲星_一、土星一名_二填星_一、地球徑二萬七千六百九十二里、圍八萬七千一百九十二里、木星則徑三十一萬一千五百里、圍九十七萬六千五百里、地球距日、三萬三千二百五十萬里、天王距日、比地球十九倍、海王則未詳、凡星動者爲_二行星_一、不動者爲_二經星_一、上所舉衆星皆行星也、圍日而轉、軌道有_二遠近_一、圍行有_二遲速_一、而其運動之法、有_二一圓_一、日、一自轉、自轉又有_二遲有_一速、參差不同、其圍日之遲速、則隨_二距日之遠近_一、水星最近、每八十七日十一時辰四刻二十五分一週、海王最遠、

每一百六十六年一週、地球之體圓如橙、北極向上、南極向下、由東左旋、每晝夜自轉一週、三百六十五日二時七刻、圓日一週、日之爲物至大、合衆行星爲一、較日仍小五百倍、形圓亦自西轉東、二十六日自轉一週、光明五色、溫暖和煦、能化生萬物、衆行星皆暗體、受光於日、以各養其物、月徑七千六百三十里、圍二萬三千九百六十八里、距地八百四十萬里、其圍地猶地之圍日、地球圓日一週、月輪即圍地十二週有零二十七日三時四刻四十三分、圍地一週、二十九日六時四十四分、乃與日輪交會、因月行而地球亦行、月再追行數十度、過其自行軌道之數、方能交會、木星之四月、土星之七月、及二光帶、天王之六月、皆圍繞本星、軌道有內外、故其運行或遲或速、時近時遠、俱是自西轉東、亦有朔望圓缺薄蝕之時、此衆星一名衛星、又名第二行星、皆月也、而經星乃定

位之星、如北斗七星、天乙、紫微之屬、每夜雖見東上西落、其疏密度位、亙古不移、其至光大者爲天狼一星、經星中距地最近、然遠於日輪數十萬倍、衆經星除天狼之外、尙不知幾何千萬、遼遠無極、人莫能算、彗星分爲三等、曰有鬚彗星、以其先日而出、其尾在前、曰有髮彗星、以其對日而行、尾光散後、曰有尾彗星、其光芒長、直射如尾、並是繞日而行、軌道橢圓而長、來去方向不定、忽然而來、迫日一過、忽然而去、莫知所適、所以爲異也、有數十年一見者、有數百年一見者、有千餘年一見者、其數甚多、而未詳其物爲何、又別有天河者、西國呼爲乳道、皆以狀名、是無數小星萃聚一處者也、是其大畧也、谷啓曰、甚哉、西洋之明於數也、蓋古言天者三家、曰渾天、曰周髀、曰宣夜、而渾天之說獨行、謂天圓地平、日月星辰、圍行於大地之外、是或可通於方隅一地、而未可通於全球萬

國、至泰西天文師嘉利珂始造窺天大千里鏡、具見日月五星體象、仰觀俯察、識地球轉動圖日之理、有以闡千古未發之蘊云、蓋所以言地圓如橙者、今登高望船、始見桅旗、後見船身、是因水面微圓而凸、礙我目、故地每日輪轉、而人所以下以不覺其旋動、而見星辰西邁者、猶人在船中、不覺船行於此、而唯見兩岸移於彼也、向日則光、背日則黑、所以成晝夜也、其圖日非正對日也、其體常欹而不豎、南北二極、各離企線、偏側二十三度半、春分節候、赤道黃道交接、日在天中、地球一轉、萬國均同、日夜相等、冷暖平和、秋分節候亦同、〔以下次號〕

○進步圖

中村敬字

滋賀縣權令籠手田氏。使畫工寫牛駕運載車行山驛圖名曰進步圖。

兩山夾帶路偏仄。如往而回轉折百。忽見老牛駕車來。運輸米粟。載充積。進步難分。進步遲。終不退。分終不息。不問千里更萬里。能自極南達極北。人生進步亦如此。任重道遠耐艱危。有時快馬走平地。常恐中途或顛踣。不如穀鯨任脚行。得寸則寸。尺則尺。君不見泰西開化非速成。累世勤苦臻此域。

編輯長 中島雄
出板人 木平讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

東京小石川江戶川町十七番地 同人社

同兩國藥研堀町三十八番地 同人社

同本町三丁目巨洋書門屋 瑞穂屋卯三郎

同室町三丁目中外堂 紀伊國屋源兵衛

同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚閣 富士屋金十郎

大坂心齋橋通道修町 報知社支局

大坂本町四丁目 河内屋真七

甲府八ヶ町壹丁目 內藤傳右衛門

武州熊ヶ谷本町 博文堂

阿州德島中通町貳丁目 坂井萬吉

文學社ノ記

沖繩志序

記廉爺事

川村君墓碣銘

功名榮華ノ說

玉池仙館記

妬說

同人社文學雜誌

第拾七號



1. A word once uttered can never be recalled.
2. Do not yield to misfortunes.
3. No man is born without faults.
4. A picture is a poem without words.
5. Economy is itself a great income.

1. 駟^モ不^レ及^ハ舌^ニ、

2. 人^ハ不^レ官^ヘ屈^ニ從^ス禍^ニ災^ニ、

3. 人^ハ生^レ而^{シテ}無^キ過^ニ失^ハ者^ハ、未^ニ之^レ有^ラ、

也、

4. 畫^ハ者^ハ、無^キ言^ニ之^レ詩^也、

5. 節^ハ儉^ハ者^ハ、爲^ニ入^ル息^ノ之^レ大^ナ者^ニ、

文學雜誌第拾七號 明治十年九月三日

○文學社ノ記

文ト云フ、何ゾ必シモ雕蟲篆刻ヲ謂ハン、學ト云フ、何ゾ必シモ章句侏儻ヲ謂ハン、夫ノ天文地理經濟法律ノ論說ヨリ、工作商賈農業等凡ソ百般ノ談話ニ至ルマデ、之ヲ文ニスベカラザルモノナク、又之ヲ學ト名ツクベカラザルモノナシ、推シテ之ヲ曰ハ、天ノ日月星辰アル、地ノ山川艸木アル、是レ皆文學ノ區域ニアルニ非ズヤ、然ラバ則チ、宇宙萬物何事カ文學ナラザラン、纖毫以テ天地ヲ描寫スベク、寸舌以テ鬼神ヲ驅除スベシ、是レ文學雜誌ノ因テ作ル所以ナリ、同人社長中村敬宇君、去年ノ七月ヲ以テ、始テ文學雜誌ヲ發刊シ、大ニ世上ノ喝采ヲ辱ウシ、爾後陸續印出シテ今日ニ至ル、然ルコ、

文學雜誌 第一七號

近ゴロ編輯長中島雄、故アリテ社ヲ退キ、爲メニ編輯ニ從事スルヲ得ズ、因テ姑ク假リニ社員齋藤幹ヲ以テ、之ニ代ラシメタリシガ、幹モ亦タ筆ヲ載セテ、茨城縣下ノ新聞社ニ行キタリシカバ、社長僕ニ委スルニ編輯ノ事ヲ擔任スルヲ以テス、僕ヤ淺學鄙才、且既ニ日報社ノ客員タリ、何ゾ能ク負荷ノ重キニ堪ン、然リト雖ヒ、學問文章ノ事ニ至リテハ、幼ヨリ孜々汲々此ニ從事シ、而シテ未ダソノ門牆ヲダモ窺フ能ハズト雖ヒ、金玉ノ文章懸河ノ論說ノ眼邊ニ觸ル、ニ至リテハ、焉ゾツ垂涎三尺之ヲ健美セザルヲ得ンヤ、況ンヤ僕ガ嘗テ久シク社員ノ末ニ列スルモノタルニ於テオヤ、乃チ謹ンテ敬字君ノ委託ヲ奉シ、方サニ猥リニ編輯ノ任ヲ承乏セリ、今ヨリ將サニ社員擧テ一層ノ勉勵ヲ加ヘ、此誌ヲシテ少シク

世上ノ補益タラシメノヲ冀フノミ、江湖ノ文人學士和漢ヲ擇ハズ、雅俗ヲ問ハズ、幸ニ錦囊ノ秘畜ヲ投寄スルヲ惜ム勿レ、若シ夫レソノ取捨ニ至リテハ、獨リ僕ノ杜撰ニ係カルニ非ズ、社員一同ノ協議ヲ以テ、之ヲ採録センノミ、世ノ此誌ヲ閱スルモノ、請フ之ヲ雕蟲篆刻ノ文トナス勿レ、又之ヲ章句估價ノ學トナス勿レ、我輩將サニ天地間百般ノ學術千種ノ談論ヲ把テ、之ヲ筆頭ニ收メ、以テ此紙上ニ公コセントス、然リト雖ヒ文學ノ區域ハ廣シ、豈ニ我黨一社ノ獨力以テ之ヲ網羅スルヲ得ベキモノナラシヤ、亦タ徧チソ江湖博雅ノ君子ニ商量セント欲スルノミ、

○沖繩志序

中村敬字

我嘉永年間、美國水師提督伯理抵琉球、有所要請、琉球當事者

議以爲孤島小邦與外國交只當致敬盡禮而已矣彼或以力則我唯有婉曲以免難焉耳余聞而歎曰嗚呼小國之所以能存其在於斯乎觀於古今萬國之史大國恃強驕傲自用卑視他邦不轉瞬而亡者多矣而小國乃能得自立自存非小國之獨能智也以其無所恃而自有合於保國之道爾余近反諸吾身而有所悟焉余少也羸弱食飲不多精力患乏顧視同學者健強善飯而或嬰病殞亡余則三十以後體漸肥四十而壯日加人或謂寡慾之所致夫余豈天性寡嗜慾哉顧以蒲柳之質不能恃力自不至太過以合於養生之道耳亦猶小國如琉球者不敢驕傲而有得於保國之道也嗚呼小國弱質而不自驕不自恃則其功效尙如此假設受大國稟強質者當全盛之時及少壯之齡能有所自抑損則大者益大強者愈強而祈天永命永錫難老者又將何如耶抑

夫大小之爲言不過下由比較而生如我邦以大自處耶比支那則小矣以小自處耶比琉球則大矣我將何以自處耶重野成齋先比較而生一語言雖余聞之智小而謀大志驕而氣傲積薄而發至近而理致廣遠余聞之智小而謀大志驕而氣傲積薄而發驟未有下不速敗亡者也今我邦倘能如琉球之安分自守能如西伯之陰行善又能如秦之不與中國朝聘會盟之事厚積而薄發培本而蓄力則庶乎他日果能有所自立而存歟伊地知恒庵著沖繩志蓋恒庵數抵琉球實歷探討之餘參之於本邦及琉球史乘質以土人言以能成斯編故事實之精確記載之完全世未有若此書者也及其乞序也書予所感以與世之同志者參焉

得保國法

○記廉爺事

重野成齋曰蒙莊因庖丁解牛得養生法我敬字氏因養生

信夫恕軒

一老爺僑居本鄉丸山、家極貧、織屨才活、一日拾楮幣六七葉于市、驚喜欲舞、忽見一僮泣來物色、問故、曰、奉主翁之命、懷金以使、今遺諸路、曰、吾獲焉、問其數、々符矣、乃還之、問其名居、不告而去、昔者東涯先生獲遺金于路、乃欲候遺者還之、立待久之、不來、因納之於伊勢神庫、世傳以爲美談、今者爺目不知丁字、且貧困如彼、而其所爲與先生符、不亦奇乎、嗟夫、士而不知廉耻、惟財貨之視者、聞爺之風、豈不愧死乎、記以示于世之貪欲、無厭守錢奴、貞觀之治、以路不拾遺、爲大宗之盛德、今也世會文明之運、而士不知廉耻、反使此老爺擅美名、流俗之弊、可勝歎哉、

○川村君墓碣銘

君諱勇、川村氏、父名正平、仕幕府、母山口氏、安政己未四月八日、

中村敬字

君棟小史僭評

生於武藏國駒木野驛、慶應四年、被擢爲英國留學生、會明治國變、其事遂輟、後舉家移住於靜岡、明治四年、君航于美國、七年、歸入開成學校、九年十二月廿二日、病沒、享年十有八、葬于本鄉瑞泉院、憶余在靜岡、正平翁謂余曰、予罄家資、使兒遊學、予平居不能斷酒、今則不欲一滴入口也、既而聞君勉學、克飭其行、余亦以爲喜、今而罹此不幸、翁其何以爲情哉、君天性溫和、孝于親、篤于友、及訃音達于美國、親朋相會、以悼其死、則故鄉之友可知矣、大學生相謀、立石請余銘、余泣而諾之、辭曰、

燿靈赫赫仰真光、夙齡被服白於霜、珠玉輝煌芝蘭芳、他年簪紱上廟廊、真宰下徵輜、塵界芒冥衆悲傷、千秋斯地遺蛻藏、魂兮安穩在帝傍、

○功名榮華ノ說

安藤勝任

大丈夫當_下以馬革裹屍、安能死兒女手、トハ是レ馬援ガ嘗テ慨
嘆セシノ語ナリ、夫レ援ハ漢室ノ中興ニ際シ甲ヲ被リ馬ニ
上リ、荆棘ヲ闢キテ、大勳ヲ贊成スルノ武將タルヲ以テ、其ノ
屍ヲ馬革ニ裹ムノ雄志ノ、嘗テ胸裡ヲ離レザル、蓋シ怪ムニ
足ラズ、獨リ援ノ然ルノミナラズ、古往今來、風雲ニ際會シ、蛟
龍ニ變化スルノ英雄豪傑ヤ、籌策ヲ帷幄ノ中ニ運ラシ、勝ヲ
千里ノ外ニ決シ、或ハ百萬ノ兵ヲ連テ、戰ハ必ズ勝テ、攻レバ
必ズ取ルノ謀臣猛將ハ、言フマデモナク、苟モ功名榮華ヲ冀
フノ心アルモノハ、爭フテ青紫ヲ陪鑾、塞旗ノ餘ニ攜帶シ、爵
祿ヲ奔走馳驅ノ際ニ攫取センコトヲ欲セザルハナシ、其レモ
草創撥亂ノ秋ナレバ、兔モアレ、天下已ニ定リ、百事畧緒ニ就
クノ日ノ在テ、或ハ自己ノ憤鬱ヲ彈丸ノ下ニ漏シ、一朝ノ不

平チ矢石ノ間ニ訴ヘントシ、專バラ腕力ニミ依頼シテ、以
テ功名榮華ヲ求ムルヲ得ベシトナシ、嘗テ別ニ其ノ之ヲ求
ムルノ術アルヲ知ラザルナリ、夫レソノ功名榮華トハ、果メ
何等ノ物ナルゾ、一時ノ虛譽ヲ弄シ、世上ノ利達ヲ博スルヲ
謂フ乎、將タ一代ノ鴻益ヲ成シ、万世ノ勳業ヲ策スルヲ謂フ
乎、一朝ノ虛譽ヲ弄シ、世上ノ利達ヲ博スルナリト曰ハ、則
チ己ム、果メ一代ノ鴻益ヲ成シ、万世ノ勳業ヲ策スルナリト
曰ハ、豈ニ獨リ馬革屍ヲ裹ムノミチ以テ、大丈夫ノ事トナ
スベケンヤ、抑モ仲尼ノ仁ヲ説キ、孟軻ガ義ヲ説キ、匹夫ヲ以
テ万乘ニ師トシ、千載ノ下百世ノ後、聖ト呼バレ、賢ト稱セラ
ル、ハ、未開ノ昔日ノ事ナレバ、其功名榮華ハ道フニ足ラズ
トシタ所デ、下リテ開明ノ近代ヲ觀レバ、猶モ文徳ハ世上ニ

益ナク、ソノ勢力ハ地ヲ拂テ盡クル所ロカ、開明ノ光線ガ愈
日發輝スルコト隨テ、ソノ功德ハ愈ヨ較著シタルニ非ズヤ、フ
ラソクリソノ功力ハ、蒸氣ト共ニ鴻益ヲ百代ニ傳ヘ、ブルト
ソノ勳績ハ、漁船ト同ク公利ヲ千載ニ流シ、其他政事家法律
士ヨリ、天文窮理凡百般ノ學術技藝ヲ修ムルノ徒ノ、一世ニ
有益ナルモノ、誰カ眞正ノ功名榮華ヲ其身ニ負ヒ、後世ニ遺
コカハ、ソノ然ルコト夫ノ拔山盖世ノ勇ヲ以テ、跼天踳地ノ業
ヲ博シ、或ハ四方ニ馳驅シテ、不慮ノ利達ヲ僥倖スルモノハ、
成ル程一時コソハ、功名トモ榮華トモ云フベケレ、彼ノ身死
シ骨朽チ、百歳ノ後ニ及ンデハ、空シク斷碑殘礎ヲ艸樹荒涼
ノ間ニ求ムルモ、復タ得ベカラズ、之ヲ文學ノ功德ノ以テ一
世ヲ利益シ、千載ニ偉績アルモノニ比スレバ、孰レカ得孰レ

カ失ナル、況ンヤ一朝ノ不平憤鬱ヲ彈丸矢石ノ下ニ漏シ、甘
シテ臭チ万世ニ遺コサント欲スル如キニ至リテハ、亦タ何
ソツ自ラ思ハザルノ甚キヤ、良シヤ十分ノ勝地ヲ所謂英勇
豪傑武夫健將ニ假シ、一世ノ功名榮華ハ尽トク此般ノ人ニ
ノミ歸スルモノトシ、文人學士ノ政事ナリ、法律ナリ、百般ノ
學術ヲ究ムルモノハ、惣テ一生高閣ニ束チラレ、世ニ用ナク
シテ、役々陋巷ニ餓死スルカ、或ハ當時ノ爲ニ容レラズシ
テ、身斧鑊ノ誅ヲ受クルノ不幸アルモノナリト概算スルモ、
猶モ世界ノ有ラン限り、洪水ノ再ヒ來ラザル以上ハ、ソノ功
徳ハ後世ニ傳ハリ、千載ノ下チシテ其風ヲ欽慕シテ止マザ
ラシムルモノ、古今枚擧ニ遑アラズ、況ンヤ文人學士ノ己レ
ノ藝術ヲ以テ、一世ニ貴重セラレ、或ハ經綸ノ任ニ當リ、施政

ノ勳ヲ策スルモノ、世實ニ其人ニ乏シカラザルニ於テオヤ、
嗚呼兵ハ凶器ナリ、争ハ末節ナリ、夫レ已ニ凶器末節ノ非ナ
ルヲ知ルモ、世ノ未ダ黄金世界ニ非ズ、人ノ盡トシテ道德社會
ニ非ルヨリハ、嘗テ此兵争ヲ止ムル能ハザルベキ乎、吁今ノ
時ニ當リ、徒ニ一時ノ功名榮華ヲ不慮ニ僥倖スルヲ冀フテ、
嘗テ別ニ真正ノ功名榮華ヲ求ムルハ術アルヲ知ラズ、却テ
屍ヲ馬革ニ裹マントスルモノハ、多キハ抑モ何ハ心ヅ乎、

○玉池仙館記

王漆園清客、今寓同人社

聞之、莫愁傳南國之湖。桃葉吊西秦之渡。浣紗谿畔、越女垂名、墮
淚江干、湘妃著號、黃絹辭妙、曹娥競讀遺碑、紅粉韻長、蘇小艷留
坏土、訪谷中之公主、因紀錄而彌彰、呼巖上之了頭、經題詞而始
永、千秋佳話、一國名區、則有吾友石埭君者、騷壇巨擘、海國能才、

通醫學十三科、鈔奇書八千紙、往々因花命侶、借酒留賓、評舊石
而倚雲、賦新詩、而摘葉、不愁屋小、勝占秦女之樓、惟美才高、譽重
吾妻之島、額其齋曰玉池仙館、紀其勝也、懷其舊焉、蓋昔有美女
名曰玉人、如玉蕊之臨凡、等玉蕭之再世、銀缸斜背、挑玉指以煎
茶、寶鏡對臨、逞玉容而賣笑、坐向文君爐畔、髮雲香帶、爐烟地傍、
西子湖頭、眉黛妍爭湖色、誠佳茗佳人之雙絕、亦善歌善舞之並
傳、既而命絕綠珠、怨沈白水、柳堤葉落、忽摧短命之花、蘭帳蕪殘、
難覓返魂之樹、風流頓歇、雨散堪悲、縱有詞人、寄懷韻事、約良朋
以聯社、憑勝景、以題詩、燕子樓空、猶紀蘇公之句、馬嵬坡冷、來尋
楊女之魂、惜乎雅韻不長、深情莫續、歎美人之易暮、傷文士之多
窮、君固有情、余能無憾乎、今者君以風雅之替人、領園林之樂事、
池臨半角、間有經營、地拓數引、畧加點綴、昔年茶夢、重題金粉之

詞、此日花明、紀是琴樽之地、松菊亦忘其誰主、池塘不改夫舊名、斯燕去、燕來、花開、花落、其人雖往、而其境猶存、宜君之感慨流連、而不忍棄置也、僕西冷游子、東海羈人、得識君顏、頓消渴念、交好無間、夫異地、應求悉協、夫同聲、詩酒相招、屢下陳蕃之榻、鶯花足娛、如游度信之園、歌扇酒旗、傳聞如昨、風晨月夕、寄慨偏多、吊柳墓而風淒、感櫻池之花老、雖今非昔比、而地以人傳、索我一言、致君之嘆、情之所在、還宜披江戶之圖、言之不文、未易寫迷樓之記、敬字曰、王子博雅善詩文、頃寓我社、為人冲澹、有真氣、余嘆以謂、使王子逢水府義公、烏知其不為舜水乎、使逢艸山元政、烏知其不為陳元覽乎、使其來在文政天保間、余知其決不在于江芸閣程赤城之下、反而思焉、使舜水之來在今日、烏知其不為王漆園氏乎、物少則貴、人亦如此、浩嘆、

○妬說七克中ヨリ抄譯ス

妬トハ、何ツ、人ノ福ヲ憂ヒ、人ノ禍ヲ樂シムナリ、妬心ハ、傲心ノ密友ヨシテ、相求メテ離レズ、人ノ惡事アレガシト計念シ人ノ過失ヲ非毀シ、人ノ災アルヲ幸トス、妬情一タビ起レバ目瞠シ、面黃バミ、唇顫ヘ、齒切シハリ、體寒ク、神憂ヒ、渾身皆ナ妬形ヲ顯ハシ、皆ナ妬ノ害ヲ受ク、聖經ニ曰ク、妬者ハ必ラズ長壽ヲ享ズシテ、先ツ憂ヲ以テ終ルト○セチカトイヘル羅馬ノ理學ノ大家ノ言ニ曰ク、眞福ハ益ト公ナレバ益美ナリ、眞福、益公益美ト、抑モ、人ハ吉祥善事アリトモ、伴侶ノ同シク之ヲ享ルナケレバ、何チ以テ樂マンヤ、何ツ以テ福トスルニ足ランヤ、然ルニ、妬者ノ心ヲ察スレバ、之ニ反ス、福ハ益、私ナレバ益美ナリトイフガ如シ、ソノ伴侶ノ共ニ享ル者アラノヨリハ、

寧ろ善事ナケント、嗚乎、妬心ノ淺マシキ、カクノ如キカナ、○
妬者、ハ、兩、地、獄、ア、リ、ト、イ、フ、何、ニ、ト、ナ、レ、バ、妬、ノ、外、ノ、惡、事、ハ、
何、ニ、テ、モ、面、白、シ、ト、思、ヒ、喜、ビ、甘、シ、テ、之、ヲ、爲、ス、ナ、リ、盜、者、ハ、
財、ヲ、貪、ホ、リ、貨、ヲ、奪、フ、ヲ、以、テ、樂、ト、ナ、ス、淫、者、ハ、色、ヲ、貪、ホ、リ、
好、ミ、以、テ、快、樂、ト、ナ、ス、唯、妬、者、ノ、ミ、一、生、憂、愁、一、生、痛、苦、決、シ、テ、
快、樂、ヲ、享、ル、コ、ト、ナ、シ、他、欲、ヲ、縱、マ、ニ、シ、他、樂、ヲ、極、ム、ル、者、ハ、目、
前、ノ、暫、樂、ヲ、以、テ、死、後、ノ、永、苦、ニ、易、フ、ル、故、ニ、一、地、獄、ア、ル、ノ、ミ、
唯、妬、者、ハ、目、前、憂、苦、ヲ、常、ニ、受、ル、ノ、ミ、ナ、ラ、ズ、并、セ、テ、死、後、ノ、永、
苦、ヲ、受、ク、故、ニ、妬、者、ニ、兩、地、獄、ア、リ、ト、イ、ヘ、リ、西、稗、雜、纂、ニ、妬、者、
ハ、蝸、ニ、似、タ、リ、ト、イ、ヘ、ル、條、ア、リ、何、故、ト、イ、フ、ニ、妬、者、ハ、若、シ、己、
ノ、前、後、四、方、ヨ、リ、富、貴、福、澤、ノ、人、ニ、圍、繞、セ、ラ、ル、時、ハ、恰、カ、モ、
蝸、ノ、火、ニ、圍、マ、レ、タ、ル、カ、如、ク、臭、氣、自、己、ヨ、リ、出、テ、之、ヲ、嗅、ク、テ、死、

ニ至ルナリ、知ラズヤ、富貴福澤ハ、功德ヨリ得ルトコロ
ノ果實ナルヲ、已ノ功德ナク、富貴福澤ヲ得ベキ實アラズシ
テ、徒ツラニ他人ノ得ルモノヲ羨ヤミ、之ヲ妬ミ、遂ニ已ヲ損
シ、并セテ生命ヲ短ウスルハ愚ナリトイフベシ、故ニ、惟、妬、至、
愚、ト、イ、ヘ、ル、語、ナ、リ、情、理、ヲ、諳、ン、セ、ズ、損、益、ヲ、明、ニ、セ、ザ、ル、ヲ、謂、
フ、ナ、リ、吾、黨、之、ヲ、以、テ、戒、ト、ナ、サ、ム、ル、ベ、カ、ラ、ズ、

○告白

前キニ芝公園地日清社ニテ刊行ノ寰海新報ハ此文學雜誌
ニ合併。編輯致シ候間尙其看客モ相替ラズ電覽ヲ賜ヘ

編輯長 安藤勝任
出版人 木平讓

支那雜報
第一七號

官准明治九年七月 每月二回發兌

本局同人社

東京小石川江戸川町十七番地
同兩國藥研堀町三十八番地
賣印 報知社
刷所

賣 同本町三丁目洋書問屋
瑞穂屋卯三郎

同室町三丁目中外堂
紀伊國屋源兵衛

同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚閣
富士屋金十郎

大坂心齋橋通道修町
報知社支局

大坂本町四丁目
河内屋興七

同人社文學雜誌

第拾九號

明治十年十二月五日

日本全史序

自由ノ弊害ヲ論ズ

英王阿弗勒記

所

甲府八ヶ町壹丁目

内藤傳右衛門

武州熊ヶ谷本町

博文堂

阿州德島中通町貳丁目

坂井萬吉

越後長岡

大橋佐平

1. Every cook praises his own stew.
2. Empty vessel make the greatest sound.
3. Doing nothing is doing ill.
4. Virtue is the only nobility.
5. Despise calumny.
6. Labour conquers every thing.

- | | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 6. | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| 勉强勞作。可勝百事。 | 讒口嗷々。藐之勿聽。 | 唯人有德。方爲真貴。 | 不做一事。均做惡事。 | 瓶之虛者。其響最大。 | 庖人各自誇其調饌。 |

高谷龍洲君著日本全史。分爲本紀世家列傳體裁得宜。事實詳明。其文辭由己鎔鑄。隨事變化。近來此種書多出。而不得讓君占一頭地也。余曩閱君所著萬國公法蠡管。贊成而付之刻。今又草此書。以序見屬。余竊歎君之老學日。獲多々益辨而不可已。于言也。叙曰甚矣。史之有益于克己修德也。蓋史所載之事蹟矣。然而無非生于忠奸誠僞公私仁暴貞淫勤惰謙傲儉侈之心者也。興亡成敗禍福吉凶之跡殊矣。然而無非所以天之命之。而人之自取者也。王漆園曰。揭大綱提領。今不多引證。但觀源氏平家北條足利。織豐德川氏之所以隆替治亂。則當知下職位之不可苟據。非望之不可苟企。民心之不可苟欺。天意之不可苟恃也。又當知下生

于其心。發于其事。內外隱顯。機不容髮。而戒慎恐懼之不容或息。克己修德之不可時忽也。然予少時喜讀史。遇群雄競起。龍鬪虎戰。風雨交馳。則拍案稱快。遇忠臣瀝血。上書恨徹九泉。策士論時務。辯決江河。則頓足起舞。王漆園曰。下筆如風。要不過藉以為消遣而已。及下稍老。涉世故。頗經患難。因悟天道昭昭。報施不忒。而亦苦于克己修德之未能也。王漆園曰。雖然。讀史之心。則有大與昔日變者焉。嚮之拍案稱快者。今則怦然以憂也。忠奸誠僞。公私仁暴。貞活勤惰。謙傲儉侈之心。嚮會傍觀。為他人事者。今則近著諸身。奮然以與。怵然自戒也。與亡成敗。禍福吉凶之跡。嚮會漠視。為紙上事者。今則慄々乎。覺與吾身近相關係矣。嗚呼。讀史之心。隨老少而變。有如此哉。王漆園曰。此段山回峯抱。異樣層嶸。文氣如宜。抑夫世者猶史也。史者猶世也。余閱今世之活史。定自慶應明

治以後。不過二十年耳。而忠奸誠僞。仁暴謙傲。其始不可端倪者。卒之盡態呈露。禍福吉凶。無一愆。其報者。王漆園曰。首尾。余于是乎。益信天命之當畏。凜々有不可得而犯者也。詩曰。畏天之威。于時保之。保之何如。亦曰。克己修德而已矣。遂書以質君。令其首肯乎。否乎。

王漆園曰。借題抒寫。滂渤抑鬱。浩々乎不可遏禦。歐蘇韓柳之後。驪珠其在君手。佩服々々

○自由ノ弊害ヲ論ス 安藤勝任

自由ナル一原理ノ我國ニ現發セヨリ、天下ノ論者喋々陳說、殆ソド家常茶飯ノ如クニナリシカド、一抵コノ自由ト云フコハ、歐洲ニテモ頗ル至重至難ナル問題ニテ、善ク之ヲ用ユレバ真正ノ利益トナリ、惡ク之ヲ用ユレバ非常ノ弊害ヲ

生ズルモノナリ、却説、コノ自由ニハ、二様ノ別アリテ一チ人
 文ノ自由ト云ヒ、一チ政事ノ自由ト云フ、此ノ二ツノモノガ、
 能ク兩立併行シテコソ、真正ナル自由ノ本色全備スルモノ
 ト云フベケレ、我國今日ノ形狀ニテハ、假令ヒ自由ノ論説ハ、
 一般ニ傳播スルニ似タレトモ、退イテ人文ノ如何ヲ顧レバ、識
 者ガ常ニ嘆ズル如ク、智識淺陋ニシテ學術ナク、品行浮薄ニ
 シテ道義ヲ顧ミズ、進取ノ氣力ハ、毫モ發達セズ、卑屈ノ心情
 ハ未ダ除却セザルノ人民ニテ、ソノ形狀ハ維新以往ニ比ス
 レハ、何等ノ進歩アルヲ見ズ、然ルニ、世ノ論者ハ、ソノ然ル所
 以チ推究セズ、唯々歐米各國ノ政事ノ自由ヲ羨慕スルノ餘
 リ、或ハ日本政府ハ未ダ議院ヲ設ケズ、憲法ヲ定メザレバ、自
 由ヲ抑壓スルノ政事ナリ、出板發論ノ特權ヲ許サマレバ、民

權ヲ遮斷スルノ措置ナリト、喋々政府ヲ攻撃シ、ソノ甚シキ
 ニ至リテハ、自由ハ戰血ニ以テ買ハザルベカラズ、民權ハ兵
 力ヲ以テ擴充セザルベカラズト、揚言シ、甘ソシテ罪ヲ法廷
 ニ獲ルモノ、數年來世ソノ人ニ乏シカラズ、此ノ如キハ、果シ
 テ自由ノ進運ニ取リテ賀スベキノ事ナリトスル乎、將タ憂
 フベキノ事ナリトスル乎、論者ハ、概チ第十八紀佛國ノ革命
 チ引証シテ、壓制政治ノ禍害ヲ説クモ、余チ以テ之ヲ觀レバ
 佛國ノ革命ハ、獨リ壓制ノ罪ニ非ズ、自由ヲ濫用スルハ、弊害
 ナリト云ハ、ソノハ、其故、何トナレバ、佛國ノ政治タル、數百年
 來、君主ノ權ヲ上ニ収メ、人民ノ自由ヲ束縛シ、竟ニ未曾有ノ
 反動ヲ攪起セシハ、理ノ然ラシムル所ト雖モ、佛國ノ廣キ、士
 人ノ多キ、天下ノ形勢ヲ洞察シ、將來ノ利害ヲ計較スル、豈コ

其人ナシトセシヤ、況ンヤ碩學鴻儒ノ陸續輩出スル、實ニ此
時ヨリ盛ナルハナキニ於テオヤ、饒ヒ能ク天日ヲ將サニ墜
ントスルコト回シ、頽瀾ヲ已ニ倒ル、ニ救フ能ハザルモ、宜シ
ク人心ヲ一時ニ鎮定シ、禍害ヲ將來ニ預防スルノ才畧ニ乏
シカラザルベキニ、左ハナクテ、彼ノ慘毒酷烈ナル劇戲ヲ全
洲ニ演出セシハ、抑モ何ニ由ルゾ、夫レ、自由ノ佛國ニ進達ス
ルヤ、ソノ論理ハ、初メモンテスキューウルテールソノ
諸賢アリテ、之レガ首唱タルニ係ルト雖モ、一旦夫ノ自由ノ實
際ニ現發スルノ時ニ當リテハ、自由ノ保護ヲナシ、之レガ後見
ヲ司ドルモノハ、誰人ナルゾ、夫ノ智識ヲ備ヘ、財産ニ富ミ、耐
忍剛勵ノ氣象ヲ有スルノ上等社會ニ由レリトスル乎、將
疎暴過激ニシテ躁進ニ急ナルノ不平黨ニ由レリトスル乎、

願フニソノ保護後見タルモノハ、當時ニ有名ナルラングト
ソウイリムハアソブデソノ如キ、温良ナル君子ニハ非ズシ
テ、夫ノロビスピールダントソマラーノ如キ、疎暴ナル兇徒
ニ在ルニ非ズヤ、且夫レミラポーラフツトノ如キハ、假令蓋
世ノ眞傑ニ非ザルモ、亦タ一時ヲ匡濟スルニ足ルノ才識ヲ
有スルニ、佛國ノ自由ハ、此等ノ諸人ニ保護セラレズシテ、反
テ、彼ノ暴徒輩ノ奇貨トナリシハ、悲夫、蓋シ佛國人民一般ノ
氣象ハ、概テ急躁淺膚ニシテ、新奇ノ事ヲ好ミ、浮薄輕俊ニシ
テ、耐忍ノ力ニ乏シキガ故ニ、一朝僞君子黨ナル過激輩ガ自
由ヲ奇貨トシ、全洲ヲ聳動セシヨリ、靡然トシテ之ニ傾向シ、
等ツテ君主ヲ誅シ、貴族ヲ戮シ、僧侶ヲ屠リ佛國百万ノ生靈
ヲシテ、塗炭ノ慘苦ニ陷ラシメ、終ニ彼ノ命婦ローランドヲ

シテ、嗚呼、不幸ナル自由カナ、如何ナル罪惡カ名チ汝ニ假ラザルハ、ヤアルト泣嘆セシムルニ至レリ、嗟夫レ、佛國ノ傾覆ハ政府ガ時勢ヲ洞察シテ、俱ニ改進スルノ君務ヲ怠リ、壓制ヲ行フベカラザルノ氣運ニ壓制ヲ行ヒ、自由ヲ與フベキノ人民ニ自由ヲ與ヘザルニ由ルト雖也、抑モワヤコピン社ノ不平黨ガ自由ヲ奇貨トシ、私利ヲ謀リ、徒ニ激論ヲ主張シテ暴徒ヲ嘯聚スルニ非ザルヨリハ、烏ンゾ遽カニ此ノ極ニ至ラン、是レ豈ニ當時ノ爲ニ浩歎シ、後世ニ於テ痛戒スベキノ事ナラズヤ、今夫レ我國自由ノ形狀ヲ觀レバ、ソノ初ハ亦夫レ佛國ノモンテスキュー等諸賢ニ首唱セラレタルニ似タレ也、今日其理論ノ外ニ映發シ、實際ニ開達スル所ヲ見レバ、或ハラソグトソウイリムノ如キ、ミラポーラヘエツトノ如キ、君

子豪傑ナキニ非ザルベキモ、唯ソノ之ニ熱心シテ、之ヲ唱導スルモノハ、反テ多クシヤ、コピン社ノ不平黨ノ如ク政治ニ不滿ヲ抱キテ、自由ヲ奇貨トナシ、私利ヲ營セントスルノ輩多キガ如シ、而ルニ、今日ノ論者ニシテ、猥リニ自由ヲ假リテ、政府ヲ攻撃スルノ器具トナシ、兵力ヲ以テ之ヲ擴充セント云ヒ、徒ニ政事ノ自由ニミ汲々トシテ、人文ノ如何ヲ顧ミズ、空シク夫ノ不平黨ノ爲ニ瞞着セラル、如キアラバ、獨リ我國家ヲ如何センヤ、彌爾氏言アリ、一個ノ政体ヲ人民ニ適當ナラシメンニハ、三様ノ情勢ナカル可ラズ、第一ニ人民ハソノ政体ヲ好シトスベシ、未ダ之ヲ好シトセザルモ、敢テ之ヲ嫌フニ至ル可ラズ、第二ニ人民ハソノ政体ヲ維持スルニ緊要ナル動作ヲ好ミ、兼テ之ヲ成シ、遂グルハ方チ有セザ

ル可ラズ、第三ニ人民ハソノ政体ヲ進達スルニ從事セシムルハ好ミ、兼テ之ヲ成シ遂ルノ力ヲ有セザル可ラズト、是レ誠ニ人民ノ權利ヲ崇敬シ、自由ヲ貴重スルノ確言ニシテ、以テ人民ノ精神ノ國法ヲ維持スルニ緊要ナルヲ知ルニ足ルベキニ非ズヤ、嗟夫レ、佛國ヲ滅スモノハ自由ナリ、獨リ壓制ノ罪ニ非ズ、若シ嚮キニ佛人ヲシテ、自由ヲ保護シ、之レガ固有ノ本色ヲ振揚セシメバ、則チ幸ニ國安チ當時ニ維持スルヲ得ベシ、何ゾ敢テ顛滅ノ憂アラソ佛人不レ暇ニ自哀、而後人哀レ之。後人哀レ之。而不レ鑑レ之。亦使後人ヲ而復哀レ後人ニ也。

○英王阿弗勒紀

吾妻兵治

王阿弗勒。衛設兒。闕弗王之四子也。紀元八百四十九年生。幼敏穎有仁德。父王甚愛之。遂欲廢太子衛設兒。罷德。授位於王。而頗

憚。物議。當是時。羅馬教皇權勢最重。歐洲君民無不奉承其意。父王乃請教皇。得廢太子。更遣王干羅馬。以侍教皇。時王甫四歲。動作異。衆兒。教皇珍愛之。遂賜亞璠英丁之儀。亞璠英丁者。帝王登極之儀。教皇之所親施也。王既歸二年。隨父王再往羅馬。群臣謂其廢適立少。違中國典也。交構黨與。或欲乘父王未歸立。故太子奉之。或欲分國於父子之間。物情紛紜。亂將起。父王聞之。大悲憤。爲發病而歿。衛設兒罷德即位。亡幾亦歿。當是時。教育之道未立。雖帝王受學者甚希。王甫十二未解一丁。然性好索。遜詩。有吟誦之者。傾心聽之。一日。母后會其親族。中座詠索。遜詩。后見諸王子皆有喜悅之色。揚詩卷約曰。誰先善讀者。則予之。諸兄計賞不足。以償勞。不以爲意。王熟視久之。欲必得之。乃求良師。屢勉從事。亡幾來讀。母后之前。后大悅。予詩卷如約。王始解讀書。恍然以爲讀書。

者事業之本。快樂之所由而生也。自是益淬勵曾不知厭倦。諸兄
記念先王偏愛季弟。遇王無道。然王一意勉學。未嘗介于必。王既
究索遜學。意有所不滿。慨然嘆曰。學問之興。必不竭於此。世豈不
有深奧過之者。哉。既而聞有希臘拉丁二學。乃求其學士及書策。
遍通國。兩不能得。以故終不果學。王後大悲之曰。幼閑二者學者
之好機。吾昔幼且閑而不果學。此吾畢生之不幸也。王年十九已
失二兄。季兄衛設兒勒德即位。既而噠人大舉超北海來寇。英兵
不能支。勒德終被重傷而殞。王時歲二十二入繼大統。凡一閱月
而噠人大破我軍。遠近震動。王遂與之約。多予金幣罷去。如是者
二次。噠人受金攻畧自若。國人怨其不致力於國難。往往棄王而
不顧。王已失信于民。不能安居。乃撤衣冠。彷徨於山野之間。而國
遂滅。王時年二十八。轉移流亡之際。頗觀英民慘苦之狀。深自感

惜。決然欲以身救生靈。於是潛行至素墨兒設的舌。匿深閑寂寞
之地。以待時機。初王之出奔也。變形為卒。過入牧者之廬。牧者誰
何。王大惑。欲告以實。恐誤大事。欲以詐失信義。終決意對以下部卒
遁軍來求保庇者。牧者愍其情。不復究訊其姓名。衣分寒暖。食共
甘苦。王亦感其厚奉。事甚勤。一日竈傍修繕弓矢。家婦偶加食竈
上。託之王。身去從他事。王方有所慮。不覺怠託事。婦歸視則食焦
爛不可食。乃大怒罵詈極口。王驚懼第謝曰。請復之。庶幾以償前
罪。婦因授食。倍前數。王善燔炙之。以慰婦心。云。其忠厚率此類。素
墨兒之地可以匿身。不便於舉事。因去之。見孫巴列的二水會流
之邊。有小島。地勢險巖。多鳥獸。遂潛居之。噠人既滅。英凌虐其民。
英人怨恨。思舊主。春三月。噠將某死。某最强悍人。皆懼之。王以爲
時至矣。因竊誘舊臣。信從己者數人。與俱歸隱處。粗爲防禦之備。

而後招下來宗族離散四方者。舊臣等善翼謨猷。舉措得其宜。來附者亦日加。王乃變形爲伶人。挺身候敵城。噠人偷安。率忘戰不備。英人土以爲事可舉矣。乃遣間使。遍召聚舊屬。告以大事。衆聞王尙存。大悅。爭先來會。於是大整軍事。勦隊伍。長驅衝敵城。噠人大駭。少戰大奔。英兵追躡圍之。凡十數日。敵罷餓。交迫不能自保。乃出降。俯伏乞哀。王愛憐。不忍加誅。諭曰。卽奉基督教。爲予防外寇。則予爲汝等之君主。如其不欲者。宜速罷去。噠人歸化者過半。因各給田宅。封其首長。降將嘎斯拉母等。感泣謝恩。率其隸屬。受洗禮。嘎留宮中數日。遇以客禮。多賜金幣。令就封土。嘎等已至。改心易行。終爲英之良民云。先世以來。噠人屢來寇。城郭宮室爲之廢壞。及天下已定。大起工事。修繕之。沿海嚴兵。艦以備外寇。是爲英國海軍之始。又大興農兵之制。平時則耕稼治產業。歲時講武。有

事則執兵從軍。海陸兵制至此全備。王深感學問功用。欲使國人皆就學。自是傾心於教育。擇拉丁書之切人事者。命博士邦文譯之。以備初學。普設立學校。國中子弟入之。擢其秀達者。隨才授官。自是人々勵于學。文道始張。初置警察之官。區全國爲郡。郡有里。里有什伍。以便糾監。黎民變雍蠻風。掃地。王嘗試使人委金環於道。終無拾之者云。又定律令。精選法吏。立陪審之制。最重民之自由。嘗云。凡吾英人自由。當如其思想。然古今稱爲名言。王平分時日爲三。曰攝生。眠食運動在其中。曰聽政。曰修學。拜神。居常乾々秋毫無虛間。以故當世學藝無不通曉者。又多著書。民間尙有存者。王納太夫某之女。義爾士物撒爲后。有二男三女。餘夭。皆賢而孝順。長女衛設兒弗列太稱英國賢婦之祖。王病厚。召太子義德瓦曰。坐予之愛兒哉。予授汝真教。予日殆暮。將去遊于天堂。

死後謹繼大統為元々之君父。憐鰥寡恤孤獨。賑貧窶扶羸弱。果如是天降汝景福。汝有事必祈助於上帝。上帝監臨俾汝收其功矣。王在位三十年壽五十三殂。實紀元九百有一年十月二十八日也。

贊曰。其為物不貳。則其生物不測。信哉。蓋王之為德廣矣。一乎道而已矣。故居焉。則潛龍括囊與世相遺。動焉。則飛龍凌霄兼濟天下。雖則不可測。要皆以此應之。可謂至也。昔唐虞之治稱後世莫能及。而世承軒轅高陽之後。加以股肱之美。今王蠻夷之孤聖。運又遭廢亂。而能撥醜俗。建人紀。開物成務。垂統於萬世。雖曰其功有愈於堯舜者可也。或怪其初不致力於國難。適見其所以為大也。嚮使噫人能治其民乎。王乃樂天安命。優游終身耳。安在干流血以爭天下乎哉。莊周有言。彼其於世未數

數然也。王有焉。今坤輿中。隆盛英倍。利為尤也。而其大體皆祖述王之遺業。經歷之久。漸加便宜者而已矣。世徒見其文物技藝之盛。不察其所原。岡聖察德。唯其形容之效。遂致風俗日替。人心不振。嗟矣。世之播苗者。尙將望其勃然歟。

編輯長 安藤勝任
出版人 木平讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

賣捌所 本

東京小石川江戸川町十七番地
局 同人 社

東京兩國藥研堀町三十八番地
賣捌所 報知社

同本町三丁目洋書問屋 瑞穂屋卯三郎

同室町三丁目中外堂 紀伊國屋源兵衛

同神田鍛冶町壺丁目拾壹番地珊瑚閣 富士屋金十郎

同虎ノ門外琴平町二番地 靜霞堂

大坂心齋橋通道修町 報知社支局

大坂本町四丁目
河内屋興七
甲府八ヶ町壹丁目
内藤傳右衛門
武州熊ヶ谷本町
博文堂
阿州德島中通町貳丁目
坂井萬吉
越後長岡
大橋佐平

明治十一年一月廿六日

恕軒文抄序

學者工藝者ノ爭賽ハ終身ノ長途ニ在リノ說

奢氏傳畧

教法律法孰先後辨

西教婚姻ノ禁

同人社文學雜誌

第貳拾號

1. Live not to eat, but eat to live.
2. A rich fool is a wise man's treasurer.
3. Make not your sail too large for your ship.
4. He who has no shame has no conscience.
5. As is the garden, such is the gardener.

1. 勿^レ爲^タ食^ヲ、而^{シテ}生^ズ宜^シ爲^ス生^ル、
 而^{シテ}食^ス。
 2. 富^シ而^{シテ}愚^{ナル}者^ハ。智^{ナル}者^ハ之^ノ管^ヲ、
 庫^ヲ者^也。
 3. 製^ス帆^ヲ必^ズ視^ス船^ノ之^ノ大^キ小^キ。
 4. 不^レ解^セ耻^ヲ者^ハ。無^キ良^キ心^者也。
 5. 視^ス園^ヲ則^チ知^ル園^ノ丁^ノ矣。

文學雜誌第貳拾號

○ 恕軒文抄序

中村敬宇

余近讀^ニ同人社及大學生徒所作之文、而不得^レ不^レ發^ニ後生可^レ畏之
 歎^一也、夫以^ニ字句、則不^レ無^ニ疵瑕、以^ニ行文、則未^ニ必合^ニ程度、然而燁々乎
 有^ニ異光、奕々乎、有^ニ生氣、此無^レ他、由^ニ于^ニ西學之新質入^ニ其中^一也、親族
 相婚嫁、則其子孫必愚、人種最多雜之邦、其民最多智、文章亦或
 有^ニ然者^一也、夫、今余讀^ニ恕軒文抄、而益知^ニ其然^一也、君於書乎、讀無^レ所
 擇、於友乎、交無^レ所擇、其胸中無^ニ涇渭、容者雜、取者多、故其文有^ニ光
 彩、爛然奪^レ目、既已足^ニ與^ニ世之鉅匠、駢立而無^レ媿矣、君今爲^ニ大學教
 員、以與^ニ生徒相觸摩、新質之入^ニ其肺腑者、日雜月多、則今而後君
 之文辭、余不能^レ測焉、

○ 學者工藝者ノ爭賽ハ終身ノ長途ニ在^ルノ說 同上

一得未タ遽カニ誇詡自ラ足レリト爲スベカラズ、一失未ダ遽カニ
低沈失望スベカラズ、蓋シ學者工藝者ノ争賽ハ、終身ニ在ル
ナリ、凡ソ勝負事ヲ爲スニ、一時ノ損得ハ、偶然ニ由ルヲモ、ア
レドモ、永キ間ノ勝負事ハ、勘定ノ上手ト、下手トニ在リ、算用
ノ巧ト拙トニ關係スルヲナリ、忍耐力、即ハ辛防強キ力モ
勘定ガ合テ行先ノ見込モ付クトキハ、自カラ出來ルヲナリ、
今學問ノ事ヲ勝負事ニ比較スルハ、少シク不倫ナレドモ早
分リノ善キヤウニ喩テ取リタルナリ、競馬ヲ爲スニ、三度テ勝負
ヲ決スルヲナラ、始メノ一度乘リ後レタリトモ失望ハセザル
ベシ、又始ノ一度乘リ勝チタリトモ後ノ二度ノ一ハ、未ダ覺
束ナケレバ、得意ニナルヲモ、出來ヌナラン敵ニ一度ハ先チ
勝チテモ、三度テ勝負ヲ決スルヲナラ二度勝チハスレ

ハ、我ニ於テ勘定ハ十分ナルベシ、蓋シ人ニ少年中年晩年ノ
三時限アリ、コノ三時限ヲ過キテ後、學問事業ノ成敗ヲ綜算
スルニ非レバ、真正ノ勝劣ハ、知ラルベカラズ、故ニ一種ノ人
アリ、少年ノ時師友ニ乏シク、書籍器械ノ助アラズ、又學問ヲ
爲ル閑暇機會モアラズシテ、耕牧漁獵、交易賣買等ノ事ニ、時
日ヲ送ル、忽チコレヲ見レバ、コノ少年ハ、學校教養ヲ受ザ
ル不幸ナル者ノ如シ、然レモ、コノ人カクノ如ク紛繁ナル職
務、勞碌ナル日工ニ從事シタランニ、果シテコノ人、常ニ觀察、
比較、經驗、考思ノ事ヲ忽カセニセザレバ、造化ハ彼ガ大部ノ
書ナリ、森羅萬象ハ、彼ガ器械ナリ、繪圖ナリ、與ニ交ハルトコロ
ノ老少男女貴賤諸職百工、彼ガ師匠ナリ、朋友ナリ、カクシテ、
良心ニ原ツキ、遭際ニ從ガヒ、ソノ職分ヲ盡シ、ソノ品行ヲ善

シ、以テ上天ノ恩惠ニ答ヘ、有用ノ人タラシトナ期セバ、中年
カクノ如ク怠タラズ、晩年カクノ如ク、益勉メタラシニハ、コ
ノ人、ソノ終局ニ臨ンデ、ソノ生平ヲ綜算セシコ、必ズ大イコ常
人ニ過ル者アラシ、ソノ長途ヲ爭賽ノ場トシテ、他ノ對敵ニ
比較シタラシニハ、必ラズ勘定ノ上手ナル方ノ人ニシテ、算
用ノ巧ミナルモノトイハルベキナリ、縦ヒコノ人、少年中年
ノ二時限ニ在テ、屢失敗シ、困蹶シタリトモ、即ハチソノ失敗、
ソノ困蹶、皆ソノ人ノ爲ニ轉シテ後來ノ成就發達ノ果ヲ結
ブノ因トナラザルモノナシ、然ルニ又一種ノ人アリ、少年ノ
時、師友書籍ノ利益ヲ受ケ、學校程課ノ事ヲ勉メ、善クソノ業
ヲ卒ヘ、一時上級ヲ占メ、少年ノ功名ヲ成就シタリトモ、或ハ
之ニ由テ遽カニ小成ニ安ンジ、或ハ同列ヲ輕視シ、或ハ居然

自ラ足レリトシ、自ラ大ナリトシ、中年ニ至リ、復タ勤勉ノ心
ナク、徒ラニ世途ニ跋渉シ、晩暮ニ至レバ只安佚ヲノミ事ト
シ、自カラ額放ニ甘ンズルモノアリ、コノ人ハ少年ニ功名ヲ
得ルト雖モ、中晩ノ二時限ニ至ツテ、ソノ志氣全ク弛廢シ
テ、遂ニ學問觀察、考思比較ノ好機會ヲ失ナヒ、後事ヲ繼カズ
シテ、前功ヲ空シクス、コレ一生ヲ豫算スル勘定ノ下手ナル
者トイハザルヲ得ズ、少年ノ一時限ダケハ、勝利アリト雖モ、
中晩ノ二時限ニ至ツテ、大敗ヲ取ルモノナリ、コレニ反シテ
更ニ又一種ノ人アリ、少年ノ時ニ、惡行ニ陷イリ、下流ニ伍ス
ト雖モ、中年ニ至リ、始メテ大イニ悔悟シ、發奮勉勵シテ、學問或
ハ事業ヲ成ス者アリ、又少年中年ノ二時限ニ在テ、絶エテ一
モ爲スナク、晩年ニ至ツテ、學問ヲ始メテ、名家ニ至ル者、ソ

ノ例、亦多クコレ有ルナリ、普理斯土禮ノ如キ、年四十マデハ
化學ノ事ハ、毫モ知ラズ、或ル時、釀酒家ニ至リ、泡起タル酒ノ
上ニ、^カ衛氣ノ光レルモノ浮^カミ流レテ忽チ又消滅スルヲ見テ、
奇ナルヲ思ヒ、書冊ヲ檢索スレトモ、其故ヲ解スルヲ能ハズ
コ、コ於テ、己ノ意ニ從ガツテ、粗造ナル器械ヲ造リ、經驗ノ
工夫ヲ積^ミテ、遂^ニオキシエツム^ルニ至リ、遂ニ化學ノ大家ノ名ヲ不朽
ニ傳ヘタリ、コ、コ知ル、普氏ハ少年ノ時、學校教育ノ益ヲ得
ザレトモ、中晩ノ時ヨリ自己ノ力ニ由テ、觀察經驗ノ機會ヲ失
ナハズ、化學ノ爭賽ニハ心ナクシテ自^カカラ古今化學ノ長途
ニ、全勝ヲ收メシ中ノ一人トナレリ是故ニ、學者工藝者ノ爭
賽ニ、其大小長短、千差万別アルナリ、爭賽シテ勝負ヲ競フ、
一箇ノ學校ニ止マルモノアリ、少年ノ試験ニ止マルモノアリ

リ、コレソノ小ナル者ノミ、短ナルモノノミ、若シソノ長キ者
ハ、古今ニ達シ、ソノ大ナル者ハ、天下萬國ニ及ブ、美術ノ爭賽
ハ、以太利^{イタリヤ}之ニ勝ツモノ、如シ、水師及ビ交易ノ爭賽ハ、英國
之ニ勝ツモノ、如シ、教法ノ爭賽ハ、西教コレニ勝ツモノ、
如シ、歐羅巴亞細亞ノ爭賽ハ、今ハ恰カモ人ノ中年ノ時限ノ如
クニシテ、歐羅巴之ニ勝ツモノ、如シ、晩年ノ時限ニ至ツテ、
果シテ如何ゾヤ、我邦今ヨリ以後宇内萬國ト文藝ノ爭賽ハ、
方今ノ年少ノ人ニ屬ス、願ハクハ益^{コト}旃^ヲ勉^メヨ、決局ノ勝利
ヲ收ムル者ハ、忍耐力アルノ人ニ在リ、今日コノ學校ニ於テ、
上流ヲ占メ、勝利ヲ得ルノ人中年晩年ニ至ツテモ、固ヨリ必
ズ善キ生涯ニ進ムヲ得ベキヲ信ズ、ソノ或ハ今日ニ在テ下
級ニ沈滞スル者モ、決シテ志氣ヲ挫キ喪ナフコトナカレ、或ハ

一時一功名ヲ蹟ヅクトモ、尙ホ中晚ノ二大時限ノ有ルアツ
テ前程ナホ遠シ、鵬翼ヲ雲衢ニ振ヒ、鶴唳ヲ九天ニ響カシム
ル、其レ亦々期シテ待ツベキノミ、

○奢氏傳畧

吾妻兵治

奢氏不詳、其所自出、或云西國所謂撒坦撒坦於邪惡者之裔也、蓋方
上古朴素之時、其族甚微、傳世行事不可得攷、中古以來、風俗漸
移、民尙文飾、奢氏之蹟於是乎顯焉、當夏時居會稽者曰靡、事太
康暨孔甲、頗見信任、靡五世孫侈、相王履癸、嘗與末喜謀、說王作
傾宮瑤臺、爲酒池脯林之歡、及成湯起、奢氏舉族遁隱於窮海、武
乙即位、不治政、普求遠方珍怪、使者東抵渤海、奢氏乃獻金石珠
寶、以功得復籍、迄帝辛時奢廉始進象箸、能承先世之志、爲王廣
沙丘苑臺、設長夜之飲、既而周武王滅商、毆廉于海、偶誅之、其後

代或事穆王暨幽厲、致顯榮者甚多、當秦皇漢武之盛、嬖臣相將、
概出於奢氏之門、自是之後、或顯或微、多家于鄭衛邯鄲之間、而
洙泗之間、則寥寥絕迹、云、其在本邦者、著于平氏、極于室町、盛于
德川氏、然其所存僅止于公伯縉紳之間、猶未甚繁殖、其在泰西
者、希臘羅馬末世爲最盛、二國遂以此廢滅、而奢氏亦絕不祀、後
歷數百千年、遺蘖復漸衍蔓、而今日歐洲全土、無非奢氏之族者、
我嘉永以降、其自泰西來歸者、日夥、一日賤民寒夫、無處而不見
焉、而皆冒開化氏云、
野史氏曰、奢氏其達孝矣乎、奕世相承、不墜祖訓、天下有道、則隱、
無道則顯、廢國絕世、未嘗不由奢氏之力、可謂盛矣、我東洋敬泰
西猶天國、往年開化氏之始來也、以爲是西人之所貴也、於是乎
士民翕然竭家資、師事之、相率而說其經世利民、此深不知開化

氏者也。夫開化氏者，即奢氏別稱也。已經世利民，豈其祖訓也哉。嗚呼！達孝若奢氏，顧以其非孝者稱之，世人之狂妄亦甚矣。今乃紀其傳世梗概，聊為訴其冤云。

王漆園評，以寓言諷世，東方之詠諧，莊周之放縱，賈生之痛哭流涕，合而為龍門之筆削，可名世，可勸世，誠有益世道之言。

竹添井々評，憂國熱腸，借戲謔發之，氣盛筆健，所向無前，近時希見之作。

○教法法律孰先後辨
中島雄
教法者，勸善於將然之前，律法者，懲惡於既然之後，積之以教法者，德化洽而民氣樂，積之以律法者，法令極而民風衰，徵之於米利堅法蘭西之盛衰，可知而已。嘗聞之於多克未爾曰：米利堅人

民之和同合一，使政體牢固，實由于信教法之使然也。唯其然，故若其政治，雖外若不與教法相關，而內實相為表裏，議士之邃於學識，篤於忠愛者，於是常深致意焉。至如富蘭克林始建議，以為國會集議之始，宜祈禱真神，而今立為恒例，率由此禮，人或疑其迂者，然自建國至今，日百餘年之久，唐虞揖讓之風，未嘗一日變，聞曩有委員相謀，欲還致下關之償金於我之議，其人民意思之綽々，有餘裕，可以見焉。是豈非德化洽而民氣樂者乎。如法蘭西不然，自紀元八百年代，其先王查爾曼之時，早既用力於法律，世々相享，至今日其法律之多，至三千，如人之所稱道，拿破崙成典，實出於此國者，然察其政治民心，自拿破崙之制作其成典，僅々六十九年之間，七覆政府，八變國體，民心洵々，戟手反目，未嘗一日安居矣。是豈非法令極而民風衰者乎。我同人社學校素

嘗有_二說教之場_一而社友之臨焉者甚鮮矣頃又有_二講法之會_一而社友之聽焉者滿堂矣余固不知_二教法_一又不知_二律法_一然嘗觀_下米利堅法蘭西之異_中盛衰_上知_レ所_二先後_一因爲_二此辨_一質_二之社友_一

議論之真確不必言_レ文法之森嚴如_レ程不識之治_レ兵敬宇評
 ○西教婚姻ノ禁 橫尾東作

凡男女夫婦ニ非_レス_レテ苟モ合_フ是_ヲ姦淫トイ_フ國家既ニ嚴律アリ然ニ媒妁ノ證ト婚姻ノ儀トヲ論ゼズ娶ル可_レラズ嫁スベカラザルノ禁アリ今左ニ譯出ス

- | | | | |
|--------------------------|------------|--------------------------|-------------------------|
| 一 祖母
二 祖父之妻
三 妻之祖母 | 男子娶ルベカラザル女 | 一 祖父
二 祖母之夫
三 夫之祖父 | 女子嫁ス可 _レ ラザル男 |
|--------------------------|------------|--------------------------|-------------------------|

- | | |
|--|--|
| 四 父之姊妹
五 母之姊妹
六 父之兄弟之妻
七 母之兄弟之妻
八 妻之父之姊妹
九 妻之母之姊妹
十 母
十一 繼母
十二 妻之母
十三 娘
十四 妻之娘
十五 子之妻 | 四 父之兄弟
五 母之兄弟
六 父之姊妹之夫
七 母之姊妹之夫
八 夫之父之兄弟
九 夫之母之兄弟
十 父
十一 繼父
十二 夫之父
十三 子
十四 夫之子
十五 娘之夫 |
|--|--|

十六 姊妹
 十七 妻之姊妹
 十八 兄弟之妻
 十九 子之娘
 廿一 子之子之妻
 廿二 娘之子之妻
 廿三 妻之子之娘
 廿四 妻之娘之娘
 廿五 兄弟之娘
 廿六 姊妹之娘
 廿七 兄弟之子之妻
 廿八 姊妹之子之妻

十六 兄弟
 十七 夫之兄弟
 十八 姊妹之夫
 廿 娘之子
 廿一 子之娘之夫
 廿二 娘之娘之夫
 廿三 夫之子之子
 廿四 夫之娘之子
 廿五 兄弟之子
 廿六 姊妹之子
 廿七 兄弟之娘之夫
 廿八 姊妹之娘之夫

廿九 妻之兄弟之娘
 卅 妻之姊妹之娘

廿九 夫之兄弟之子
 卅 夫之姊妹之子

編輯長 安藤勝任
 出版人 木平讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

本局同人社
賣捌所

東京兩國藥研堀町三十八番地

印 賣捌所 報知社

同本町三丁目洋書問屋

瑞穂屋卯三郎

同室町三丁目中外堂

紀伊國屋源兵衛

同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚閣

富士屋金十郎

同虎ノ門外琴平町二番地

靜霞堂

大坂心齋橋通道修町 報知社支局

明治十一年三月二十五日

招魂碑

書歐米紀行後

歌一首

詩一首

病窓漫稿自序

福島新聞序

古今躰詩四首

英人己が家ヲ愛スル事

英人外貌ヲ修飾セザル事

送増田充績氏之朝鮮

同人社文學雜誌

第貳拾貳號

大坂本町四丁目

河内屋興七

甲府八ヶ町壹丁目

内藤傳右衛門

武州熊ヶ谷本町

博文堂

阿州德島中通、町貳丁目

坂井萬吉

越後長岡

大橋佐丞

姫路俵町十六番地

山野長兵衛

上州高崎田町三丁目

文心堂

書肆

中村敬宇

栗本鋤雲

大江孝之

副島公

安藤勝任

中島雄

同

中村敬宇

同

同

1. Oil and truth will get uppermost at last.
2. No smoke without fire.
3. A mind quite vacant is a mind distressed.
4. An egg to-day is better than a hen to-morrow.
5. Little and often fills the purse.
6. The life of man is a journey.

1. 油與真理。後必占上流。
 2. 無火。則無烟。
 3. 心之空閑者。即心之憂
 愁。
 4. 今日之一卵。勝於明日
 之一鷄。
 5. 些少而屢次。囊則滿矣。
 6. 人之生者。猶旅程也。

文學雜誌第貳拾貳號

○招魂碑

中村敬字

明治十年二月、鹿兒島逆徒作亂、欲取熊本城、以爲根據、攻之甚力、久而不拔、城中糧食殆盡、將士戮力、防禦益嚴、會天兵海陸進討、逆徒據險抗拒、憤悍健鬪、官軍奮勇苦戰、死傷甚多、遂達于熊本、蓋死者之功居多、而逆徒之亡、自是而決矣、其後退于日向、出沒豐後、走鹿兒島、而殲于城山、夫鹿兒島之兵、素稱強悍、耐苦善戰、閱八月、竟歸殄滅者何、以其逆天也、今之官軍、非有豢養之素也、非有富貴之望也、而一旦臨戰、勇如賁育者何、以其順天也、雖然、鹿兒島之兵、亦昔之順天而有功者也、今乃順逆易地、功罪相反、是其故可深長思焉、始東京區戶長書記胥謀、差人于戰地、看護傷者、又輸送軍須、有礙而不果、及事平、爲死者立碑于九段坂

招魂社前、以慰其忠魂、請余銘、余嘉其志、不敢辭也、銘曰、

天佑皇運	算無遺策	孤城久守	四面受敵	屹然不動
克忍艱厄	天兵下矣	雷轟電激	將勇士奮	爭冒鋒鏑
遂奪險隘	內外夾擊	大勢迺定	罪人斯得	豈可不思
死者之績	宣揚義風	勒銘貞石	永勸後人	以衛帝國

○書歐米紀行後

栗本鋤雲

有眼而不能讀其字、替也、有耳而不能辨其音、聾也、而雖有口舌、不能達我意、與暗何擇焉、予嘗犯暗聾替三病、而厚顏遊于歐洲、殆乎周年、意雖頗勞、茫無一得而還、豈得不忸怩羞赧乎、蓋其揣摩臆測之言、大半不中肯綮、而徒足取笑于大方也、如櫻洲中井君、全與之相反、不特眼耳口舌無三者之病、轉益以聰明能辯、故英海米驛到處有諷咏、紀述鑿々實際、有能悉他人或不及知之

隱性、潛妖者、猶鏡照而犀燃、是可欽也、及蒙示其稿、敢述予舊愆、而證受益不淺云、明治十一年二月、

世又有二種人、頗讀洋書、辨英音、講佛話、而尙且不免于三病者、此將以何法治之耶、先生昔嘗爲侍醫、其必有以療之矣、呵々、敬字評

○讀彰義隊墓記

大江孝之

手向つる烟もまばしむせふなり忍か岡のこけの初花

○詩一首

副島公

神即道之體、道即神之躬、以道頌人人斯靈、人雖眇々、道不窮、或爲聖仁、或明哲、爲義爲烈、爲孝忠、他山之石玉、可攻、道與道、琢炳玲瓏、尊道敬神、所自重、何況天命如響通、是以古君子齋戒常由衷

右副島公之作也

○病窓漫稿自序

安藤勝任

陸游有句曰、病覺死生真大事、老知道德愧初心、道德之事、姑措焉、至曰、病覺死生真大事、可謂至言矣、夫人嘗平素無病之時、心意爽快、眠食不變、各奔走其業、惟日不足、又何暇問死生之為何物乎、甚則或有暴飲過食、不顧養生、晝夜流連、以三日醒自快者、迨至一旦罹患、右藥左石、鬢絲禪榻、肉脫骨立、雖嘗以強壯自誇者、不能不瞿然警戒、而覺死生真大事、況於蒲柳弱質、如余者乎、余在東京、罹重病、殆死者二回、其入療於順天院、前後二百有餘日、千艱万楚、不啻覺死生為大事也、其間、或探韻苦吟、或與朋友唱酬、以慰無聊、其詩稿、積為冊、名病窓漫稿、嘗聞之西哲曰、人生之幸福、莫大乎身體健康、身體健康、莫先乎養生、雖然養生健康、

豈易事哉、其惟淡薄自奉、善勤滋養者、能之乎、其唯善勞動心思與身體以適之者、能之乎、其惟克己修德、敬畏天命者、能之乎、若其能之矣、則人生之幸福、其孰有下大于是者哉、詩曰、豈第君子、求福不回、求福何如、亦曰、養生健康而已、抑夫人苟能常思死生為大事、以享受天福、則所謂老知道德愧初心者、亦幾乎免矣、是為序、

談道德而無頭巾氣、論家常而妙有風致、可稱佳篇、敬字評

○福島新聞序

中島雄

宮城佐藤清君、將公行福島新聞、來徵余不腆之文、余抵掌曰、有是哉、君善勉之、則分權論成矣、抑君知今日分權論之有大關係我王政乎、向我國之郡縣天下也、所謂武門武士者、忝其舊主之象養、忘大義、昧名分、動有寧負朝廷、勿負八幡公之言、故當此之

時集權於中央政府、一時不得已之計也、至今日、形勢異此、普天之下、率土之濱、固已王土王臣、皆能奉王化、遵王令、故不分權於地方、豈獨悖無偏無黨蕩々之王道而已、奈地方赤子之衰頹、何故當今之時、謂成、分權論者、吾徒也、然吾嘗謂、都人士之論地方、事既非目擊、見固屬想像、故能得成、分權論者、不在都人士、而在地方之人、地方之有司、而在其新聞記者、何者、地方之有司、中央政府之奴隸而已、奴隸之人、豈有向其主人論分其權之氣力哉、至若新聞記者、則不然、既無官守、而有言責、故侃々之正議、諤々之公論、無所憚、無所忌、痛陳人民疾苦之情狀、切述州郡疲弊之景況之間、天子之容、可動焉、宰臣之聽、可驚焉、苟動天子之容、驚宰臣之聽、是則分權論之成也、今君抱明時之識、與椽大之筆、不求榮華於都城、決然向邊陲之小縣、則能得成、分權論者、君豈非

其人手、若夫不然、傲以爲智、訐以爲直者、非吾所望于福島新聞也、爲之序、

論新聞記者之有大關係、鑿々中窾、非泛論也、敬字評

偶成

同

生子當如李亞子、娶妻當得陰麗華、男兒此願非誇大、經畧八荒起自家、

寄懷勝海舟先生

同

天下英雄僅屈指、象山被斬南洲死、東方別有謫仙人、騎鶴太虛觀戰蟻、

贈窪某、々出仕大藏省者、頃有吞官遠遊之志、

斬茅兮嘉樹列、發石兮清泉激、君不見人生多少得意事、果決往々奏偉績、

山口讚井逸三余之莫逆也、曩出役熊本裁判所、頃有詩
來寄曰、懷^レ之壯士元慷慨、拔^レ山之英雄發^レ悲歌、思^レ君淚
灑別君袖、丈夫自古泣癖多、蓋歎不遇也、乃次其韻却寄
男子存^レ心、須^レ快樂、胡爲鬱々發^レ悲歌、請君試展地球幅、立^レ身行^レ道。
綽[○]其[○]多[○]。

此種詩、直自肺腑中流出者、絕非如自古人詩句中合湊成上
者比^甲所以可貴 敬字評

○英人已ガ家ヲ愛スル事

中村敬字

昔^シノ日耳曼人ハ、近傍ノ交友ニ善キ人民ヨリ、ニミツク
(啞人)トイヘル^シ。綽^ナ號ヲ取^レリ、今日ノ英人ハ、^{フラン}法蘭^ス西^{アイ}愛蘭^{ランド}ノ言
語多キ人ニ比スレバ、矢張啞人ト呼做サルヘシ、然レモコ、
ニ又英國人民ニ一種獨リ具ヘタル最トモ著シルシキ性行

アリ、即ハチ熱心ニ其家ヲ愛スルコトナリ、試ロミニ英人ニ一
箇ノ家ヲ與ヘヨ、シカラバ、コノ人朋友會社ニハ、サホドカマ
ワズ、意ヲ留メザルベシ、
蓋シ英人一箇ノ家ヲ持^タント欲スル爲ニハ、淼渺タル洋海
ヲ渡ルノ艱危ヲ事トモセス、身ヲ草莽ノ上、霜雪ノ中ニ置テ、
憚カラス、カク苦辛シテ一家ヲ樹立スルコトナリ、ソノ四顧寂
寥トシテ人烟ナキノ地ニ居リ、廣莫幽僻ノ中ニ生涯ヲ送ル
ヲ、少シモ苦ニハ思ハヌナリ、妻子ヲ以テ朋友ト爲セハ、斯ニ
足レリ、其他ヲ要セサルナリ、サルカラニ、日耳曼種ヨリ出シ
英吉利、亞米利加人ハ、新地ヲ闢ク爲ニ、甚ハダ善キ人民ナリ、
地球上諸部ニ蔓延シ、速カニ村落ヲ成シ、邦國ヲ形ヅクルコ
トナリ、

法國人民ハ、新地ヲ關クニ宜シカラス、進歩ノ景況ナシ、コレ
 全クツノ朋友國民ト群居シ、交接往來スルヲ深ク好ムガ故
 ニ由レリ、而ソツノ交友ニ好キ温雅ノ儀容態度アルモ、コノ
 性ニ原ツキ發スルナリ、昔シ法人ノ北亞米利加ノ地ヲ關キ、
 之ニ居住セシ時ハ、ソノ占領セシ地、頗ル廣大ナリ、加拿太ノ
 低地ヨリ老連士ニ至リ、シユペリナル湖ヨリ密昔比河ニ達
 シ、堡臺相ヒ望ミ、氣勢相ヒ接シタリシガ、所謂啞人トイハル、自
 カラ助ケ勉強スル人種、始メハ海濱ニ移住シ、已ニシテ潛カ
 ニ西方ニ向ツテ進ミ入り、境土ヲ拓キ、村落ヲ成ス、ソノ手ヲ
 着ケ功ヲ起ス所以ノモノ、基址堅厚ニシテ、規模廣大ナリ、ソ
 ノ法人ノ建シ新地ハ、次第ニ縮小シテ、現今法國人民ノ交友
 ナ好ミ、雜居ヲ喜ブモノ、土地ヲ關キ、境ヲ廣ムルノ妨礙トナ

リ遂ニ堅牢ナル殖民トナル能ハザルヲハ、蓋シ其天性ニシ
 テ、恰カモ日耳曼種ノ獨居ヲ喜ブガ如シ、故ニ、法人ノ後裔ノ
 低キ加拿太ニ居ルモノヲ觀ルニ、家屋櫛比シテ行ヲ成ス、ソ
 ノ家屋ハ、大道ノ兩側ニアリ、家屋ノ後ニ、田地アリ、田地一條、
 各細長クシテ遠キニ達セリ、或ハ又コノ狹窄ナルモノヲ、再
 タビ分ツテソノ所領トナス、カクノ如キ田野ヲ分チ占ルヲ、
 豈ニ妙法ナランヤ、豈便利ナランヤ、朋友交會ヲ愛スルカ爲
 ニ非ルハナキノミ、寂寥幽獨ニシテ深林ニ退居スルヲ厭フ
 ニ由ニ非ルハナキノミ、夫ノ英吉利蘇格蘭ノ人民ノ如キハ、
 全ク之ニ反ス、試ミニ高キ加拿太ニ新村ヲ成シ、新城邑
 ナ築ク者ヲ觀ミ、深ク林叢ノ中ニ入り、遠ク曠野ノ外ニ達ス
 ルヲ避ケズ、住民ソノ居ヲ占ルヲ、各其間相ヒ隔タリ、最トモ近

隣ト稱スル家モ、數里ヲ隔テタリ、日耳曼人亞米利加人、亦英人ノ如ク、獨リ寂寥幽獨ニ慣テ厭ハザル^{シユル}ノミナラズ、反ツテ之ヲ撰ビ取レリ、サルカラニ、西部ノ地方ニ於テハ、譬ヘハ曠莫ノ野ニ、只一家居住シテアランニ、其他ノ殖民、己カ地ニ近ヅキ、ソノ曠野變シテ村落トナルトキハ、始メテ住セシ人ハ、之ヲ厭ヒ、行李ヲ裝ホヒ、車輛ヲ命シ、欣然トシテ、妻子ヲ携サヘ、更ニ遼遠隔絶ナル西部ニ移リ住スルコトナリ、英人ノ交接ヲ好マザル(ツキアヒ下手)性ヨリシテ、又別個ノ性、即ハチ自己ニ依頼シ、自己ニ倚伏スル性ヲ生ス、蓋シソノ避ル臆スル者、自己ノ上ニ引キ戻リ、反觀内視シテ、精神專一ニナリ、自立ノ氣象生ズルナリ、コノ人ヤ、交結往來ハ、ソノ樂シム所ニ非ス、故ニ交友ヲ避テ、或ハ讀書、或ハ學問、或ハ新器

創造、或ハ百工藝業等ノ事ヲ勉メ、之ヲ以テ消遣ノ具トナシ、快樂ノ趣ヲ寄スルナリ、コノ人、若シ以上ノ諸件ヲ好マザレバ、洋海ノ寂寞ヲ悞レヌシテ、或ハ漁者或ハ水手、或ハ遠地ヲ覓メ出ス人トナレリ、故ニ北方ノ人(日耳曼種)ハ、北海ヲ疾走シ、^{亞米利加}歐羅巴海岸及ビ地中海ニ船艦ヲ通ズ、ソノ權勢常ニ其他人種ノ上ニ出ツルヲ致セリ、

○英人外貌ヲ修飾セザル事 同

英人ハ、交友ニ巧ミナラサルガ如ク、亦技藝ニ巧ミナラザルコトナリ、英人ハ絶好ノ新地ヲ闢ク者タルベク、絶好ノ航海者タルベク、絶好ノ工匠タルベシ、然ルニ絶好ノ歌者舞者俳優者トナルニ宜シカラズ、時風ニ合フ人トナルニ宜シカラズ、英人亦衣裳ヲ着ルニ好カラズ、動作ニ好カラズ、談話ニ巧ミ

ナラズ、文筆ニ巧ミナラズ、コレ等ノ文雅風流、總テ他國ニ及
ハズ、英人ハ事ノ當ニ爲スヘキモノアレバ、質直ニ之ヲ爲ス、
前進シテ之ヲ爲ス、而シテ容體ナク修飾ナシ、コレ英人ノ情
狀ナリ、數年前、巴理ニ展觀會アリシトキノ一事ヲ以テモ、之
ヲ見ルニ足ル、展觀會將ニ終ラントスル時、「プライスマアコマ
ルス」賞ヲ得ント欲シテ善ク飼ヒシ獸ヲ持出シ、勝負ヲ争ソ
フ者アリキ、第一ニ場ニ出ルハ、士班人ニシテ軀幹長大、衣服
美麗ナリ、意氣揚々トシテ、下等ノ賞ヲ受タリ、次ニ出來ルハ、
法蘭西人、以太利人ナリ、温雅ニシテ禮容アリ、衣服又美ナリ、
ソノ畜獸ノ角ヲ飾ルコ、花ト五色絲ヲ以テセリ、最後ニ第一
等ノ賞ヲ受クベキ人、顯ハレ來ルハ、醜惡ナル男子ナリ、平常
ノ衣服ニシテ、農夫ノ脚絆ヲ着タリ、鈕ボタノ口ニ一輪ノ花サヘ

モ插テナシ、看客怪シミ相語ツテ、彼ハ何人ソヤ、之ニ對フル
者アリテ、彼ハ英人ナリ、トイヘバ、大衆齊シク叫ソデ、コノ大
國ノ物代ナル英人ナルトヨ、ト言ヒ合リ、蓋シ英人ハ物體カク
ノ如シ、コノ英人ノコ、ニ遣ル、ハ、英人自己ノ身ヲ示スニ
非ズ、偏ヘニ極善ノ獸ヲ顯サンガ爲ナリ、コノ英人カクシテ
第一ノ賞ヲ携ヘテ歸レリ、鈕口ノ花アリトモ、獸ノ善惡ニ何
ノ關係カアラシヤ、
「カラクトルヨリ」鈔出ス

○送増田充績氏之朝鮮

中村敬宇

君在ニ樂善社、被ニ選任ニ會計。不ニ翅不受レ俸、捐財助ニ慈惠。締約列ニ社友、
于レ今已ニ三歲。會日就ニ興旺、事務益煩細。君晝有ニ他職、寸晷不容レ憩。
夜則執ニ牙籌、登レ簿忘ニ困憊。昨年西南亂、此會恰如廢。今歲俄然興、
社友日匪解。指望漸着手、建築伐ニ松檜。磚屋期ニ久存、庶無ニ祝融害。

預知自今後、事體將加大。才幹似君者、益足可依賴。銀行三井氏、凌雲有氣勢。雖林設支店、擇人創始際。愈言莫若君、君難得逃退。春風舟將發、送者惜分袂。雖惜留不得、此事有關係。利害與得失、不止我邦內。貨物殊高低、出入有征稅。聰識察情偽、信義如約誓。此實難其人、非可委鼠輩。中選洵足榮、前途庶勉勵。唯知君雖去、依然非約外。隱然爲盡力、決不忘本會。

編輯長 安藤勝任
出版人 木平讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

本局同人社
賣捌所

東京兩國藥研堀町三十八番地
印刷 報知社
賣捌所

- 同本町三丁目洋書問屋 瑞穂屋卯三郎
- 同室町三丁目中外堂 紀伊國屋源兵衛
- 同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚閣 富士屋金十郎
- 同虎ノ門外琴平町二番地 靜霞堂
- 大坂心齋橋通道修町 報知社支局

同人社文學雜誌

第貳拾三號

明治十一年四月二十日
佐藤李山君墓銘
詩二首
贈人赴佛國博覽會序
閑窓漫稿序
朝鮮國耶蘇教徒
文章軌範講解序
墓碣題署ノ事

中村敬字
同
竹添進一郎
安藤勝任
中島雄
同
中村敬字



大坂本町四丁目
甲府八ヶ町壹丁目
武州熊ヶ谷本町
阿州德島中通町貳丁目
越後長岡
姫路俵町十六番地
上州高崎田町三丁目
河内屋真七
内藤傳右衛門
博文堂
坂井萬吉
大橋佐平
山野長兵衛
文心堂



1. Fame is like a magnifying glass.
2. As you sou, so shall you reep.
3. All truths must not be told at all times.
4. Neither covet not fear.
5. Quench all immederate desires.
6. Praud men have no real friends.

1. 聲譽猶鏡之小物大視者。
2. 汝之所種者則汝之所獲者也。
3. 凡真理者百世人常語之。
4. 決勿貪又勿恐。
5. 諸願欲之踰分者宜止之。
6. 自誇大者不得真正朋友。

文學雜誌第貳拾三號

○佐藤李山君墓銘

中村敬字

海舟勝先生、有所畏愛之門弟子、曰佐藤君李山、諱政養、通稱與之助、李山、其號也、後改笙溪、父曰文褒、母池田氏、文政四年、十二月、生於羽後國飽海郡遊佐鄉升川村、性溫順、事親孝、名溢于郡、領主酒井侯、屢賞之、幼嗜雕刻、三十四、來江戶、學其技于後藤恒俊、優入奧窔、既而入勝先生門、學和蘭書及火技、亡何、業大進、酒井侯、命以砲術臺場諸職、安政六年、徵於幕府、爲軍艦操練所蘭書翻譯官、慶應三年、爲大坂鐵砲奉行、明治以後、歷官大坂府兵局出仕、民部省工部省出仕、鐵道助、叙正六位、後官于西京、大佛門外、有遠祖嗣信忠信兄弟之墓地、君購之、爲父立碑、明治十年八月二日、病歿、享年五十七、葬于□□□□、君娶阿部氏、生一女

文學雜誌 第二十三號

二男、次子與三郎、嗣其家、所著有萬國地圖、時針必携、三角或問等、行于世、鑛山地殼學、秋乃寐覺、稿藏于家、君嘗嚴冬單褐、力學弗輟、勇氣益振云、門生故友、立石表其墓、屬余爲之銘、々曰
人能自樹立 無不由勵志 斯人而不銘 銘其將誰爲

洋書表紙所用中心紙、我邦至今用舶載者、久具正路、齋藤盛太郎二君、發憤創意、製中心紙、極工、得供博覽會出品、余感其用功勞苦、久而不倦、終克有成、作詩二首以贈焉

製來麥稈用無窮、不仰舶來財物豐、愧我半生鑽故紙、寧踰二子一朝功

不惜資財不惜勞、中心紙就甚堅牢、文明世界軍功息、創造獨令名譽高、

編者曰、文士之鞠躬文事、當如武人之犯難盡國是、韃爾理氏之名言也、雖然豈徒文士、農商、工藝之人、亦當如是、今兩君、製中心紙之功、比諸殺將擐旗之功、蓋有加焉、其得龍紋賞牌、豈偶然哉

○贈人赴佛國博覽會序

竹添進一郎

歐人創製火輪船、駕風破浪、萬里比隣、往來如織、舉地球爲一大市場、其平居和好、貿遷使聘、若無足慮者、一旦臨利害、輒蹶起忿爭、喋血千里、蒼生塗炭、竟不免弱肉強食矣、蓋國之亡、非必易其主、失其地之謂也、國體不立、受制於他國、卽亡也、國力不足、仰給於他國、亦亡也、制度文物、一摸擬於彼、法律禁令、爲彼所掣肘、謂之國非其國、譬如世農之家、釋其耒耜、從商賈之後、去朴就侈、自以爲得、徒取市儈之笑耳、旣不能爲農、又不能爲商、其家非亡而

何、高其屋、華其室、衣服器用、皆仰外輸、工藝未起、產物未旺、而金貨濫出、府庫一空、上下爲之告窮、譬之東家之女、美西隣之婦、不度貧富之相懸、專效其服飾、不蠶不桑、資費無所出、終之不免爲流亡之瘠、智者防禍於未萌、寧可不早爲之所乎哉、今茲佛國、有博覽會、我邦人、多往會之、友人某、又與焉、余謂之曰、蓋博覽之爲會、凡百器物、悉備、觀之者、足以發心智、磨中巧、思購之者、足以詫新奇、贏故競技者、必於是、爭利者、必於是、我邦所出、其類亦多、其間或有駕出于諸國之上者、則聲價百倍、而輸出之利、從此盛矣、抑余更有進焉者、夫巴里者、歐洲大都、今茲之會、坤輿諸國、皆造焉、子試觀其市、綠眼紅鬚、氣揚々、而視耽々者、皆虎狼也、子輩目擊其狀、而歸報吾君、吾相曰、市有虎狼、白晝群行、吮人之腦、不斃不已、我寧爲管莊子、勿爲魚肉、彼不出刀、而我自割、彼不出薪、

而我自烹、以飽其口腹、非計之得者也、吾君吾相、於是乎、知所戒、國體以加鞏、國力以加強、則子輩之於此行、其利於我邦、顧不尤大哉、書以爲贈、

痛斥時弊、筆鈞如刀、虎狼一譬、讀之、毛骨聳然、不寒而栗、非出於愛國之熱腸、斷不能如此、敬服、敬字

○ 閑窓漫稿序

安藤勝任

老杜云、老去詩篇渾漫興、雖余齡未及老、而作詩乃漫興而已矣、是故、春風解凍、紅紫燦爛、韶光霽然、則有詩矣、秋月吐輝、雲烟飛散、夜色朗焉、則有詩矣、綠陰納涼之於夏、紅樓望雪之於冬、莫不皆有詩矣、凡世間一切喜怒哀樂愛惡之情、與夫行步坐臥動止之態、以及古今得失萬國利害之事、亦莫不皆供作詩之料矣、於是乎、其忽而喜、忽而悲、忽而踴躍、忽而詠歎、忽而抵掌稱快、忽而

扼腕咨嗟者、盡發爲詩賦、而其作之也、唯與至筆隨耳、何有乎雕琢篆刻勞神苦心乎哉、雖云不合風人之旨、庶幾乎有獲老杜之遺意歟、是其所以名漫稿也、古人云、詩文不關世道人心、雖工無益也、嗚呼余慙此語矣、

○朝鮮國ノ耶蘇教徒

中島 雄

一千八百六十六年慶應二年一月、魯國政府、一隻ノ軍艦ヲ發遣シ、國書ヲ朝鮮政府ニ致シ、通商互市、及ビ魯國商人ノ朝鮮國ニ住居スルヲ許ス事ヲ要請セリ、是ヨリ先、朝鮮政府ノ官員ハ、久シク魯ノ強威ヲ知リタレバ、此ニ至リ、大ニ恐怖シ、皆ナ色ヲ失ナヒ、只コノ決答ノ時日ヲ遲延センガ爲メニ、朝鮮國ハ、支那ノ屬國ナルユエ、支那ノ許可ナクシテ、斯ル條約ヲ交換スル能ハズ、當ニ使臣ヲ北京ニ馳テ、之ヲ問フベシト、魯人ニ

答ヘタリ、此ノ時ニ當リ、都城二三ノ貴族及ビ王ノ乳母朴氏、攝政ノ夫人某氏、內閣大臣南鐘三、貴族大臣洪鳳周ノ徒ハ、皆ナ耶蘇教徒ナリ、コノ機ニ乘シ、宗教ノ根ヲ固クセント欲シ、上書シテ、傳道使ノ力ヲ假リ、英法二國ニ結ビ、以テ魯人ヲ防グノ策ヲ陳ス、書上ツテ二日、未ダ報セラレズ、朴氏、往テ攝政夫人ヲ訪ヒ、事ノ成否ヲ問フ、夫人曰ク、須ラク今一回、激烈切迫ナル書ヲ上ツルベシト、朴氏、歸リテ、之ヲ洪鳳周ニ語ル、鳳周轉シテ、之ヲ南鐘三ニ告グ、鐘三乃チ再タビ書ヲ作り、之ヲ携テ、攝政ニ謁ス、攝政ソノ書ヲ省シ、鐘三ニ謂テ曰ク、コノ事ノ如キハ、汝往テ執政ニ語レト、翌日執政鐘三ヲ招キ、具サニ耶蘇教ノ主意ヲ尋テ、且ツ問テ曰ク、汝能ク法國傳道使ヲシテ、魯人ノ國家ヲ奪フヲ防ガシムルヲ保スルカト、鐘三曰ク、

臣百口ヲ以テ、之ヲ保セン、執政曰ク、然ラバ、之ヲ招キ來レヨ、
 我將ニ議スル所アラントスト、此ノ時ニ當リ、法國ノ傳道使
 ニシテ、來リテ、朝鮮國ニ住スル者、僧正トベルヌビシヨツプ
 一ヲ首トシテ、總テ十二人アリ、偶マベルヌ一ハ、旅行中ニテ、
 歸京スベシトノ信書ヲ得ルヲ以テ、早速引キ返シ、一月二十
 九日ヲ以テ、京城ニ到着セリ、則ハチ南鐘三ハ、ソノ三十一日
 ナ以テ、攝政ノ家ニ伺候シ、ベルヌ一ノ歸着ヲ報ズ、時ニ攝政
 ノ意、稍變シ、鐘三ヲ待スル、甚ハダ薄ク、顧テ之ニ謂テ曰ク、吾
 將ニ彼等ト面スルノ日アルベシ、汝ハ宜シク歸テ父ヲ省ス
 ベシト云テ、之ニ暇ヲ與ヘタリ、鐘三ノ父、コレヲ聞キ、鐘三ニ
 謂テ曰ク、嗚呼汝ハ宗教上ニ功アリト雖モ、ソノ死然ヲ得ザ
 ルベシト、既ニシテ、魯國ノ軍艦ハ、朝鮮政府、決答ノ遲延スル

ヲ見テ、忽チ退帆シ、且當時北京ニ駐在スル、朝鮮國ノ使臣、一
 書ヲ國王ニ捧ケ、支那政府ハ、國中ニ在ル歐羅巴人ヲ、悉ク死
 ニ處セントスルノ狀ヲ奏シタルニ由テ、朝鮮國各省ノ長官
 ハ、攝政ニ向ヒ、西洋ト、交ヲ結ブノ非ナルヲ極諫シ、且ツ謂テ
 曰ク、今日ニ至ルマデ、數度ノ漂流民ヲ殺シ、數人ノ傳道使ヲ
 戮シタル事アレモ、嘗テ復讎師ノ來リテ寇スル事ナキヲ以
 テ、コレヲ見レバ、畢竟、西洋ハ、畏ル、ニ足ラザルナリト、攝政
 ハ、愚人ナリ、之ヲ聞キ、英法ト交ヲ結ブハ、國躰ヲ損スルナリ
 ト思ヒ、終ニ國中ニ來住スル耶蘇教師ト、ソノ教徒ヲ、死ニ處
 セント決シ、翌月二十三日、遂ニベルヌ一及ビソノ從者ニシ
 テ、耶蘇教ニ入リシ者ヲ執ヘ、之ヲ拘留獄ニ下シ、後マタ轉シ
 テ、之ヲ獨居獄ニ移シ、各々ナシテ、ソノ聲音ヲ通ゼザラシメ

タリ、ベルヌーイ法廷ニ出シ時、審司ニ向テ、抗言シテ曰ク、予ノ
コノ國ニ來ルノ趣意ハ、民ノ靈魂ヲ救ヒ、我が眞教ニ入ラシ
メントスルニ在リト、審司問テ曰ク、汝今日ニ至リテハ、自カ
ラコノ國ヲ去ラント欲スルカト、ベルヌーイ答テ曰ク、否、汝予
ヲ放逐セバ、予コレヲ拒ムノ力ナシ自カラ好テ、コノ土ヲ去
ルノ如キハ、決シテ予ノ爲サマル所ナリト、同月二十七日ベ
ルヌーイ再ビ、法廷ニ呼ビ出サル、コノ日ハ、攝政、ソノ子ト、席ニ
臨ミ、ベルヌーイニ問フニ、ソノ信向ノ念ヲ轉ズベキヤ否ヤヲ
以テス、ベルヌーイ答ルニ、決シテ、轉スル能ハザルヲ以テス、是
ヨリ數次ノ拷問ヲ受ケシ後、終ニ大辟ノ所斷ヲ蒙ムリタリ、
コノ所斷ヲ蒙ムルノ前、ベルヌーイ再タビ拘留獄ニ下サレ、コ
ノ所ニ於テ、三人ノ傳道使ニ會ス、コノ三人ハベルヌーイト同

シク苛責ヲ受ケ、共ニ恐怖スベキ拷問ニ掛リタレトモ、皆ナ落
膽セズ、能クソノ操ヲ變ゼザリシ者ナリ、斯テ三月八日ニ至
リ、ベルヌーイ初一同ハ、刑場ニ引キ出サレ、四百人ノ兵卒ニ圍
マレ衣ヲ剝ガレ、地ニ跪カシメラレ、冷水ヲ其面ニ澆ガレ、石
灰粉ヲ其上ニ掛ケラル、諸氏ハ、此ニ至リ、殊ニ從容ヲ極メ、遂
ニ斬殺セラレ、三日ノ間、ソノ首ヲ、梟セラレ、コノ他、尙ハ八人
ノ傳道使アリ、ソノ五人者ハ、捕斬セラレ、三人者ハ、山ニ逃レ
テ、幸ヒニ免カル、此ノ時ニ當リ、朝鮮政府ハ、彌々耶蘇教禁制
ノ舊典ヲ恢復セント欲シ、令テ國中ニ下シ、國人ノ耶蘇教ニ
入ル者ヲ捕ヘ、悉ク之ヲ死ニ處ス、南鐘三、洪鳳周、マタ其中ニ
在リ、是ニ於テ、コノ年九月、法國ニ、征韓ノ師アリ
野史氏曰ク、語ニ云ク、危邦ニハ、入ラズ、亂邦ニハ、居ラズト、然

ルニ、ベルヌー諸氏、歐洲ノ文明ヲ背テ、野蠻ノ邊土ニ向フハ
何ツヤ、夫レ傳道使ハ、天ニ替テ、道ヲ行ナフ者ナリ、然ラバ、聾
ヲ發シ、瞶ヲ振フニ於テ、豈ニ危亂ノ邦ヲ避ケ、死生ヲ顧リミ
ルニ暇アラシヤ、ソノ從容トシテ、死ニ就クヲ見レバ、以テ自
カラ知ルノ明カナルヲ知ル可シ、但マ南鐘三、洪鳳周ノ徒、道
ヲ信ズル厚シト雖モ、國ノ危急ニ臨ンデ、宗教ノ根ヲ固クセ
ント謀ル、大早計トイハザルベカラズ、野蠻ノ國ニ生處スル
者、以テ鑑スル所ヲ知ルベシ、

○文章軌範講解序代敬字先生作 同

日月星辰、天之文章也、山川河嶽、地之文章也、載道之言、人之文
章也、天無日月星辰、晦蒙否塞、地無山川河嶽、五行廢滅、人無載
道之言、百世無善治、然則此三者、當鼎立而相濟者、不可一廢也、

盖成天地之文章、上帝之事、非吾儕之所可知、故余今舉下可成
之文章者、上言之、夫文章成於道理、道理生於學問、故學問熟、而道
理生焉、道理生、而文章成焉、歷觀古之聖賢及諸子百家之文章、
皆如是而已矣、而世之人不察焉、徒苦心於編章字句之間、曰起
伏照應矣、抑揚頓挫矣、欲以此成文章、何異乎求水於無源之泉、
哉、森君立之、頃講解宋謝疊山文章軌範、將上之梓、盖疊山之此
撰、雖爲學業、其所收、皆本禮義、關世教者、少年子弟、洵善熟讀此
等之編、以爲津梁、以漸上溯經史、以熟學問、以生道理、豈徒成狂
簡斐然之章、遂成可與天地傳悠久之文、亦非難也、此則余之所
厚望于後之少年也夫、

○墓碣題署ノ事

中村敬字

偶原雙桂ノ過庭紀談ヲ讀タルニ、墓碣題署ノ事ヲ論ズル數

則アリ、其要ヲ左ニ掲ケ、以テ記憶ニ便ニシ、參考ニ備フ、
今世俗ノ墓表ノ題署ヲ見ルニ、餘リ非法ノ書付有ル故ニ、一
々論ズルニ暇ナケレト、先ツ諸侯ノ墓碣ナドニ、刺史太守ナ
ド云ルヲ、大ナル謬ナリ
凡ソ、碑面ノ題署ハ、誌石ノ蓋ノ題署ト同スベシ、タトヘバ
唐津侯土井^姓了公^号之墓 肥後侯加藤淨池公之墓 ト題ス
ル可ナリ、又ハ 唐津侯了土井公之墓 肥後侯淨池加藤
公之墓 ト題スルモ可ナリ、又ハ 唐津了侯土井公之墓
肥後淨池公加藤公之墓 ト題スルモ善シ、右ノ三様ヨリ
外ハ、皆非法ナリ
府君トハ、元來刺史太守ヲ稱スル詞ニテモ、諸侯ニハ、用フベ
カラズ、漢以後ハ、碑面ナドニハ、士庶人マデモ、府君ト稱ス、

諡號ヲ題セズシテ、唐津侯土井公之墓 肥後侯加藤公之
墓 ト題スルハ、元來ノ法ナレト、代々相續スルトキハ、諡號
ヲ題シテ、混同ヲ避クルナリ、
三公以下ニ、公ノ字ヲ用ルヲ、憚リ思フ人アリ、コレ然ラズ、諸
侯タラズトモ、諸大夫以上ノ御役人ハ、墓碑ノ題署、神主ノ粉
面ナドニ、公ト稱スルコ、僭越ニ非ズ、司馬温公ノ書儀、朱子ノ
家禮ノ誌石、并ニ碑面ノ題署ノ法ニモ、有官則、某公之墓ト題
シ、無官則、某君之墓ト題スト云ヘリ、コレニ據レバ、一爵一官
タリト、苟モ官サヘアラバ、公ト稱シテ可ナリ、
諸侯ノ與方ノ墓碑ノ題署ハ、其夫既ニ死後ナラバ、肥後侯
淨池加藤公夫人某氏之墓 ト題スベシ、未ダ其夫、存生ノ内
ナラバ、肥後侯加藤清正夫人某氏之墓 ト題ス

○公トサエ云ハ、公卿大夫ヤ、公侯伯子男ノ公ト思フハ、固陋ノ至ナリ、公ノ字ハ、尊稱ニ用フルトキハ、無位無官ノ出家サヘモ、支公、遠公ト稱ス、况ンヤ、受領、叙爵以上ノ人チヤ、公ト稱シテ、君ト稱スルヲ劣リタル稱ト思フモ、亦非ナリ、故ニ從五位兵部少輔私諡加藤公之墓 從五位兵部少輔一加藤君之墓 題スルヲ宜トス、隱居ノ後、死去セバ、從五位兵部少輔致仕隱名府君加藤公或君之墓 題ス、或ハ私諡ニ府君ノ二字ヲ配シテ、從五位兵部少輔一府君加藤公之墓 題スルモ、可ナリ、〔以下次號〕

編輯長 安藤勝任
出版人 木平讓

官准明治九年七月 毎月二回發兌

本局同人社
賣捌所

- 東京兩國藥研堀町三十八番地
賣捌所 報知社
- 同本町三丁目洋書問屋 瑞穂屋卯三郎
同室町三丁目中外堂 紀伊國屋源兵衛
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚閣 富士屋金十郎
同虎ノ門外琴平町二番地 靜霞堂
大坂心齋橋通道修町 報知社支局

同人社文學雜誌

第貳拾五號

明治十一年六月廿五日
漫遊記程序
理論ノ利害
觀世太夫ノ話
教法論
立教論
電氣鏡ノ事
墓碣題署ノ事

中村敬字
西村茂樹
大瀧確莊
中島雄
同
神津專三郎
中村敬字



大坂本町四丁目 河内屋眞七
甲府八ヶ町壹丁目 内藤傳右衛門
武州熊ヶ谷本町 博文堂
阿州德島中通町貳丁目 坂井萬吉
越後長岡 大橋佐平
姫路俵町十六番地 山野長兵衛
上州高崎田町三丁目 文心堂
書肆

1. Much is wanting where much is desired.
2. Much is expected where much is given.
3. Men climb to honour by prudence and industry.
4. The path of virtue is the path of peace.
5. Goodness always enriches the possessor.
6. Great designs require great consideration.

6.	5.	4.	3.	2.	1.
大起業者必要大思慮	之飾者也	人有善於己者乃有華美	善德之路乃和平之路	名之地	人唯由勤儉而得攀於榮
					願欲愈多缺乏愈多
					施濟越多求者越多

文學雜誌第貳拾五號

○漫遊記程序

中村敬宇

余嘗謂英人有二種、有歐羅巴之英人、有亞細亞之英人、我邦開港以來、英人之來住者、日月加多、觀其品行、往々有可議者、於是或視以爲狡獪詐僞、不可端倪、遂謂英人皆然、而不知此特爲亞細亞之英人也、夫國之富强、必有其因、英人之性、忠實勉強、好實學、敬真神、爲官長爲議士者、由是其選也、然此所謂歐羅巴之英人也、我邦人獲與之交者、少矣、矧於爲朋友乎、橘、踰、淮、爲、枳、樟、越嶺爲榕、英之薔薇花、移植于亞細亞、則無香、亞細亞之英人、亦類此歟、中井櫻洲君、屢遊英國、與其士君子爲友、又與議士某々交最善、其悉歐羅巴英人之情態者、莫若也、余至倫敦時、君既先在焉、嘗聞諸君曰、議士某氏、爲君言、日本欲英民服其邦之律、

此必不可得之事也、然日本若許耶蘇教徒入其民籍、使其先服其國法、則英民亦將以漸而從之、又有某氏一言、日本人性情易移、乏堅忍不拔之氣象、非除此弊、則未能大有爲也、又有某氏作文、極陳英民暴行之狀、痛斥賣鴉片於支那之事、巧譬曲喻、聽者悚然、凡如此類、議論公正、不失偏頗、亞細亞英人之所不多言也、余聞而有所感焉、頃君過余家、出此書、受而讀之、記事實而有徵、錄詩華而有味、且余由是始知君之行旅遍於新舊大洲、非獨英國也、然則君之所交名士、無國而不有、其所聞高識卓見、其必多矣、余將屢訪其居、秋夜剪燭對榻、促膝勞君、頰舌富我、腦髓君、其許之手、遂書以弁卷端、

重野先生評曰、人種移徙則多變、洵爲篤論、此等見解、非吾敬字氏不能道、

○理論ノ利害

西村茂樹

支那ノ儒者、口ヲ開ケバ、三代ノ聖人ヲ説キ、禮樂ト曰ヒ、道德ト曰フ、今日ノ學士大夫、率チ支那人ノ説ヲ唾棄シ、一ニ歐米學士ノ理論ヲ信奉シ、皆曰ク支那人ノ説ハ迂ニシテ、腐ナリ、歐米人ノ理論ハ、精ニシテ、切ナリト、支那人ノ説ヲ以テ、迂腐トシ、歐米人ノ論ヲ以テ、精切ト爲スハ、其品評、極メテ當レリ、然レモ、之ヲ吾邦ニ採用スル時ハ、迂腐ナル者、果シテ、不利ニシテ、精切ナル者、果シテ、利アルカ、吾未ダ之ヲ決スルコト能ハザルナリ、迂腐ノ不利ニシテ、精切ノ利アルコトハ、三尺ノ童子モ、能ク之ヲ知ル、然ルニ、今其利害ヲ決スルコト能ハズト曰フ者ハ、何ゾヤ、之ヲ藥ニ譬フ、迂腐ノ論ハ、茯苓、甘草ノ類ナリ、其病ヲ治ス

ルノ力、微ナリト雖モ、身体ヲ害スルノ毒、亦少シ、故ニ庸醫之
ヲ用フルモ、人ヲ殺スニ至ルコトナシ、精切ノ論ハ、夫猶水銀鴉
片ノ類ナルカ、其藥力、峻烈ニシテ、功ヲ收ムルコト、大ナレドモ、
害ヲ爲スコトモ、亦甚強シ、獨庸醫之ヲ用フルコト、能ハザルノミ
ナラズ、良醫ト雖モ、モシ、之ヲ用ヒテ、病ニ適セザル時ハ、其殃、
言フベカラザル者アリ、
西隣ノ翁、腹痛ヲ病ミ、東隣ノ婦、亦腹痛ヲ病ム、其腹痛ノ狀ハ、
甚相似タリト雖モ、腹痛ヲ起ス所以ノ原由ハ、大ニ異ナリ、庸
醫、察セズ、西隣ノ翁ニ與ヘタル藥ヲ以テ、亦東隣ノ婦ニ與ヘ
ント欲ス、豈殆カラズヤ、其藥、益利ナレバ、醫術ハ益巧ナラザ
ルベカラズ、病ヲ察スルノ智ニ乏シクシテ、益利アルノ藥ヲ
用ヒントス、其人命ヲ誤ラザル者、幾希ナリ、

夫禮樂ト曰ヒ、道德ト曰フ、善ク之ヲ用フルキハ、亦以テ其國
ヲ利スルニ足ルベシ、縱令少シク其用法ヲ誤ルモ、究ムルニ、
民財ヲ奪ヒ、民怨ヲ招クガ如キノ甚シキニ至ラザルナリ、彼
精切ノ論ニ至ツテハ、法律ト曰ヒ、經濟ト曰ヒ、教育ト曰ヒ、勸
業ト曰ヒ、警察ト曰ヒ、衛生ト曰フ、皆歐米名家ノ說ヲ襲用シ
テ、其論、精微巧妙ヲ極メ、之ヲ擊ント欲シテ、擊ツベカラズ、之
ヲ駁セント欲シテ、駁スベカラズ、實ニ鬼神ヲシテ、夜泣シム
ト云フベキ者ナリ、此ノ如キ理論ヲ採テ、之ヲ實際ニ運用ス
ルノ人ハ、天下、能ク幾人カアル、苟モ、其用法ヲ失フキハ、殘酷
ト爲リ、悖亂ト爲リ、煩擾ト爲リ、衰敗ト爲ル、其國民ニ禍スル
コト、庸醫ノ水銀鴉片ヲ用フルト、詎ゾ異ナルコトアラヤ、
東國ノ土地ハ、西國ノ土地ト、其物産ヲ異ニシ、東國ノ開化ハ、

西國ノ開化ト、其源因チ同フセズ、西國ノ理論ニ眩シテ、其異ナル所以ヲ察セザルハ、智者ト言フベカラザルナリ、昔ハ議論ノ迂濶固陋ナル者ヲ以テ、世ニ害アリトス、今ハ議論ノ精微巧妙ナル者、反テ世ノ害ヲ爲スニ至ル、古今ノ變、亦奇トスベキカナ、

余ハ此ノ如ク論ズルモ、敢テ迂儒ノ說ヲ採リテ、精切ノ論ヲ棄ツベシト曰フコトハ非ルナリ、唯國ヲ治ムル者ノ病ヲ察スルヲ先ニシ、藥ヲ用フルヲ後ニセンヲ欲スルナリ、凡ソ、病ニハ、原因ノ同シクシテ、發症ノ異ナル者アリ、原因ノ異ニシテ、發症ノ同シキ者アリ、之ヲ察スル、實ニ其肯綮ニ中ル時ハ、茯苓、甘草、亦ヨク功ヲ奏スルヲ得ベシ、善ク病ヲ療スル者ハ、常ニ病ニ從ヒテ、藥ヲ用ヒ、藥ヲ以テ病ヲ生ゼシムル

トナシ、善ク國ヲ治ムル者ハ、常ニ時勢人情ニ從ヒテ、法度ヲ立テ、法度立テ、時勢人情ヲ從ハシムルヲナシ、世ノ俊才ノ士ハ、常ニ迂濶ノ士ヲ嘲笑スレドモ、古ヨリ國家ノ亂ヲ起ス者ヲ見ルニ、率チ俊才ノ士チ多シトス、嗚呼理論ノ利害ヲ知ルハ實ニ難イ哉、

○觀世太夫ノ話

大瀧確莊

觀世大夫、某殿中ニ於テ、道成寺ノ亂舞ヲカナデリ、コレツ、一世ノハレワザナリ、舞酣ハニシテ、清姫、鐘ニ入ルノ段ニ至リテ、腹グロキ人ノ、ソノ高名ヲ妬ムガタメニ、鐘中ニ、化粧紅ヲ入レチカズシテ、耻カ、セソチ謀ルニ由テ、顔面ヲ彩ドルニ由シチナカリケレバ、ハツト計リコ、チトロキシガ、流石ハ、名人ト呼ハル、ホドアリテ、一計ヲ考ヘ出シテ、小指ヲクヒキ

リ、其血ニテ、顔ヲ彩リテ、鐘ヲ出シニ鬼女ノ形相、臙脂化粧ニ
十倍セシカバ、ヤントトハヤシ立テ、シバシハナリモ、止マザ
リケリ、
語曰、知耻近勇、若觀世子之嚙其小指、非邪、而其嚙指、所以竭力
於其所業也、嗚呼世之不嚙其指者、皆是也、謂之不若優孟、豈不
可哉、

○教法論

中島 雄

社友東條世三君、揭出其教法論於文學雜誌第二十
四號、余讀之、偶憶起所嘗作教法立教論、祛之於敗麓、
揭載之于此、
六合之間、八荒之中、其道本一而已矣、苟聖賢說之、豈有彼此
之別乎、而東洋則有此教、西洋則有彼教、是余之所嘗怪也、今

聞洋教師之所說、悔罪一道、敬字先生曰、悔罪二字、諄々乎能
獎人、回顧總角之時、所聞于鄉先生之經義、無殆異者、余因不
覺擊節、嗚呼東西雖異道、則一轍有如是夫、世人妄好同惡
異、不好察、適言、執拘抵擋、不令己從人、可謂惑也、感歎之餘、作
教法論、質之同志、

均是使人盡爲人之職、改過嚮善之教法而已、以謂之耶蘇之教、
仲尼之教、耳、六經者、愧口、約書、口、約書者、愧耳、六經、深文相責、爲
隙相乘、使彼此之說相距如天淵、至甚焉者、耶蘇教徒之中、又有
樹各派之黨、干戈相戕伐之慘、講仲尼之書者、有互持諸家之說、
註疏相爭、仇讎相視之謬、嗚呼、是又不思之甚者也、蓋耶蘇之所
謂神者、則仲尼之所謂天、敬字先生曰、但也不詳也、耶蘇之所謂愛者、仲
尼之所謂仁也、耶蘇之所謂全靈魂之真者、仲尼之所謂正心正

意也、耶蘇之所謂斥肉體之慾者、仲尼之所謂克己復禮也、唯其然故、雖小則異、而大則同矣、人蓋以夫天道為一部典籍、視仲尼耶蘇、做其註脚、彼此折衷、彼我斟酌、為盡為人、之職、改過嚮善之工夫、耶、敬字先生曰、或曰、仲尼不言鬼神、而耶蘇開口則言焉、仲尼不說將來、而耶蘇逢人則說焉、是豈可謂大同小異乎、曰、是非下知所謂勢者也、夫當周之季、齊魯之人、雖非聰明睿智、然享三代禮樂之餘音、蒙成周治化之遺風、能知事物、當是之時、仲尼縱以鬼神教之、以將來論之、誰敢甘心焉、以正經之說論之者、則勢也、耶蘇之時、則不然、猶太之民、大抵不學無術、不通事物、使耶蘇以正經之說論之、衆之聳動、未可期、以真神教之、以將來論之者、是亦勢之使然也、故使仲尼生猶太、未必可謂不如耶蘇、使耶蘇生齊魯、未必可謂不如仲尼、顧勢之如何耳、且不啻此兩聖而已、

雖釋迦牟尼、慕罕默德、未必如韓愈之謂之教徒之詆之者、要由時勢而布教、又不外欲使人盡為人之職、改過嚮善之意也、敬字曰、與上文應常山蛇勢、先生

中村敬字先生曰、此篇所論甚好、姑俛而就之、不使甚駭、異人耳目、是亦方便說法中之一事也

又曰、今世之格致學、邈過于古之格致學、益進于高明、而真神之必有之理、靈魂不死之理、因果應報之理、益進于敬信矣、世或謂理學日明而教法日衰者、吾不知其說之何由也、

○立教論

同

古今教道之興廢、關人民之優劣、人民之優劣、關邦國之盛衰、何以言之、試借支那與英國證之、昔支那、當堯舜成周之世、五教三物之教大興、司徒之教徒、派出於所在、無所而不有、教會、今觀其

人、如下熟天文、達水利、義和大禹者、如下制定法律、爲後世之標準、周公者、前後相起、是以禮樂鬱興、天下大治、殆極其盛矣、及後世子孫廢教道、人民風俗、皆不及上世、宗廟社稷、爲醜虐所滅者、有之矣、先王之土地人民、爲海外諸國所據有者、有之矣、何其衰極至此歟、英國、昔當教道之未興、其人民、久不知牧畜畊稼之術、穉惡殘暴、殆與禽獸無異、榛々桎々、終爲外敵所衰弱、其後、及西教之自羅馬來、教化頓興、國以是爲治化之源、自是以降、政學、理學家、詩人、文士、工藝之徒、陸續輩起、終致英國女王之領地、不見日沒、紅旗翻々、翻五洲之今日、可謂盛也、抑教道之興廢、關邦國人民之盛衰優劣、如此、不獨支那與英國而已、天下萬國皆然矣、或曰、果如子之言、則我國方今之急務、洵莫先於立教、不知可用何等教乎、曰、我國欲立教、莫如下除異教之禁、而許人民任意擇從也、蓋

宇宙之間、雖教法頗多、然其最善者、爲仲尼耶蘇之教、而仲尼之教、我國從來用之、故無庸新立、耶蘇之教、我國未公行之、然傳法使之從西洋來者、日多一日、皆熱心盡力、欲以死弘教、以今推後來、必有大興之勢、敬字先生、故我國欲立教、則宜除異教之禁、果除異教之禁、則政府不甚務立之、教徒必自遑々奔走、其勤勉忍耐之功、不日而我將見我國之人民、立遷善改過之工夫、著敬天愛人之氣象也、或又曰、雖然西教、入我國、恐使人生帝彼奴我之心、終爲吞噬之助、子又知是弊乎、嗚呼、是何說也、夫國之所以昌盛者、由子國有明教、若使人背親慕遠、欲以之爲吞噬之助者、邪教也、英國之所以昌盛、如彼者、謂國由子有邪教乎、謂明教之由于固結人心乎、是固不埃、辨、况吾觀彼傳法教徒、衆人一意、皆存溫良恭儉讓之風、決保其無他、然則何弊之有、夫教道者、爲治國

平天下之大根本、今若妄持固陋之見、因循忽之、則其不爲英國之上世支那之今日者、幾希、嗚呼、可鑑焉。

中村敬宇先生曰、清人識見超卓、隨意擇教、耶蘇新教、闡明上帝道理、孔孟之教、闡明人倫五常之道、彼此相仗助、猶車有兩輪、非如下如色厲內荏、胸中無主、猿猴洋服、以爲開化者比、清國生徒、在米利堅者、品行純正、藝業大進、他日操持國柄、雄視五洲、既有其人矣、嗚呼、可畏也哉。

○電氣鏡ノ事 米國新聞イベニシテ、抄譯 神津專三郎

テレフホニー〔談話電機〕ニ、齊シキ、驚クベキ、學術上ノ發明コ
ツキ、法國ヨリ、一ノ奇報ヲ得タリ、不幸コソ、其詳細ヲ記セザ
ルハ、遺憾ナリトス、コノ發明ハ、エレクトリックミルロール〔電機
鏡〕ト名ヅクル者ナリ、鏡ハ、數箇ノ返照鏡ヨリ成リ、而シテ之ヲ

鐵道ノ側ニ備フレバ、每鏡、道上各列車ノ動止ヲ示シ、マタ、鐵
道首尾ノ停車場ニ備フルトコロノ、鏡中ニ於テハ、道上一百
餘里ノ間ニ、屬スルトコロノ事情ヲ、盡ク畫キ出シ來リテ、目
撃セシト云フ、茲コソ、ソノ電氣ノ用法ヲ悉セズト雖モ、既コ、テ
レフホニー〔談話電機〕及ビフホノグラフ〔蘇言機〕ノ發明アリ、
今其返照力ヲ、遠大ナラシメ、單純ナル鏡裡ニ、電氣ノ功ヲ
以テ、人目ヲ驚カシムルノ事ヲ成スモ、敢テ知ルベカラザレ
バ、マタ、妄ニ疑ヲ容ルベカラズ、

○墓碣題署ノ事 〔貳拾貳號ノ續〕 中村敬宇

婦人ノ墓碣題署ハ、昔ノ諸大夫以上ノ御旗本ニ比スベキ者
ハ、夫人ト稱スルヲ、僭越ニ非ズ、朱子語類ニ、無爵曰府君夫人、
漢人碑已有、只是尊神ノ辭ナリト云リ、本邦ニテハ、外命婦ノ

制ナキ故ニ、一切ノ題署ニ、唯大凡ニ、大夫以上ヲ、夫人ト稱シ、諸士ヲ、孺人ト稱スルヲ、漢以後ノ通例ナレバ、諸大夫以上ノ内室ヲ、大夫ト稱シテ、可ナルベシ、天子之妃曰后、諸侯曰夫人、大夫曰孺人、士曰婦人、ト曲禮ニ明文アレド、碑面ニハ、士ノ妻モ、皆孺人ト題シ、大夫ノ妻ヲモ、夫人ト題スル、漢以後ノ通例ニテ、只是尊神之辭トナリ來リシナリ、若シ、夫人ト稱スルヲ憚リ思ハ、孺人ト稱シテ、苦シカラズ、諸大夫以上ノ内室ハ、其夫ノ死後ナラバ、トハ、從五位伊勢守 | 私諡 | 加藤公夫人某氏之墓 | 從五位伊勢守 | 加藤君夫人某氏之墓 | 從五位伊勢守 | 加藤公孺人某氏之墓 | 從五位伊勢守 | 加藤君孺人某氏之墓 | ト題スルヲ法トス、或ハ、畧シテ其夫ノ存亡ヲ論セズ、夫ノ官爵ヲモ題セズシテ、唯其婦人ノ私諡

ト、氏トバカリナ、題シテ | 私諡 | 夫人某氏之墓 | 孺人某氏之墓 | 夫人之墓 | 孺人之墓 | 題スルモ可ナリ、

○無爵ノ諸士、及ビ處士ニ至ルマデ、生前學者ニテ號アル人ナラバ、スベテ、左ノ如ク題スベシ | 號 | 先生 | 君之墓 | 號 | 先生之墓 | 若シ號ナキ人ハ、號ノ代リニ字ヲ用ヒテ | 字 | 先生之墓 | 若シ先生トモ題シガタキハ、左ノ如ク | 號 | 氏 | 君之墓 | 字 | 氏 | 君之墓 | 若シ、生前號モ字モ、無キ、俗人ナラバ、戒名ノ院ノ字ヲ去リテ、私諡トキハ、メ、左ノ如ク | 私諡 | 氏 | 君之墓 | 隱居名アラバ、其隱居名ヲ題ス、或ハ翁ノ字ヲ加フ、 | 隱居名 | 翁某君之墓 |

○處士ノ墓表ニモ、極テ君ノ字ヲ入ル、ヲ、勿論ナリ、李于麟、

王元美集中ナドニ、處士ニテモ、公ト稱スルアリ、處士襲公
 墓誌銘 處士李公墓誌銘ト云ガ如シ、諸家ノ文集ニ、處士ノ
 妻ヲ、ヤハリ孺人ト稱セルアリ、又ハ、妻某氏ト稱セルアリ、配
 某氏ト題セルアリ、處士ハ、其人ニ由テ、諸士ノ格ヲ用フルモ、
 庶人ノ格ヲ用フルモ、可ナリ、例ヘバ 處士明霞先生字君之
 墓 處士 | 號 | 姓 | 先生之墓 處士 | 號 | 姓 | 君之墓 | 號 | 姓 | 先
 生 | 姓 | 處士之墓 處士 | 姓 | 號 | 先生之墓 | 號 | 姓 | 處士
 之墓 處士 | 姓 | 字 | 甫之墓 處士 | 姓 | 字 | 之墓 | 姓 | 處
 士之墓 右何レモ好シ、號モ、字モ、無キ、俗人ニテ、處士ノ二字
 ナ題セントナラバ、號ノ代リニ、私諡ヲ題シ、書法ハ、右ノ内ニ
 テ擇ミ用ユベシ

編輯長 安藤勝任
 出版人 木平讓

賣捌所本

東京小石川江戸川町十七番地
 同人社

東京兩國藥研堀町三十八番地
 報知社

- 同本町三丁目洋書問屋 瑞穂屋卯三郎
- 同室町三丁目中外堂 紀伊國屋源兵衛
- 同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚園 富士屋金十郎
- 同虎ノ門外琴平町二番地 靜霞堂
- 同春木町三丁目 中屋民次郎
- 同生込肴町九番地 深野彌兵衛
- 同神田美土代町四丁目 立花屋作太郎

同人社文學雜誌

第貳拾六號

明治十一年第七月二十六日

日本名家史論序

蘇言機ノ事

瑣格刺底ノ話

民約論序

山東字引序

中村敬宇

神津專三郎

晞賢子

中島雄

中村敬宇

橫濱辨天通四丁目

中屋銀次郎

大坂心齋橋通道修町

池田幸吉

大坂本町四丁目

報知社支局

甲府八ヶ町壺丁目

河内屋真七

武州熊ヶ谷本町

內藤傳右衛門

阿州徳島中通町貳丁目

博文堂

越後長岡

坂井萬吉

姫路俵町十六番地

大橋佐平

上州高崎田町三丁目

山野長兵衛

書肆 越後國龜田町二十七番地

文心堂

佐々木儀平

1. A word once uttered can never be recalled.
2. That you may be loved, be deserving of love.
3. Where honey is, there you will find bee.
4. When the cat is away the mice will play.
5. Make not thy tail broader than thy wings.
6. Believe an experienced man.

- | | | | | | |
|--|---|--|---|---|--|
| 6. | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| 宜 ^シ 信 ^ズ 閱 ^ス 歷 ^キ 深 ^キ 之 ^ノ 人 ^ナ | 勿 ^レ 使 ^ル 汝 ^ノ 之 ^ノ 尾 ^ヲ 廣 ^ク 于 ^テ 翼 ^ニ | 貓 ^ハ 不 ^レ 在 ^ル 之 ^ノ 時 ^ニ 則 ^シ 鼠 ^ハ 遊 ^ブ 嬉 ^ス 焉 | 蜜 ^ノ 之 ^ノ 所 ^レ 在 ^ル 則 ^シ 蜂 ^ハ 必 ^ズ 在 ^リ 焉 | 若 ^シ 人 ^ハ 愛 ^セ 汝 ^ヲ 則 ^シ 汝 ^ハ 宜 ^ク 有 ^リ 受 ^ル 愛 ^ス | 一 ^ノ 言 ^ハ 出 ^レ 口 ^{ヨリ} 則 ^シ 決 ^シ 不 ^レ 能 ^ク 喚 ^ヒ 回 ^ス |

文學雜誌第貳拾六號

○日本名家史論序

中村敬宇

余嘗謂論古今人物、不得不下以道理、爲權衡、以時勢爲度量、而此之道理、有時乎不可通於彼、至于時勢、則古今懸絕、邦國各異、且書之所記、不過大畧、或涉謬傳、况人之心意、不能無偏頗、無愛憎、故其論人物、得平允、決非易事、雖名家亦以爲難也、蘇東坡議論冠絕千古、然論范增、以其去當於羽之殺卿子冠軍時、論荀卿、以傲復不遜、自許太過、至曰李斯以學術亂秦、荀卿教之也、論留侯、以爲能忍、傳自黃石公、而教之於高帝、其文章、波瀾老成、無以尙之、然未知其所論、果能服三子之心乎、否、東坡且然、况其他乎、清田君嘿、示余以其所編日本名家史論、且問曰、誠如子說、則如茲書者、亦可以已乎、余曰、何其然、蓋論之平允者、讀之而有益固也、

乃其不平允者、縱雖不關古人之痛痒、而絕大道理、絕高識見、或由是以顯焉、如東坡范增論、起增於九原而質之、則必笑而不受矣、然其言人之去就、宜知機而速決、則可長人識見、其論子房、始無當于子房、然其言能忍不忍二者、可以決大事之成敗、絕大道理、剔發無餘蘊、豈不大有益于後人乎、其論荀卿、極欠平允、冤亦甚矣、然陳高談異論之害、則正大之言、痛快之辨、不啻若秦華峙、而江河流也、由是觀之、凡諸名家史論、毋問其平允與否、讀之無不有益、神而明之、存乎其人、刻告竣、遂書以為序、

○蘇言機 自言機ト譯ノ事

神津專三郎

米國新聞「ハーパース、ウエークリー」ヨリ抄譯

ウッチクラフト〔幻術〕ノアルベキヲ信ズルノ日タルヤ、往テ既ニ久シ、モシ、否ラズンバ、我邦ノ古史ニ乗テ、昭カナル幻術驅

逐者ノ如キハ、今ナホ「トリビューン」紐約府新聞紙中館中ニ於テ、牲ノ豊秋ヲ收ムルヤ、ソレ易シ、是奇世ノ奇タル二種ノ本營ナリ、嚮キニ、電線ヲ以テ、人聲ヲ通ズルノ成否ヲ論難セシメ、人心ヲ驚シタルレフホニ「談話電機」モ、今日ニ至テハ、蘇言機ト名ヅクル新異ノ爲ニ、廢蝕セラレタリ、此一小機ハ、ヨク人音ノ言語ヲ記録シ、而シテ信ナキ同謀ノ如ク、之ヲ要セラル、キハ、毎ニ須ラク、其密事ヲ吐露セリ、此機械ハ、或ハ語リ、或ハ唱へ、或ハ叫キ、或ハ咳シ、或ハ噎メシ、或ハ他ノ言語ノ藝ヲ倣シ、加之ヨク、仙女ノ妙音ヲ發シ、ヨクストリトアラ
グ〔路唄〕ノ奇調ニ熟スル者ノ如シ、
頃者、我「ハーパース」ノ探報者ハ、學術ナキ人トシテ得ベキ所ハ、須ラク此一小機械ノ妙用ヲ明カニセント欲シ、往テ蘇

言機ヲ一覽セリ、其方ニ到リシキハ、アダカモ、彼ノ「バーナム」氏ノスピークンクマシオン〔會話機〕ニ於ケルガ如ク、其言語不分明ニシテ、世ニ棲ム人ノ得テ解スベカラザル稍五六言ヲ發スルニ過ズシテ、ウエーツブレースレバースバンツ〔分銅滑車木條帶紐〕ノ巧ナル備アラフヲ望ミシニ、豈計ンヤ、一ノ圓筒シリンドルヲ除クノ他ハ、殆ント近世ノフルーチンクマシオン〔吹笛機〕ニ異ナラザル單純ナル機械ノ名モ高キ蘇言機ナルヲ知テ驚クニ堪タリ、此シリンドル〔圓筒〕ハ、眞鍮ニシテ、中、空洞ナリ、而シテ、一條ヲ以テ、之ヲ貫ケリ、條ノ一端ハ、車輪ヲ以テ、終リ、一端ハ、クランク〔曲折柄〕ヲ以テ、終リ、以テ、其回轉ニ便ナラシメ、而シテ、之ヲ二箇ノ鐵柱上ニ安ンゼリ、圓筒ノ前面ニ、活用自在ナルアーム〔腕木〕アリ、「ゴッタメルカ」ノマウスピース〔口盤〕ヲ支ヘリ、此口盤ノ

下部ニ、チンタイプ〔錫板〕製造ニ用フルモノ、如キ、薄金ノジスワスキカチク〔鼓面〕アリ、其裏面ニ方テ、スチールポイント〔鋼製尖頭〕アリ、口盤ノ縁ヨリ出ハシル彈弓ヲ以テ、之ヲ支フ、圖ノ如シ、此尖頭ト、鼓面ノ間ニ、ゴムノ小枕ハシアリ、彈弓ノワイブレーション〔振搖〕ヲ制御セリ、圓筒ノ表部ハ、左ノ端ヨリ起リ、遠テ右ノ端ニ至テ終ル、螺絲クボミ壕アリ、蓋ク之ヲ覆ヘリ、愈、蘇言機ヲ使ハント欲スルノ際ニ臨テ、第一ニ做スベキ事ハ、マツ密コチンフマイル〔錫片〕ヲ圓筒ニ卷付ケ、然レ後ニ、人聲ヲ以テ、鼓面ニ生ズル振搖ノ尖頭ヲ、錫片ヲ螺絲壕ノ上ニ壓セシメ、以テ少シク「モールス」電信ノ文字ニ齊シキ凹澤ボグミヲ其表面ニ生ゼシムベキ位地ヲ過ラザランガ爲ニ、口盤ボグミヲ圓筒ノ左端ニ備フルニ方テ、最モ注意シ、之ヲ尖頭ノ常ニ螺絲壕ノ中央ヲ壓スベキ位地ニ備ヘ、

螺旋轉ノ曲折柄ヲ以テ、圓筒ヲ右ヨリ左ニ回轉シ、其回轉中、
之ヲ使用スル者ハ、口ヲ口盤ニ當テ、通常談話ヨリ、稍高キ音
調ヲ以テ、言フキハ、其聲ノ薄金鼓面ニ生ズル振搖ニテ、尖頭
ノ錫片上ニ、每語ヲ記録スルヲ、眞ニ驚クニ堪ヘタリ、此言語
ヲ記録スルハ、圓筒殆ンド、一轉毎ニ、一語ノ割合ナリ、
蓋シ、言語ヲ蘇發セシメ、即チ機ヲ自カラ言ハシメント欲
スルニハ、圓筒ヲ逆轉シ、以テ鋼製尖頭ヲ、既生ノ凹澤ヲ傳
フテ、錫片上、再ビ終ニ始ニ戻ラシメ、其狀殆ンドスピーン
クトランベツト〔會話喇叭〕ニヒトシキフンチル〔漏斗〕ヲ、彼ノ口盤
ニ付ケ、以テ音音ノ放散ニ備ヘ、然レ後、曲折柄ヲ更ニ回轉ス
ルキハ、向キニ口ヲ口盤ニアテ、イヒシ言語ハミナ判然トシ、
少シモ、違ハズ、彼ノ漏斗ヨリ蘇生セリ、

此ノ如ク鼓面ハ、或ハチンパナム〔聞聽膜〕トナリ、或ハダイア
フラム〔橫隔膜〕トナリ、始メニハ、之ヲ聽キ、終リニハ、之ヲ語リ、
是故ニ、以爲ラク、蘇言機ハ、現ニ靈妙ナル天造機タル人躰ニ
卓越セリ、ソレ體部ノ經營ニ就テ、考フレバ、人類ノ由テ以テ
聽クヲ得、語クヲ得ル所以ノ方法ハ、啻ニ各其區域ト、主能ヲ異ニ
スルノミナラズ、ナホ蘇言機ノ同シク此業ヲ做ス所以ノ方
法ニ比スレバ、遙ニ煩雜ナリ、
蘇言機ノ爲ニ、其固有ノ良能ヲ奪スル者ハ、動物中ヨク言語
ノミトハ、事物ノ理ヲ解スルハレシ人類ト、此奇機ヲ比較ス
ルニ際シ今コ、ニ此機械ノ良範善行ヲ舉ルハ、無用ニ屬サ
バルヲ信ズ、抑此蘇言機ハ、人ノ之ニ語ラザルキハ、マタ其決
シテ、人ニ語ルヲナシ、故ニヨク嚙々啞々タル人民ヲ警戒セ

リ、マタ蘇言機ハ、主張スヘキ原按チ有セズ、然リト雖ヒ、熟考セザル想像ト、深慮ナキ妄計ニ陥リテ、國家チ危フセシムベキノ恐レナキ温良中和ナル精神ヲ具フ、故ニマタ非望アリテ、經驗ナキ、多クノ著述家ニ貴重ナル諫言ヲ呈セリ、蘇言機ハ、タゞ之ヲ統轄スル心志ノ欲スルトコロニ從テ、ヨク世人ヲ驚カシムル者ナリ、故ニ其將サニ技ヲ著ハサントスルヒハ、一人之ヲ誘導スル者ナキ能ハズ、本日此任ニ當リシ者ハ、新約克談話電機會社大總裁維廉亞李爾鋒君ナリキ、
 亞李爾鋒君ハ、機前ニ坐シ、蘇言機ノ心志ヲ敏達セシムルコアラズ、タゞ、蘇言機ヲ歴ミント思ハルベキ人名、數、詩句、戯歌及ビ其他ノ偏言單語ヲ鼓面ニ述ベシカバ、其言語ハ、逐一曲折柄ヲ以テ、回轉スル圓筒ヲ覆フ錫片ニ印記セリ、而后チ此

鼓面ヲ最初ニ發セシ位地ニ戻シ、再ビ曲折柄ヲ回轉シ、而シテ銅製尖頭ヲシ、錫片ト密接セシメシカバ、蘇言機ハ、直ニ判然タル言語ヲ以テ、先ニ人名ヲ呼ビ、數ヲ算ヘ、己ノ特有スル良能ヲノベ、己ノ名宛ヲ示シ、終リニ、一詩句ヲ吟咏セリ、其誌ニ曰ク、

人アリ其名チ亞父アッパ「チッド」トイヘリ、

彼死シテ後已ニ久シ已ニ久シ、

其頭頂ニ毛髮ノ存スルナカリキ、

是毛髮ノ生ズベキ所ナルチ、

コノ詩句ヲ以テ、終リシハ、蘇言機ヲ論ズル者ノ思想ヲシテ、感發セシメシトコロアリシヤ明ケシ、蓋シ本日ノ來衆ハ、各種ノ混合ニシテ、較同情ナラザル者ナリシト雖ヒ、ミナ蘇言機ノ

亡乎タル手頭ノ接觸
逝矣シ音聲ノ響

ヲ發スベキノ期ヲ望ミシカバ、
方今、蘇言機ハ、ナホ其幼時ナリトイフベシ、蓋シコノ發明ハ、
偶然ノ功ニシ、而シテマタ其大成スベキ進歩ニ就テハ、思考ノ
至ラザル所ナリ、抑モ、其發明者タル、名譽ヲ無窮ニ傳フルモ
ノハ、有名ナル電學家ニシテ、博士德馬士以慈孫トイヘリ、氏ハ
嘗テ談話電機試驗中、談話ノ際、呼吸スル中ト均シク該機械
ニ屬スル鼓面ノ振搖セシカバ、圖ラズ其情狀ヲ偶察シテ、以
爲ラク、此振搖ヲ記録シテ、復生セシムルコトノ豈ニ得ベカラ
ザルモノアラシヤト、於是、之ヲ試ミント欲シ、直ニ一機械ヲ
製セリ、ソノ結果ハ、即チ此蘇言機トハナリタリ、此一小機ハ、

不日ニシテ、完全至高ノ度ニ達スベキコト疑ナシ、然ルキハ、則チ
マタ公行唱歌及ビ演說ノ諸學科ニ於テ、一大改革ノ起ラン
コト必セリ、夫蘇言機ヲ以テ、之ヲ收握シ、之ヲ施行スルキハ、當
時ノアラユル諸大家ハ、イフモ更ナリ、ピルアントシシガト
スナダカキツタヒコ〔名唱子〕ピルアントアクトレツヒスナダカキマヒコ〔名妓子〕ニ至ルマデ、悉ク
掌中ノ所有トナシ得ベカラザルノ所以ナシ、何地ヲ論ゼズ、
其一度ビ唱歌演說スルキハ、其言語音調ハ、蘇言機ヲ以テ、之
ヲ捕攫スルヲ得ベシ、其談論唱咏セシ所ノモノ、正ニ記録
セル錫片ハ、之ヲエレクトルタイプ〔電板〕ニ印行シ、其出板ハ、
一部幾何ノ價ヲ以テ、販賣スルキハ、此等ノ小機械ニ、聊カ物
品ヲ費スニ過ギズシテ、爾後ハ、地球上ニ於テ、名聲ヲ轟カス
諸大家ノ談論タリト、自己ノ室内ニ於テ、之ヲ聽カント欲セ

ハ恒ニタマ一ノ曲折柄ヲ回轉シ、又ハ時計狀製ノ如キウオ
ーク〔作工〕ヲ自轉セシムルコト由テ、容易ニ得ベキナリ、

○瑣格刺底ノ話

聆賢子

瑣格刺底ハ、希臘古代ノ賢者ナリ、不幸ニシテ、不正ノ處斷ヲ
受ケ、死刑ニ當セラレ、獄中ニ在テ、處刑ノ日ヲ俟ツ、一日、其友
格里的曉ニ乗ジ、獄舎ニ至リ、之ヲ訪フ、瑣格刺底、尙眠ル、乃チ
徐ニ入テ、床下ニ跪キ、其覺ルヲ俟ツ、既ニシテ、瑣格刺底、寤テ
訊テ曰ク、君何ノ故ニ、早ク來ルヤト、格里的曰ク、君ノ處刑ノ
期、既ニ明日ニ在リト、瑣格刺底、顔色變ゼズ、從容トシテ、答テ
曰ク、然ルカ、是亦眞神ノ命ナリト、是ニ於テ、格里的、既ニ獄監
ト謀リ、門ヲ開クヲ約シ、且義沙里ニ於テ、身ヲ匿スニ宜キ所
アルヲ以テ、之ニ語ル、瑣格刺底、戲テ問テ曰ク、君ハ不死ノ地

アルヲ知ルカト、格里的、是ニ於テ、心思ヲ究メ、理情ヲ解キ、先
ツ、其本國ヲ愛スルノ名義ヲ以テ、雅典人民ヲシテ、不辜ヲ殺
スノ非ヲ行ハシメザランコトヲ謂ヒ、次ニ、朋友ノ名義ヲ以テ、
吾ヲシテ、交誼ニ疎慢ニシテ、其友ヲ、死ヨリ出ス能ハザルノ
譴ヲ免ル、ヲ得セシメヨト謂ヒ、終ニハ、其兒輩ヲ教育保護
スルニハ、必ラズ、父ノ存在セザル可カラザルノ情ヲ謂ヒ、以
テ其死ヲ免レンコトヲ獎勵セリ、瑣格刺底此友誼ノ豪俠ニシ
テ、懇篤ナルヲ感謝セシガ、其勸ニ從ハズ、之ニ示スニ、大凡、人
民タル者ハ、曾テ其本國ニ叛クノ權理ナキヲ以テノ故ニ、其
裁斷ヲ非トシテ、自ラ免ルハ、是叛民ナルヲ以テシテ曰ク、縱
令我本國、吾ヲ罰スルニ、不正ナルモ、吾ニ於テハ、之ヲ犯スノ
權ナシ、本國ハ、吾ノ上ニ在テ、諸種ノ權ヲ有セリ、吾ハ、權ノ之

ニ優レル者ヲ有セズ、吾ハ嘗テ法律ニ從順スルヲ誓ヘリ、
恣ニコノ其誓ヲ破ルベカラザルナリト、瑣格刺底、コノ語ヲ
吐テ、一意ニ之ヲ主張シ、謂テ曰ク、モシ吾獄ヲ脱スルニ當リ、
法律、化シテ、人ト爲リ、來テ獄門ノ闕ニ在リ、吾ニ向テ、汝宜ク
義務ニ服スベシト命スルヲアラバ、吾其レ何ノ詞ヲ以テ、之
ニ應ヘン、請フ、之ヲ教ヘラレヨト、コノ譬喩ハ、真ニ神妙ニ
テ、説服スベカラザルノ詞ナリ、遂ニ又謂テ曰ク、吾兒輩ノ如
キハ、吾朋友卿等以下其人アラン、且天當ニ渠ヲ棄テザルベ
ス能ハズ、涙ヲ垂テ、出去リシトゾ

○民約論序

吾讀周禮初知周公之在二千五百餘年前、早既爲民權家也、周

中島雄

公之制禮也、使男子四十初仕、五十命爲大夫、此所謂男子者、總
稱閭國之男子也、推究此意、蓋周公欲與參政之權於閭國之男
子者、乃可謂之民權論者之始祖而已、然民權論者、亦不可不知
周公之所謂教、其閭國男子者、六年教之數、與方名而別、而讓、而
禮樂射御、比及強仕之年、正心誠意之道、至治國平天下之術、莫
不既教而盡焉、乃使之參政務、宜矣、其能與成周之隆治也、若夫
使不學治國平天下之術、不知正心誠意之道者、嘈々乎曰、民權
民權、其弊也、不誘之爲輕躁、爲狂暴、遂爲其王、其後、積流之
極、失其千載赫奕之國光、一千七百年代之法蘭西人者、敬字先
句幾希矣、頃者、友人某、譯蘆騷民約論、公行之、于世、蘆騷、西國民
權家之領袖、而民約論、其一代之大手筆也、以辨言見屬、因述愚
見如是、

目_二周公_一以_二民權家_一、妙々、化_二腐臭_一爲_二神奇_一、其曰_二今之法蘭西不_レ及_二三代之周_一、大足_レ警_二醒世人_一之耳目、敬字評

○山東字引序

中村敬字

余生_二於麻布丹溪_一、繞_レ家多_二梅樹_一、兒時、好登_レ木、輕躡跳躑、猶_二猿猱_一然、每_二夏日_一、蟬聲滿_レ林、則以_二紙袋_一、掛_二竿頭_一、以捕_レ蟬、三伏炎天、赤脚踏_二瓜田_一、捕_二蜻蜒_一、爲_レ嬉、嘗一日計_レ之、殆六七十矣、及_二至冬日_一、則出_二南檐下_一、在_二母氏針帶側_一、玩_二書冊_一、爲_レ嬉、中有_二四聲字引_一、余翻來翻去、不_レ忍_レ釋_レ手、酷愛_二字之多_一、畫者、以_二剪刀_一、切_二斷電鼈_一、語鸚、蠱龜、等字、或糊而貯_レ之、或信_二風吹去_一、母氏笑而不_レ問也、頃山東君著_二字引_一、其書之度_二越於尋常_一、不_二必待_二余贊_一、特舉_二兒時之事_一、以書_二吾感_一、嗚呼、今後世之兒童、登_レ木捕_レ蟬之餘、所_二翻弄者_一、非_二四聲字引_一、而山東字引也、

編輯長 安藤藤任

出版人 木平讓

賣捌所

東京小石川江戸川町十七番地 同人社

東京兩國藥研堀町三十八番地 報知社

同本町三丁目洋書問屋 瑞穂屋卯三郎

同室町三丁目中外堂 紀伊國屋源兵衛

同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地珊瑚閣 富士屋金十郎

同虎ノ門外琴平町二番地 靜霞堂

同春木町三丁目 中屋民次郎

同牛込肴町九番地 深野彌兵衛

同神田美土代町四丁目 立花屋作太郎

横濱辨天通_{四丁目} 中屋銀次郎
池田幸吉

大坂心齋橋通道修町 報知社支局

大坂本町四丁目 河内屋真七

甲府八ヶ町壺丁目 内藤傳右衛門

武州熊ヶ谷本町 博文堂

阿州徳島中通_{町貳丁目} 坂井萬吉

越後長岡 大橋佐平

姫路俵町十六番地 山野長兵衛

上州高崎田町三丁目 文心堂

越後國龜田町二十七番地 佐々木儀平

